千年先も
愛してる

Diko.

akim
2023.01

Stay with me

八軒屋ねこ
だから…
そんなに退屈なら
ウチに住みゃいいだろ
お前が飽きて
イヤになるまで
ずっとウチにいろよ
!
…ね
ねえねえ
それってプロポーズ?
……
ねえってば!
……まあ

CHESTER × ARCHE PROPOSAL ANTHOLOGY

A Thousand Years

-AC.4304-

当冊子は「チェスアーのプロポーズが100万通り見たい」という
主催二人の欲望丸出しから始まった非公式アンソロジーです
公式関係者様とは一切関係がございません

テイルズオブファンタジアのメインキャラであり
公式の外伝小説『魔剣忍法帖』では
結婚・そして二人の子供まで描かれている
チェスターとアーチェの
プロポーズをテーマにした
アンソロジーです

チェスアーの有り余る可能性と
執筆者21名通りの愛情溢れる素晴らしい作品を
どうぞお楽しみくださいませ！

主催：sawara　くこみ

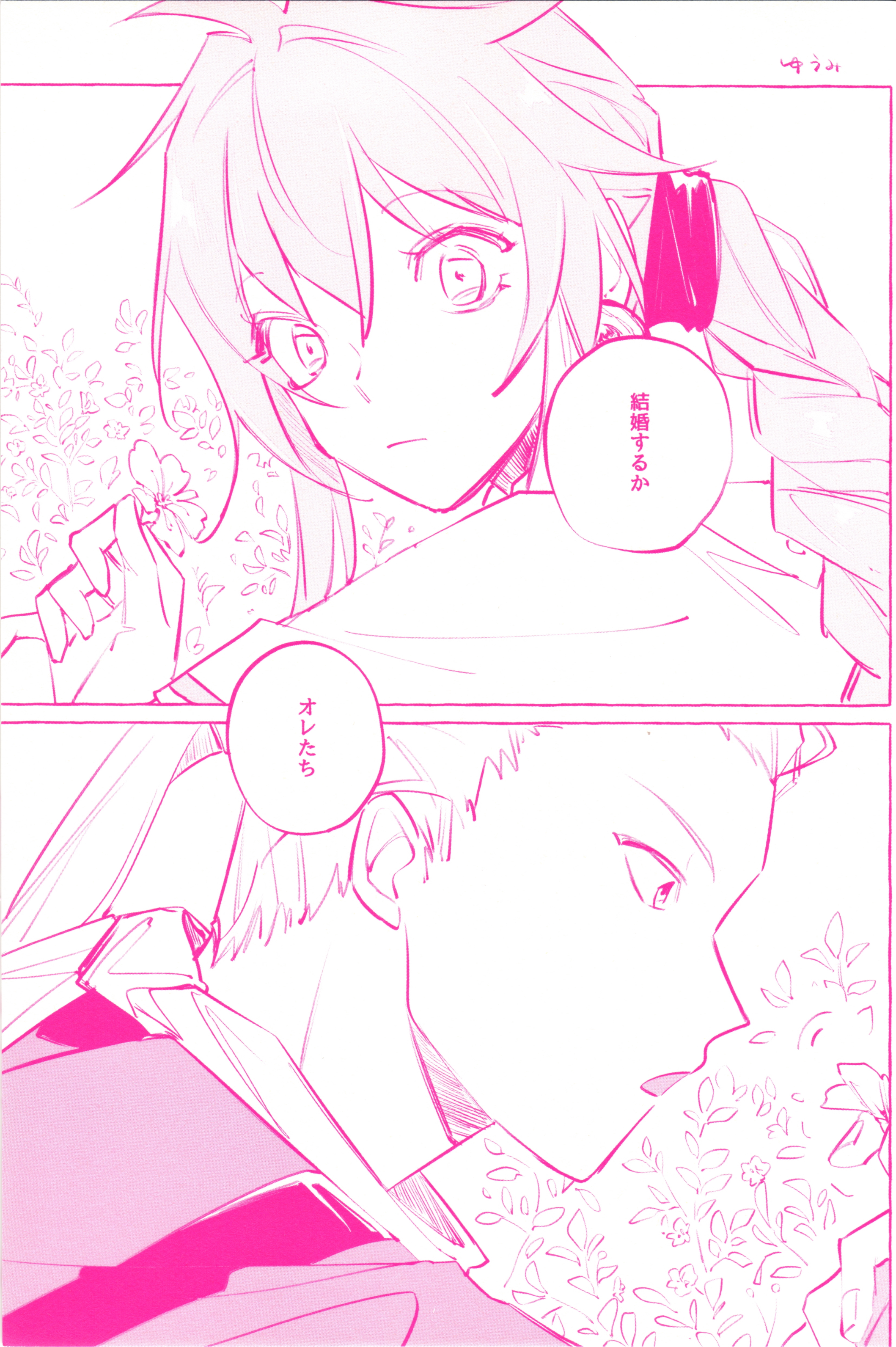
千年先も愛してる

Chester × Arche proposal anthology

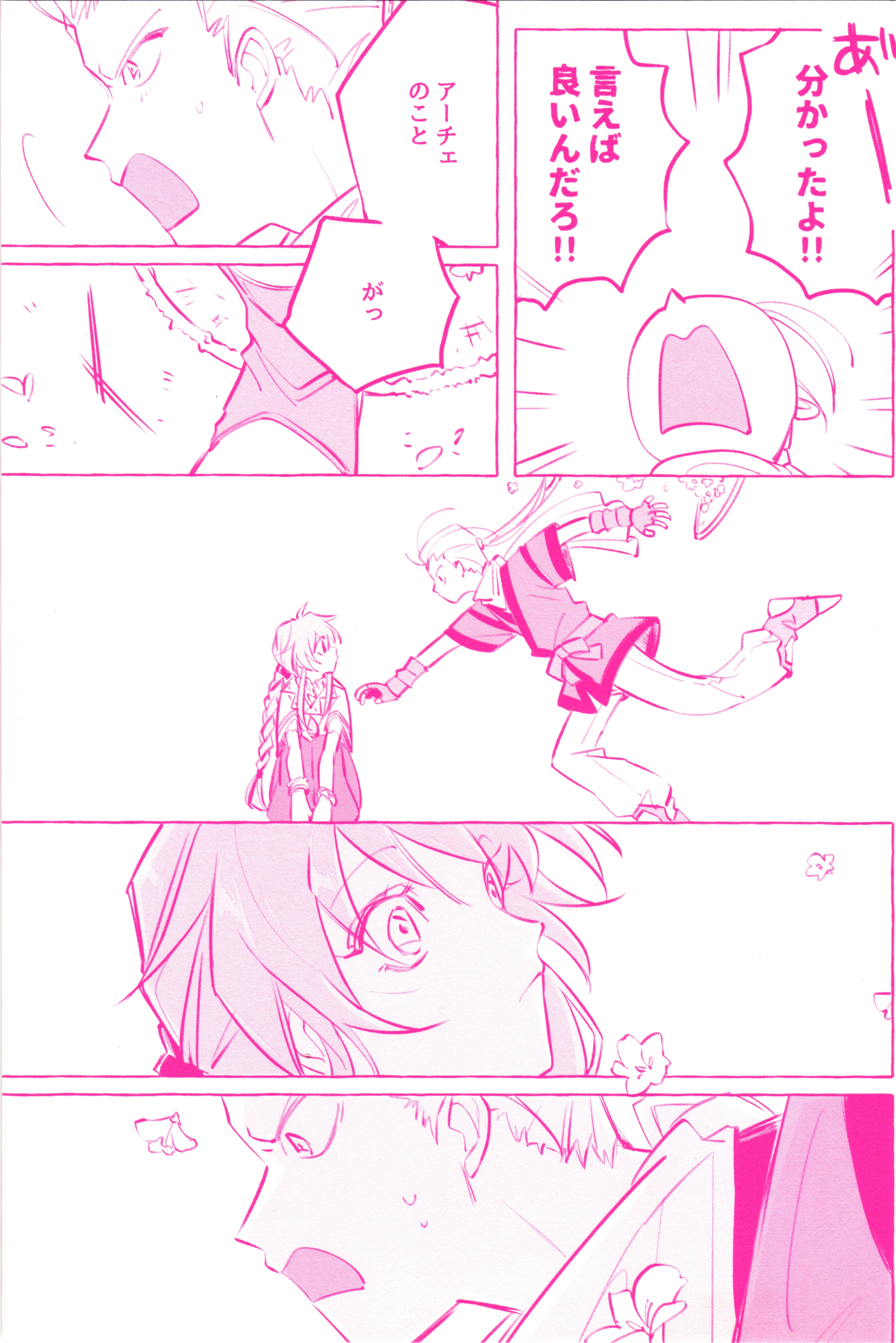
003 ぴぃこ　どこだって、つかまえて
004 あきも
005 フジオミ
006 八軒屋ねこ　happy happy!
009 ゆうみ
015 貴陽　幾年月
025 栗缶
032 ホタルユキ　旅の終わりは　未来の始まり
043 みずか
046 生春巻き
049 ゆ　一生分の愛を
059 とおい　かくれんぼ
071 こもも　チェスアープロポーズミーティング
078 まぎ子　愛しの魔女に花束を
089 mimo　黄昏時の永遠
099 山田ちう
103 coro
107 たかはる　スタートライン
113 sawara　swear by you
124 くこみ

135 チェスアー世論調査結果発表
142 奥付
表紙裏デザインイラスト　森野きこ

ゆうみ

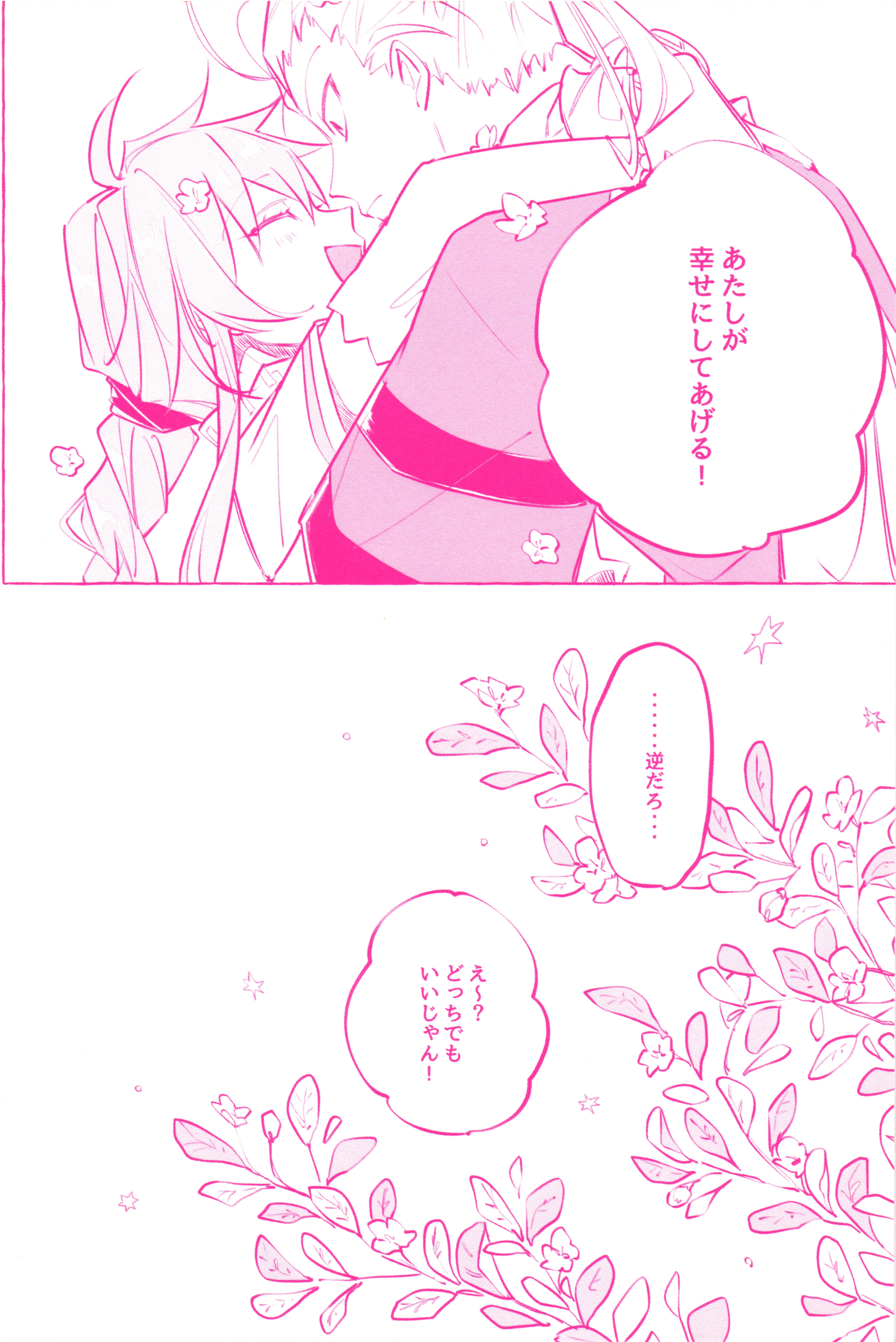


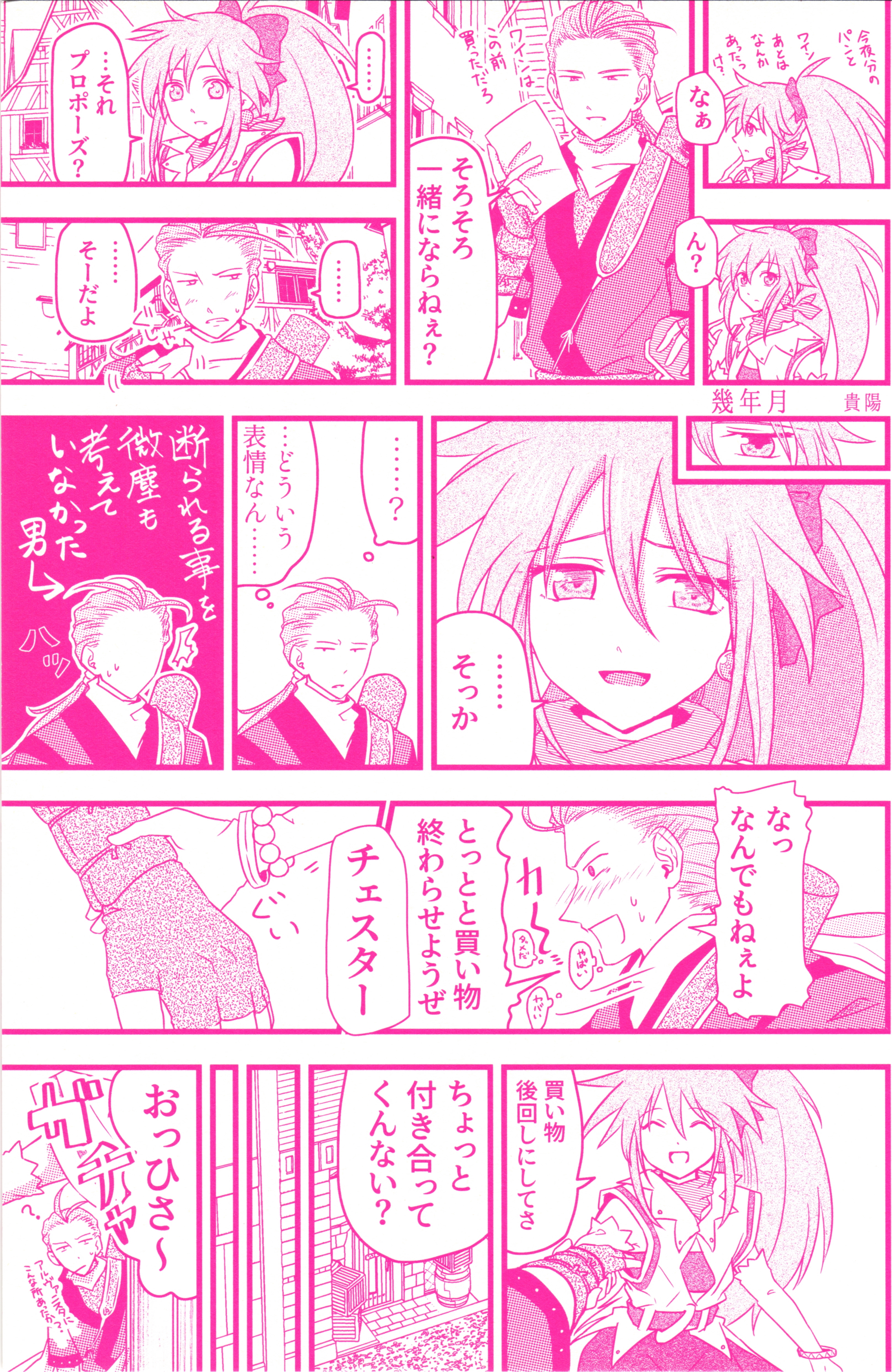
だ・・・
誰と誰が・・・?
いや
「オレたち」って言ったろ
話聞け
毎日毎日トーティスと自分の家行き来するくらいなら住んだ方が良いだろって
それでなんで結婚なワケ!?
・・・なんでって・・・
そりゃ・・・
!
つーか
なんだよ
嫌なのかよ
嫌に決まってんじゃん!
ピクッ
ぷいっ
そんな理由じゃお断りだもんね

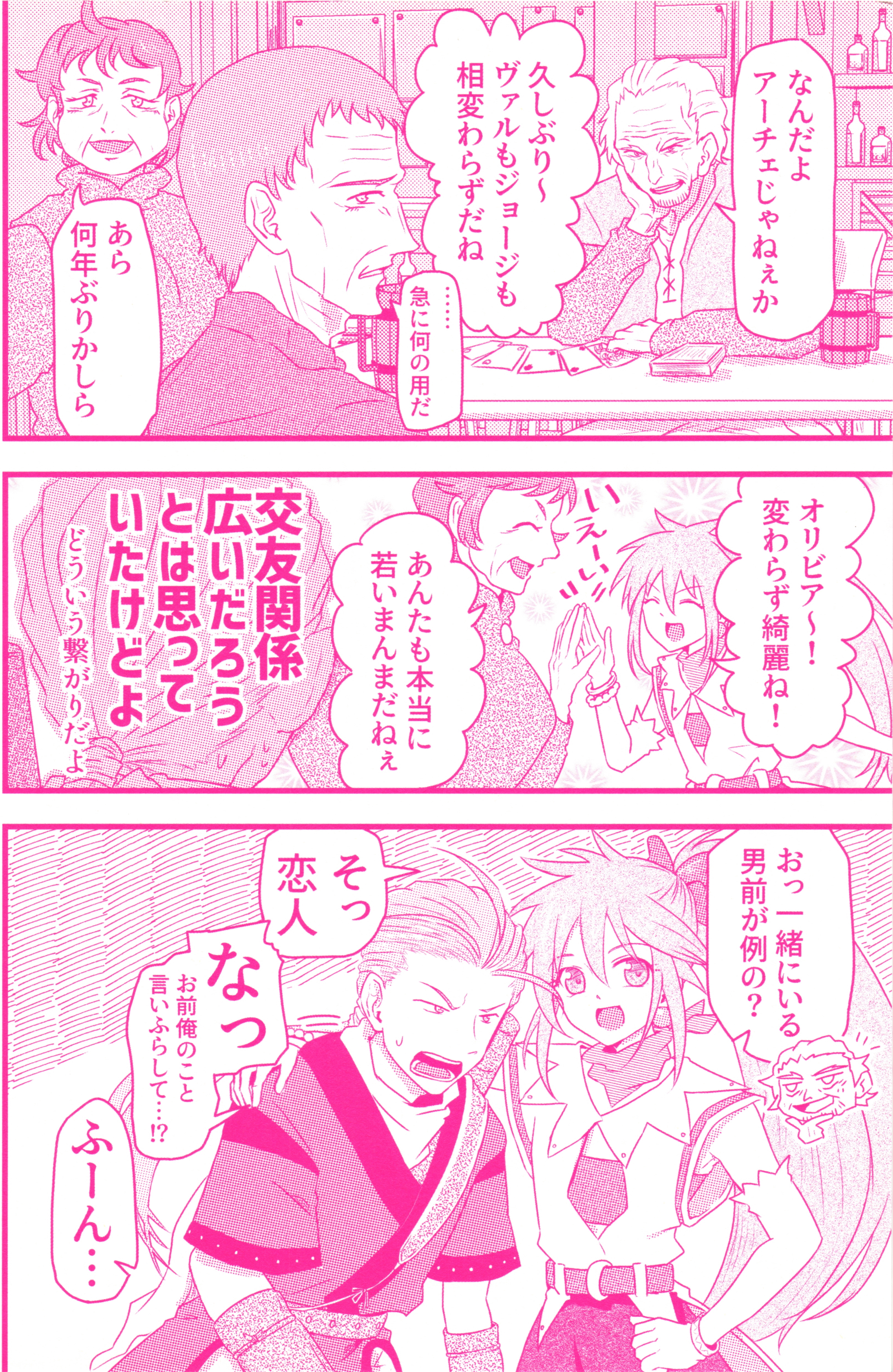

あ゛
分かったよ!!
言えば良いんだろ!!
アーチェのこと
がっ

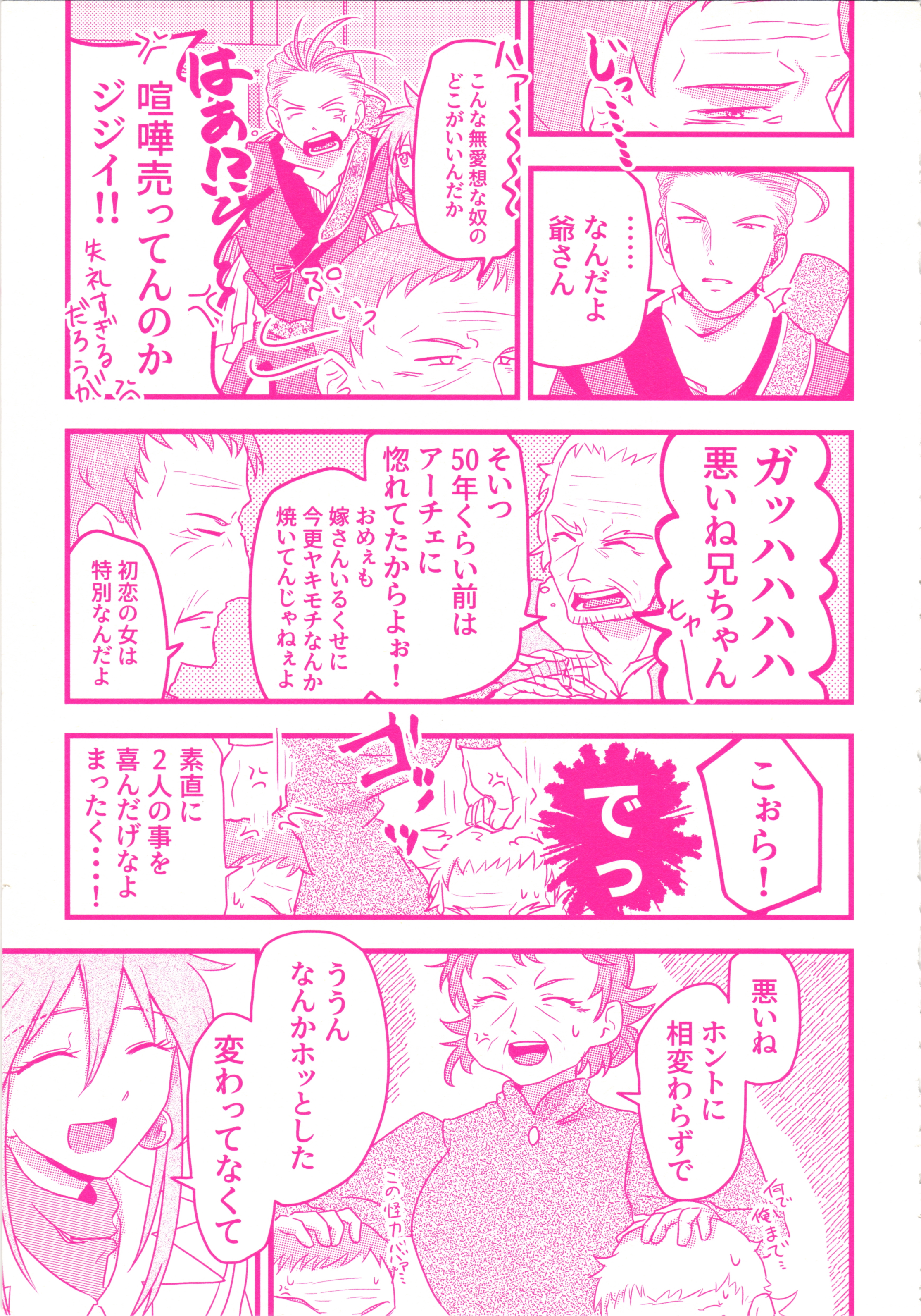
好きだから
結婚してくれ!

ぷっ
あははは
チェスター可愛い～
も…
そんなにお花かぶっちゃって！
アーチェテメエ・・・
なに笑ってんだ・・・
人の本気を…
いいよ

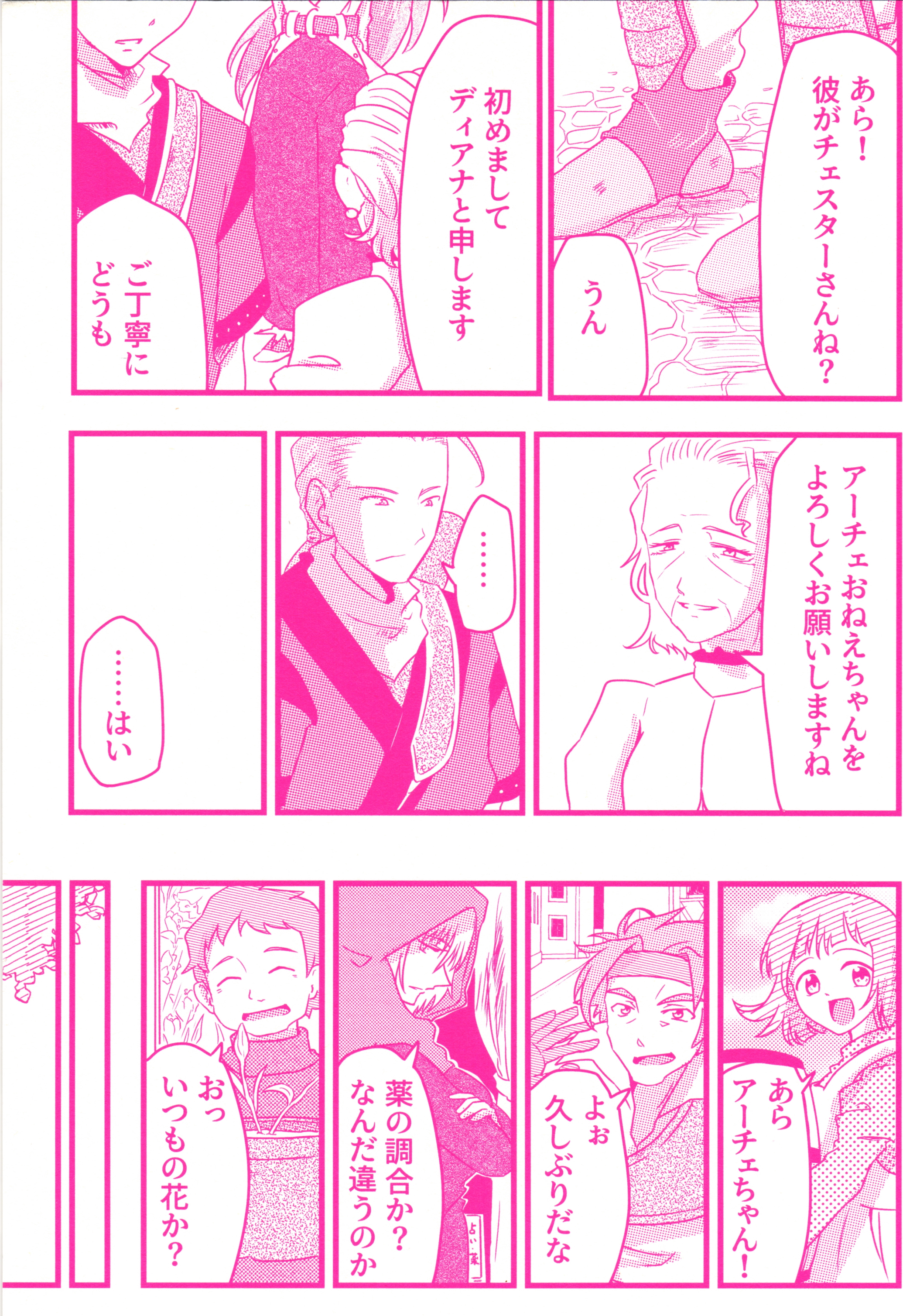

あたしが幸せにしてあげる！
……逆だろ……
え～？どっちでもいいじゃん！

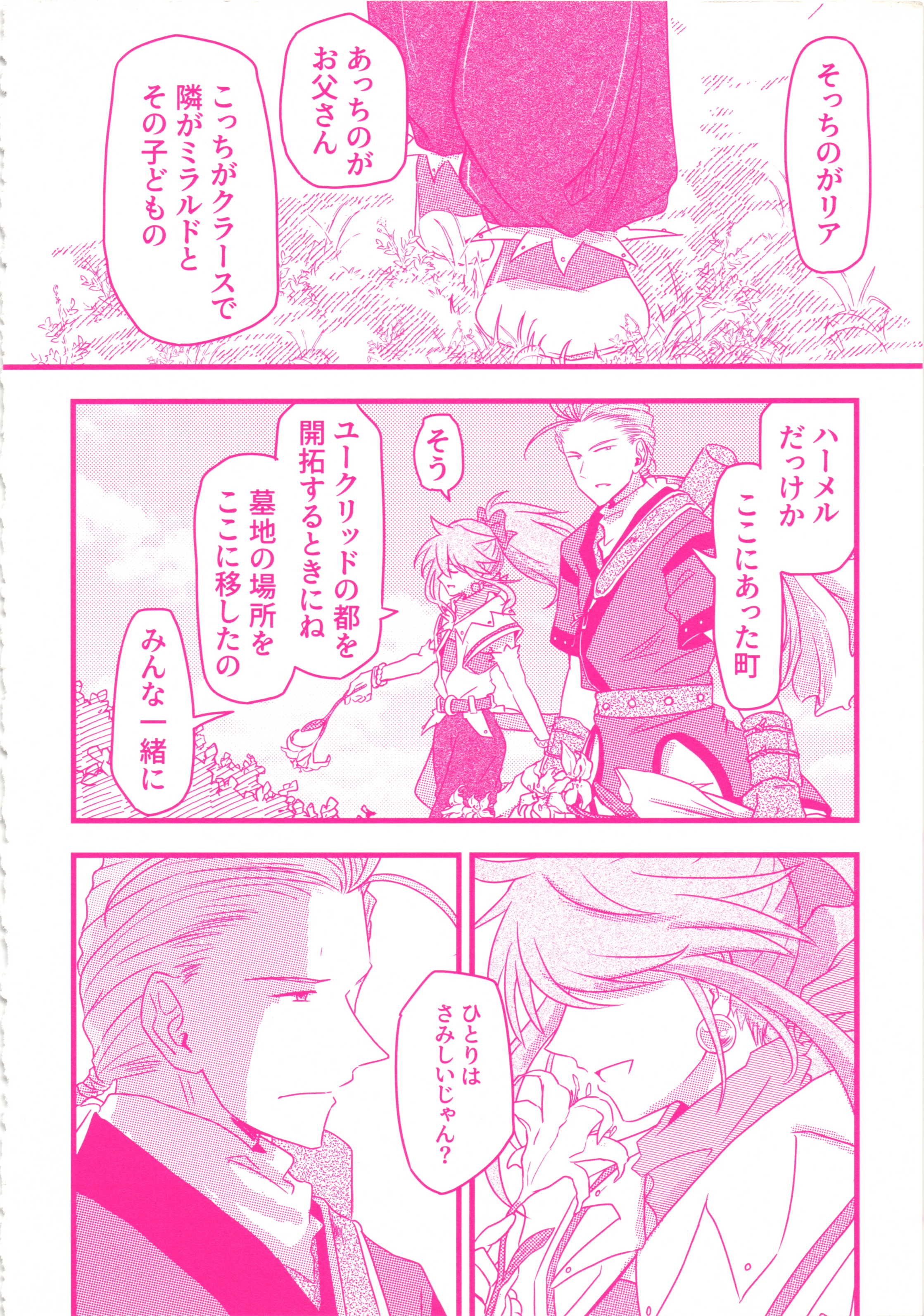

今夜分のパンとワインとあとはなんかあったっけ?
なぁ
ワインはこの前買っただろ
そろそろ一緒にならねぇ?
ん?
……
…それプロポーズ?
……
……そーだよ
ぐしゃ
幾年月 貴陽
……そっか
……?
…どういう表情なん……
断られる事を微塵も考えていなかった男→
ハッ
なっなんでもねぇよ
やばい
ダメだ
とっとと買い物終わらせようぜ
チェスター
ぐい
買い物後回しにしてさ
ちょっと付き合ってくんない?
おっひさ~
ガチャ
?
アルヴァニスタにこんな所あったか?

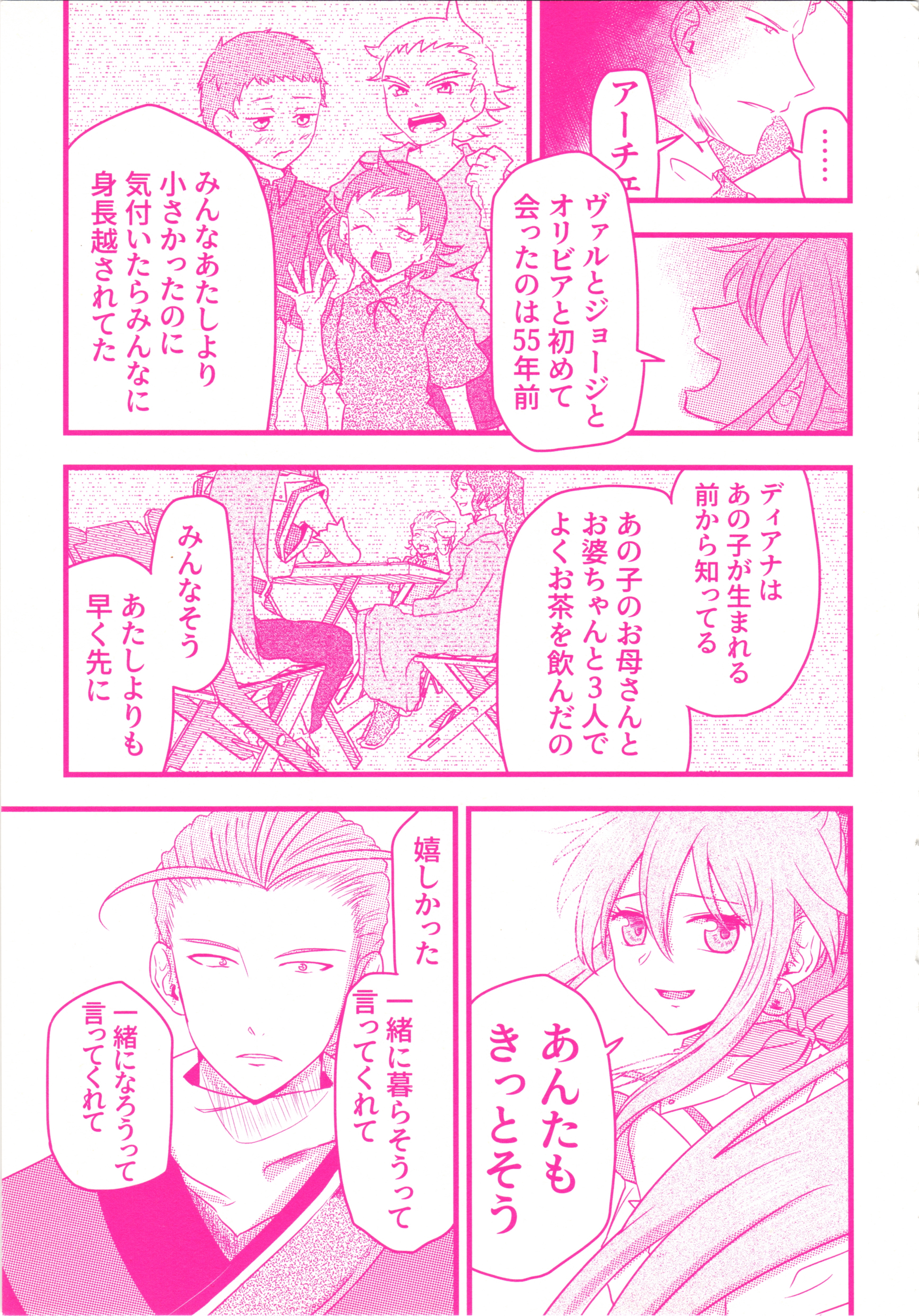

なんだよ アーチェじゃねぇか
久しぶり～ ヴァルもジョージも 相変わらずだね
……急に何の用だ
あら 何年ぶりかしら
オリビア～！ 変わらず綺麗ね！
いえ～い
あんたも本当に 若いまんまだねぇ
交友関係 広いだろうとは思っていたけどよ
どういう繋がりだよ
おっ一緒にいる 男前が例の？
そっ 恋人
なっ
お前俺のこと 言いふらして…!?
ふーん…

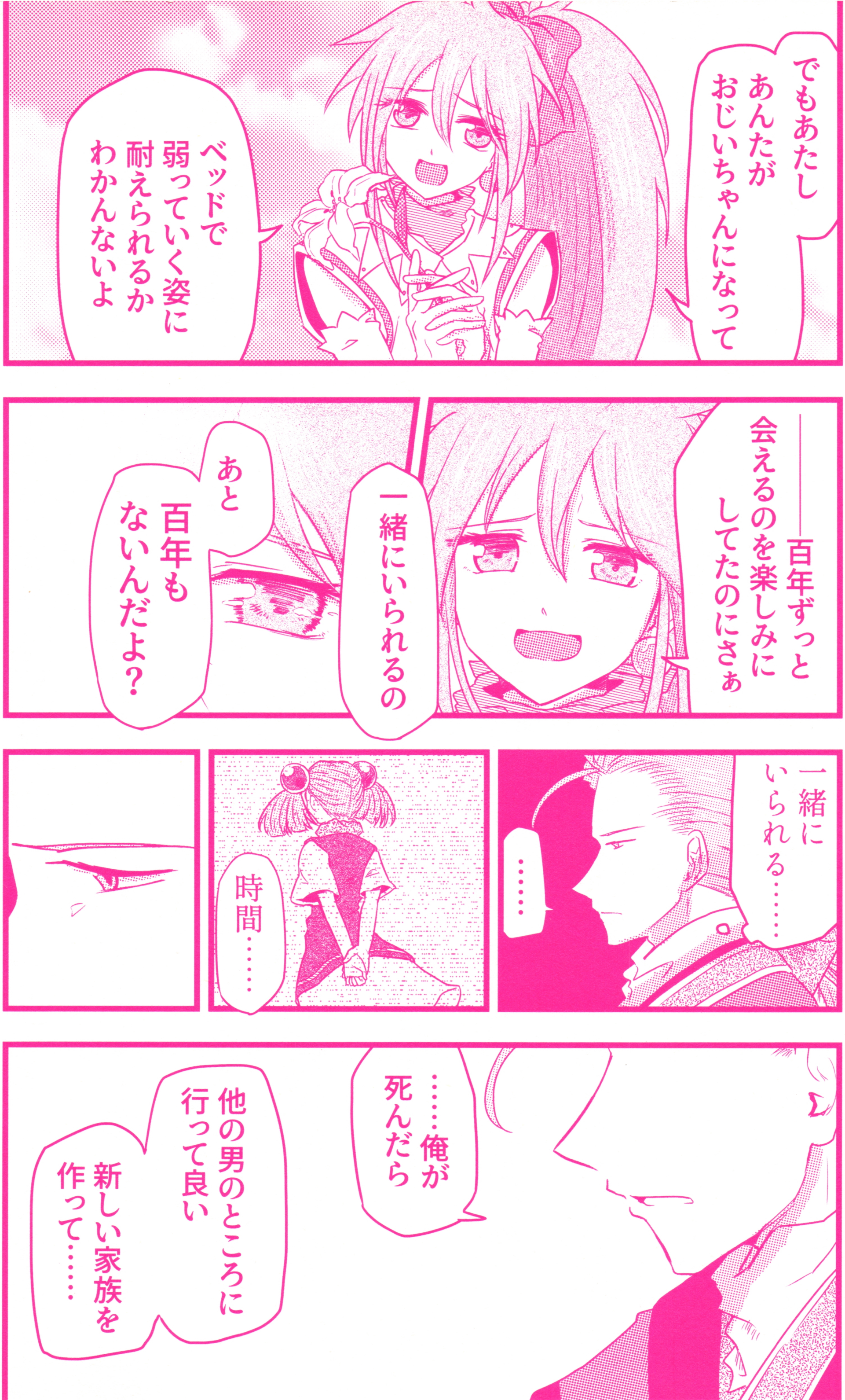

じっ
……なんだよ
爺さん
ハァ〜〜〜
こんな無愛想な奴のどこがいいんだか
はあ!?
喧嘩売ってんのかジジイ!!
失礼すぎるだろうが
ガッハハハハ
悪いね兄ちゃん
ヒャー
そいつ50年くらい前はアーチェに惚れてたからよぉ!
おめぇも嫁さんいるくせに今更ヤキモチなんか焼いてんじゃねぇよ
初恋の女は特別なんだよ
こぉら!
でっ
ゴッ
素直に2人の事を喜んだげなよまったく・・・!
悪いね
ホントに相変わらずで
ううん
なんかホッとした
変わってなくて
何で俺まで…
この怪力ババァ…

………
チェスターさんだったたね？
あぁ
幸せにね
…はい
ありがとうございます
アーチェおねえちゃん
久しぶり～！ディアナ腰は大丈夫？
この前もらった薬ですっかりよぉ
…ふふっいやだわもう私の方がおばあちゃんなのに
まだあなたのことを『おねえちゃん』だなんて
なに言ってんのよ～！あたしの方が年上なのは変わらないんだからね！


あら！彼がチェスターさんね？
うん
初めまして ディアナと申します
ご丁寧に どうも
アーチェおねえちゃんを よろしくお願いしますね
……
……はい
あら アーチェちゃん！
よぉ 久しぶりだな
薬の調合か？ なんだ違うのか
おっ いつもの花か？

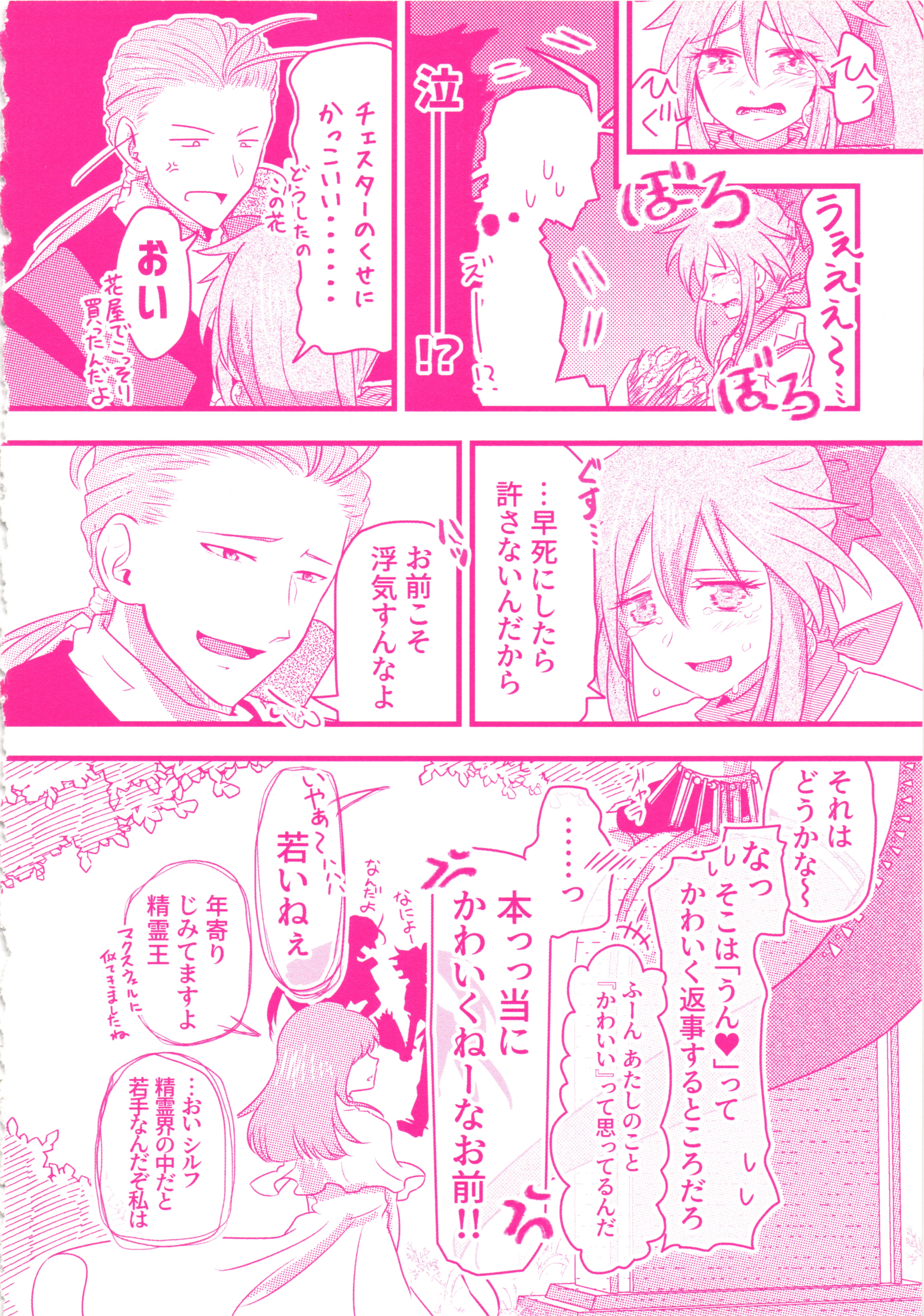

そっちのがリア
あっちのがお父さん
こっちがクラースで隣がミラルドとその子どものもの
ハーメルだっけかここにあった町
そう
ユークリッドの都を開拓するときにね墓地の場所をここに移したの
みんな一緒に
ひとりはさみしいじゃん？


……
アーチェ
ヴァルとジョージとオリビアと初めて会ったのは55年前
みんなあたしより小さかったのに気付いたらみんなに身長越されてた
ディアナはあの子が生まれる前から知ってる
あの子のお母さんとお婆ちゃんと3人でよくお茶を飲んだの
みんなそう
あたしよりも早く先に
あんたもきっとそう
嬉しかった
一緒に暮らそうって言ってくれて
一緒になろうって言ってくれて

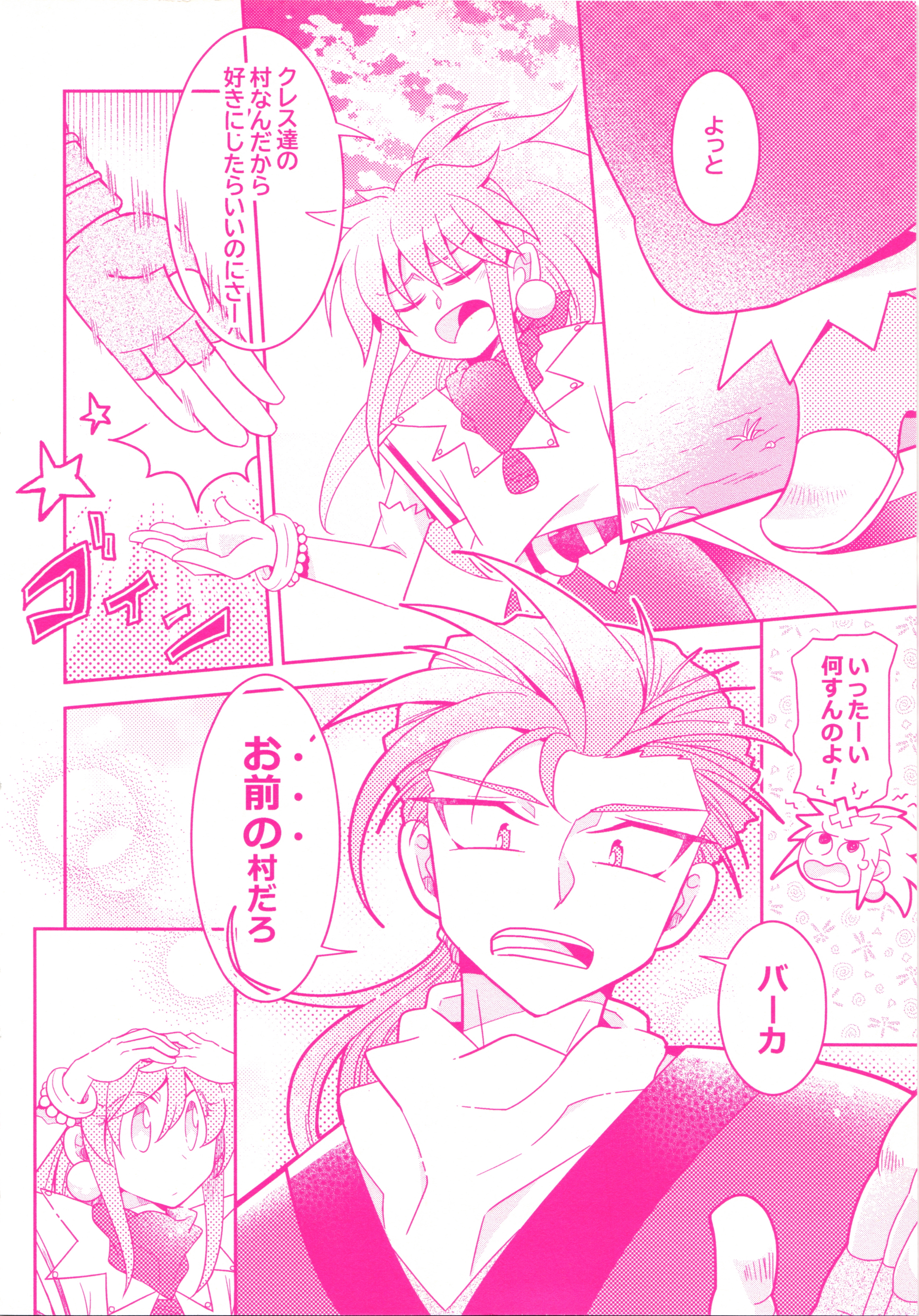


でもあたし
あんたが
おじいちゃんになって
ベッドで
弱っていく姿に
耐えられるか
わかんないよ
――百年ずっと
会えるのを楽しみに
してたのにさぁ
一緒にいられるの
あと
百年も
ないんだよ？
一緒に
いられる……
……
時間……
……俺が
死んだら
他の男のところに
行って良い
新しい家族を
作って……

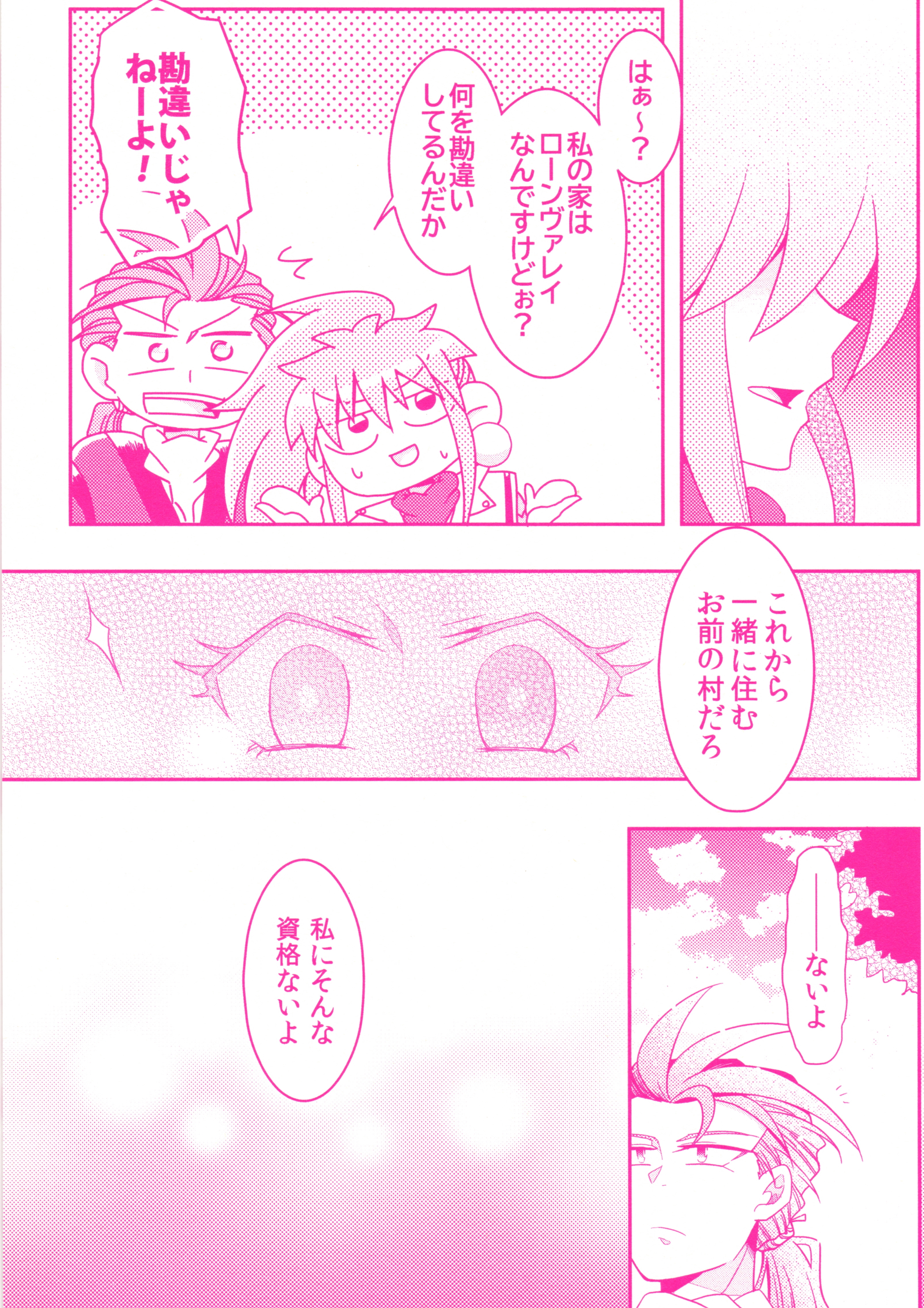
……
……悪い
やっぱ無理だ
がさ…
…そうだよね
無理だよね
見てろよ
ドザ
百年待たせた以上に
俺が笑わせてやる
長生きだって
できる限りしてやる
チェスター…
俺が死んだ後も
お前の中でずっと
生き続けてやる
寂しがる暇なんか
ないからな！
覚悟しとけ！


ひっ
ひっく
うぇぇぇ〜
ぼろ
ぼろ
泣
ズ――!?
!?
チェスターのくせにかっこいい……
どうしたのこの花
おい
花屋でこっそり買ったんだよ
ぐすっ
…早死にしたら許さないんだから
ニッ
お前こそ浮気すんなよ
それはどうかな〜
なっ そこは「うん♥」ってかわいく返事するところだろ
ふーん あたしのこと『かわいい』って思ってるんだ
……っ
本っっ当にかわいくねーなお前!!
いやぁ〜〜若いねぇ
なんだよ
なによー
年寄りじみてますよ精霊王
マクスウェルに似てきましたね
…おいシルフ 精霊界の中だと若手なんだぞ私は

栗缶
(@kurikan_top)
アーチェー
クレス達が呼んでるぞー
チェスター…
何よ
ま～だ村の名前決まんないの？
ばさーーッ
びくう
難しく考えすぎなのよね～
まったく
真面目ちゃんなんだから

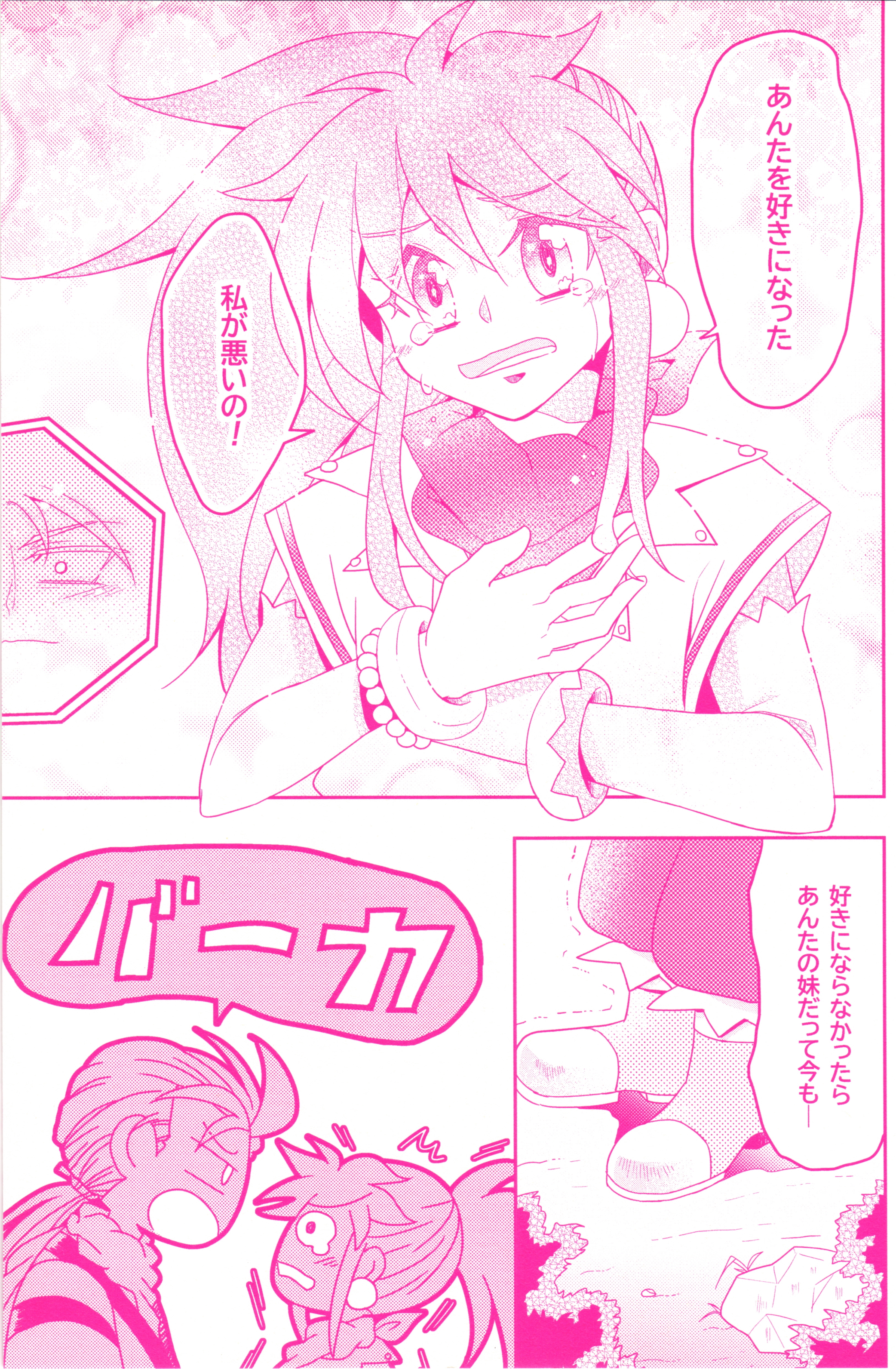


よっと
クレス達の村なんだから好きにしたらいいのにさー
ゴイーン
いったーい何すんのよ！
バーカ
・・・お前の村だろ



はぁ～？
私の家は
ローンヴァレイ
なんですけどぉ？
何を勘違い
してるんだか
勘違いじゃ
ねーよ！
これから
一緒に住む
お前の村だろ
――ないよ
私にそんな
資格ないよ

私は村を見捨てた！
そんな私が…此処に居ていいはずないじゃん！
お前は何も悪くないだろッ
悪いよ！
全部私が悪いの！

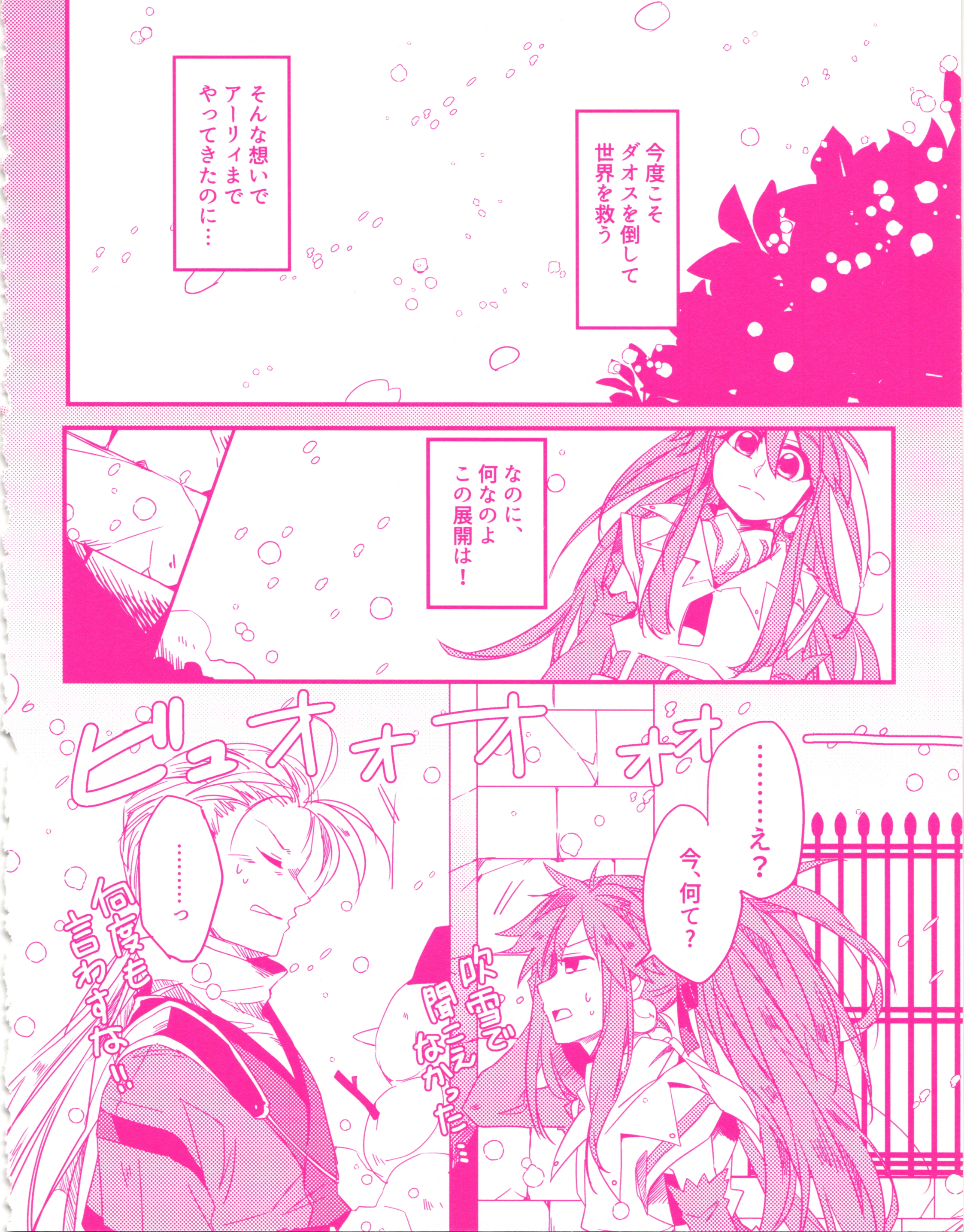

あんたを好きになった
私が悪いの!
好きにならなかったら
あんたの妹だって今も―
バーカ

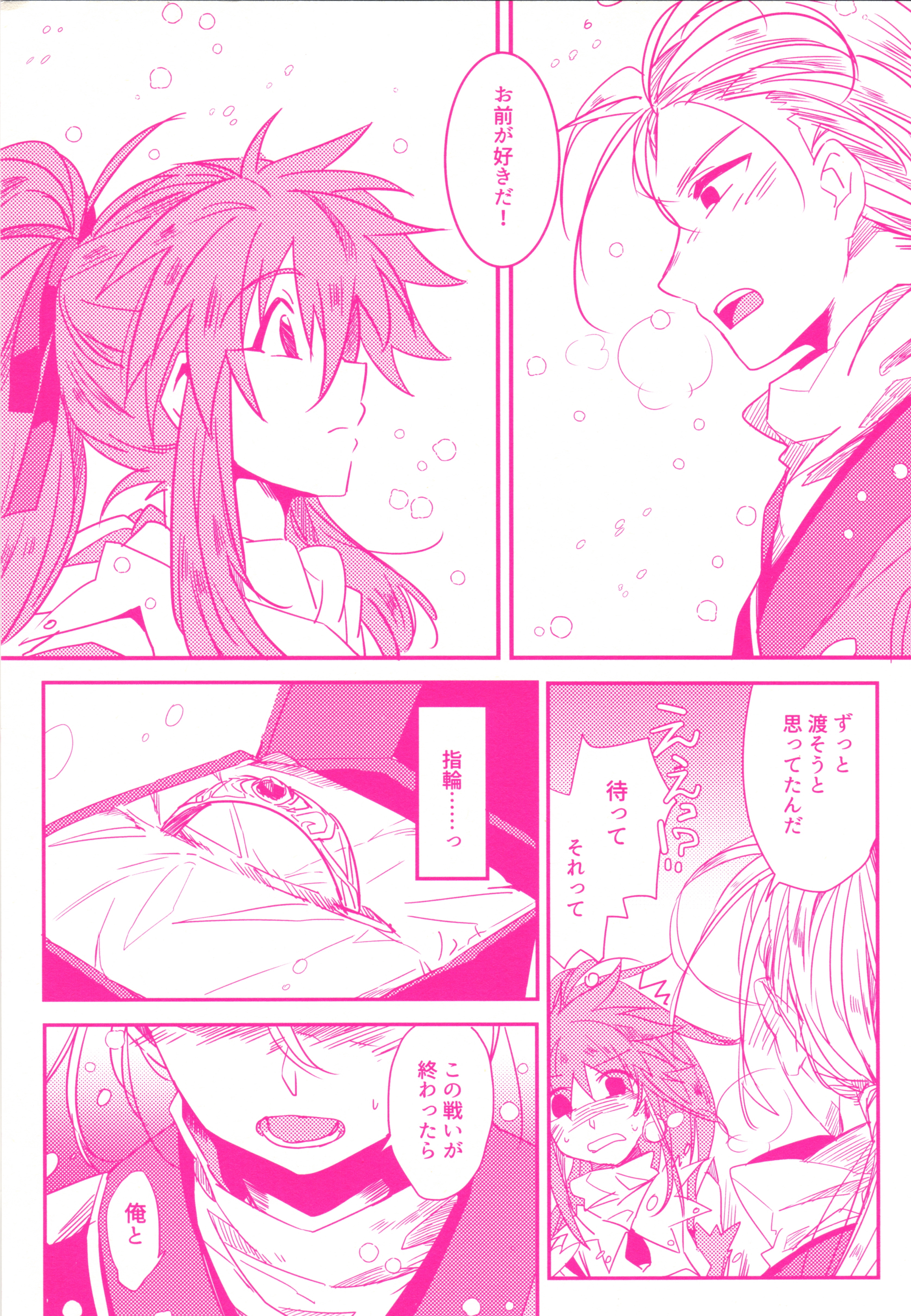
俺の方が
お前の事
好きだっつーの！
はっ
はぁ～？
私の方が
先だし！
いいや
絶対俺だね
わたし！
おれだ！
あ～もう
アホくさッ！

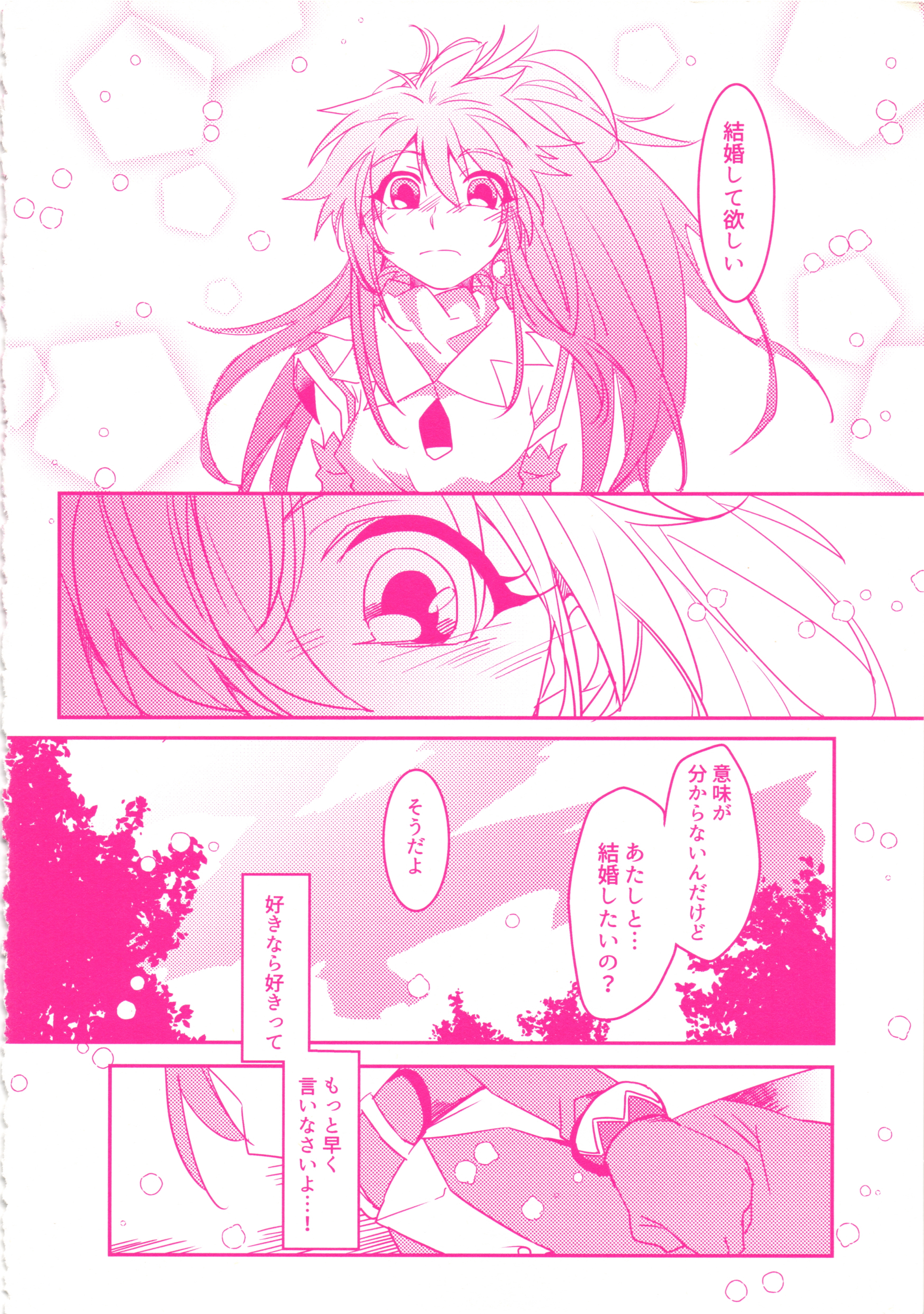
おわり

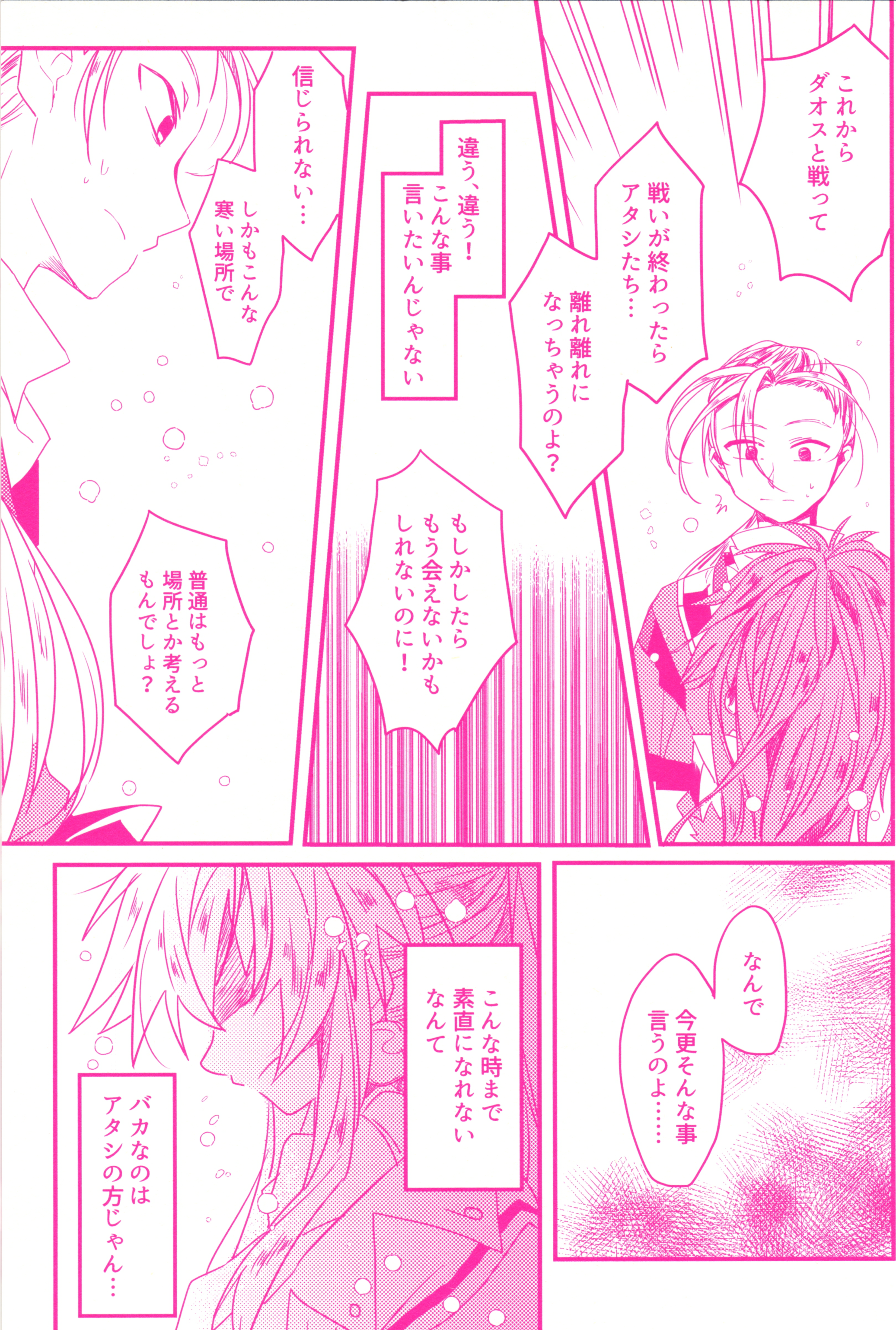
『旅の終わりは　未来の始まり』

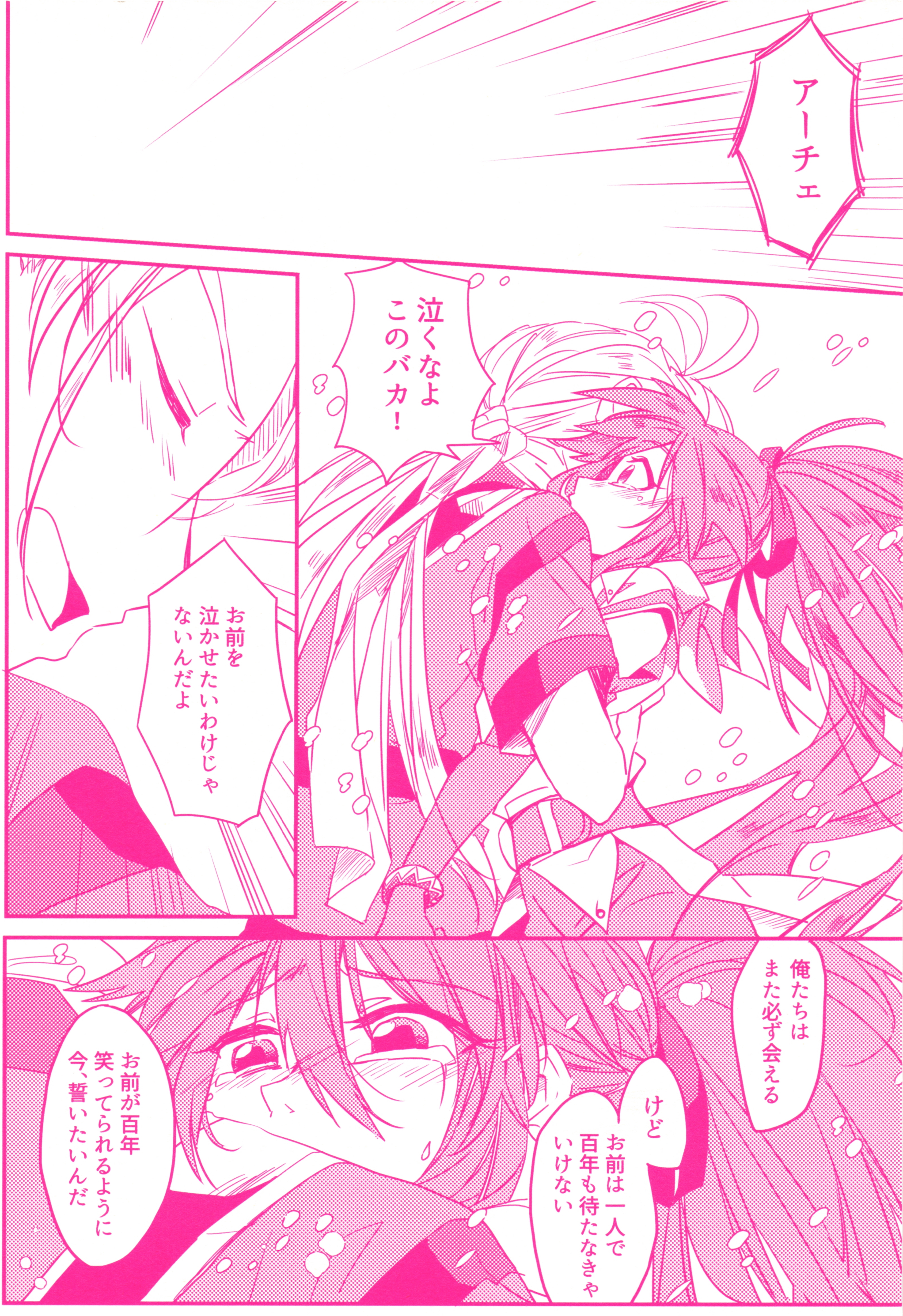
ホタルユキ



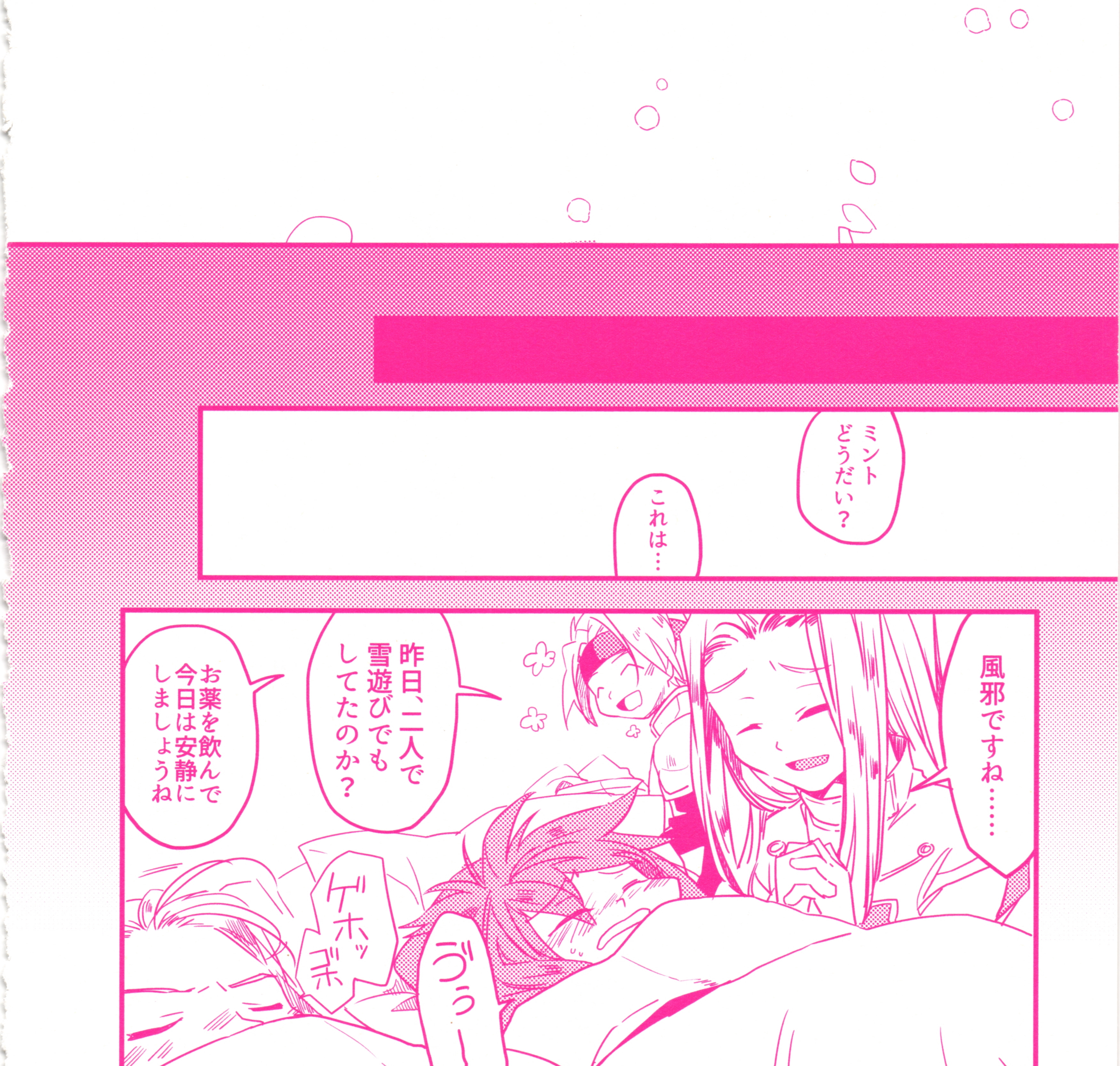

お前が好きだ！
ずっと渡そうと思ってたんだ
ええっ!?
待って それって
指輪……っ
この戦いが終わったら
俺と

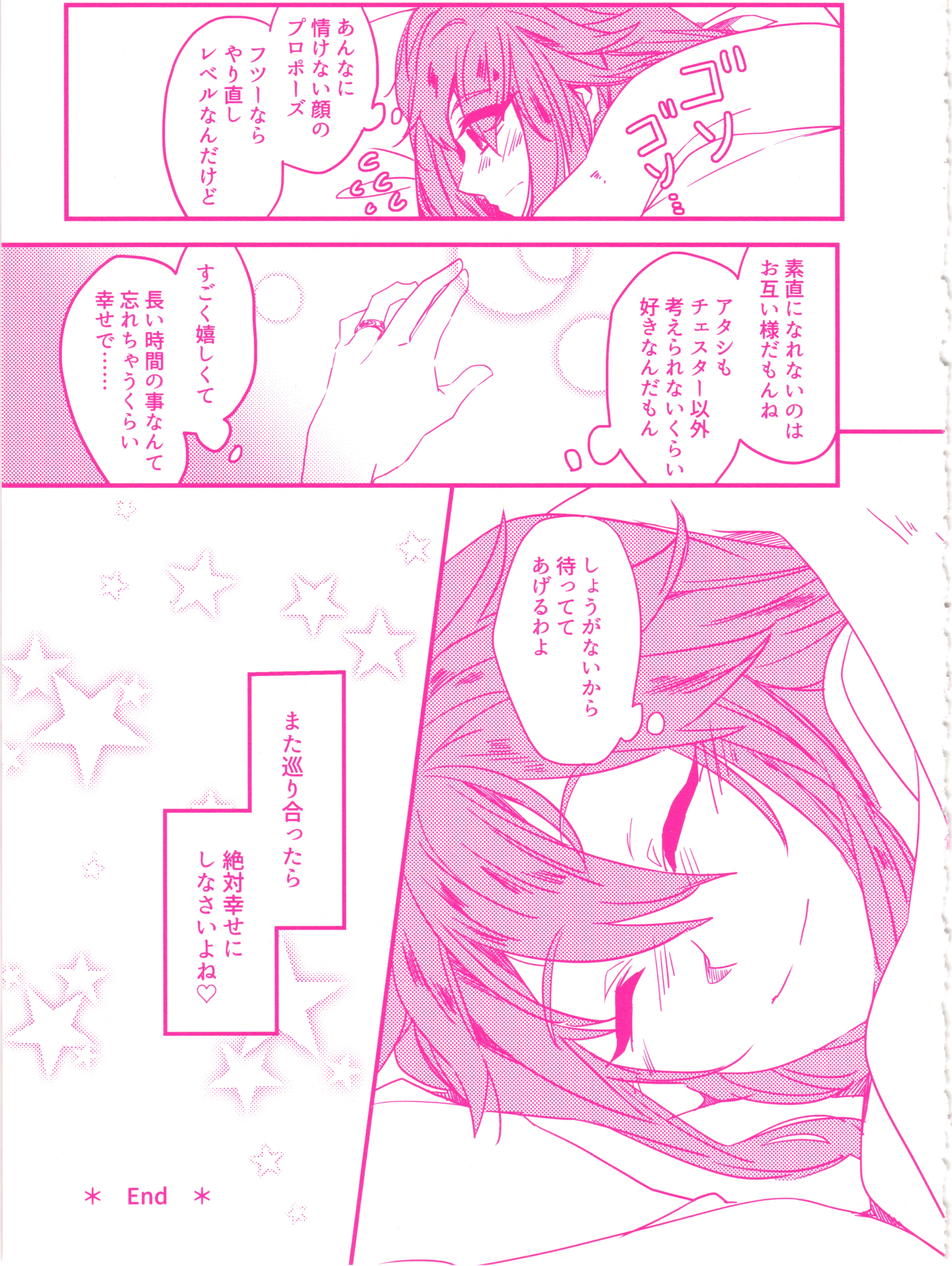

結婚して欲しい
意味が分からないんだけど
あたしと…結婚したいの？
そうだよ
好きなら好きって
もっと早く言いなさいよ…！


これから ダオスと戦って
戦いが終わったら アタシたち…
離れ離れに なっちゃうのよ？
違う、違う！ こんな事 言いたいんじゃない
もしかしたら もう会えないかも しれないのに！
信じられない…
しかもこんな 寒い場所で
普通はもっと 場所とか考える もんでしょ？
なんで 今更そんな事 言うのよ……
こんな時まで 素直になれない なんて
バカなのは アタシの方じゃん…


アーチェ
泣くなよ
このバカ！
お前を
泣かせたい わけじゃ
ないんだよ
俺たちは
また必ず会える
けど
お前は一人で
百年も待たなきゃ
いけない
お前が百年
笑ってられるように
今、誓いたいんだ

突然の事だし、今の俺は頼りないかもしれない
でも、お前以外考えられないんだ
ずっと一緒にいたい
守りたい
絶対に幸せにする
こんな俺だけど待っててくれるか？


ミント どうだい？
これは…
風邪ですね……
昨日、二人で雪遊びでもしてたのか？
お薬を飲んで今日は安静にしましょうね
ゲホッ ゴホ
うぅー


ゴン
ゴン
あんなに情けない顔のプロポーズ
フツーならやり直しレベルなんだけど
素直になれないのはお互い様だもんね
アタシもチェスター以外考えられないくらい好きなんだもん
すごく嬉しくて
長い時間の事なんて忘れちゃうくらい幸せで……
しょうがないから待っててあげるわよ
また巡り合ったら
絶対幸せにしなさいよね♡
＊ End ＊

name　ゆうみ

Q チェスアーを好きになったきっかけは？

マイソロ２で２人の絡みを見てかわいい～～となった気がします。その後Pをプレイした

Qアーチェはチェスターのどこが好きだと思いますか？

家族・仲間想いな所。

Qチェスターはアーチェのどこが好きだと思いますか？

顔。一緒にいて楽しい所。

Q チェスターとアーチェの好きなシーン/スキット/セリフを教えてください！

桃色娘。青色男。

Q 今回の作品のチェスターの年齢を教えてください！

19歳くらい

Qチェスターとアーチェに一言どうぞ！

ケンカは程々にね～ω

contact　twitter : @qlmiuc30

name　貴陽

Q チェスアーを好きになったきっかけは？

覚えていなくて……
気付いた時には二人のことを目で追っていました。

Qアーチェはチェスターのどこが好きだと思いますか？

なんだかんだ優しい所、意外とこどもっぽい所、
自分のそばにいてくれるであろう所。

Qチェスターはアーチェのどこが好きだと思いますか？

理屈じゃない。言葉にできない。
全部。アイツの笑顔は俺が守る。

Q チェスターとアーチェの好きなシーン/スキット/セリフを教えてください！

「桃色娘！」「青色男！」の全然悪口でも何でもない
言い合いスキットが可愛くて好きです。暑いんだから騒ぐんじゃない。

Q 今回の作品のチェスターの年齢を教えてください！

18～19くらい。一緒に住み始めて少し経っています。

Qチェスターとアーチェに一言どうぞ！

「喧嘩仲間」「恋人」「夫婦」「家族」
色んな形で二人の幸せを育んでください。

contact　@kyusmm

name　栗缶

Q チェスアーを好きになったきっかけは？

天命

Qアーチェはチェスターのどこが好きだと思いますか？

ストライクな おカオ (^▽^) イケメーン

Qチェスターはアーチェのどこが好きだと思いますか？

ドストライクな おカオ (^w^*) かわうぃー

Q チェスターとアーチェの好きな
シーン/スキット/セリフを教えてください！

「コレ…何？」　めっちゃ声ふるえてるのスキ　「わかんない…」(CDネタ)

Q 今回の作品のチェスターの年齢を教えてください！

村がやっと落ちついてきた頃…？(!?)

Qチェスターとアーチェに一言どうぞ！

幸あれ！(これに尽きる)

contact　@kurikan_top

name　ホタルユキ

Q チェスアーを好きになったきっかけは？

EDのチェスターとアーチェが素敵すぎて
じわじわと好きになっていたのが一気に落ちました。

Qアーチェはチェスターのどこが好きだと思いますか？

努力家なところ、仲間想い、家族想い。
なんだかんだ言いつつ優しい所が好きなのかなと思います。

Qチェスターはアーチェのどこが好きだと思いますか？

料理が下手なところも含めて、苦手でもチャレンジしたり、
辛いことも苦しいことも逃げない強い心。

Q チェスターとアーチェの好きな
シーン/スキット/セリフを教えてください！

チェスターの特訓でアーチェがやってくるイベントが
好きです！お互い気にしてる感じが可愛いです！

Q 今回の作品のチェスターの年齢を教えてください！

本編と同じ１７歳。言葉は未熟でも、決意は石よりも固い
と思います。結婚してから何度もリテイクさせられそう…笑

Qチェスターとアーチェに一言どうぞ！

二人が一緒にいる時間が、いつの時代も、どんな時も
幸せで溢れていますように～～～！大好きです！！

contact　Twitter → @xhotaruyukix

LOGO Design

◆箒と矢
二人のモチーフ

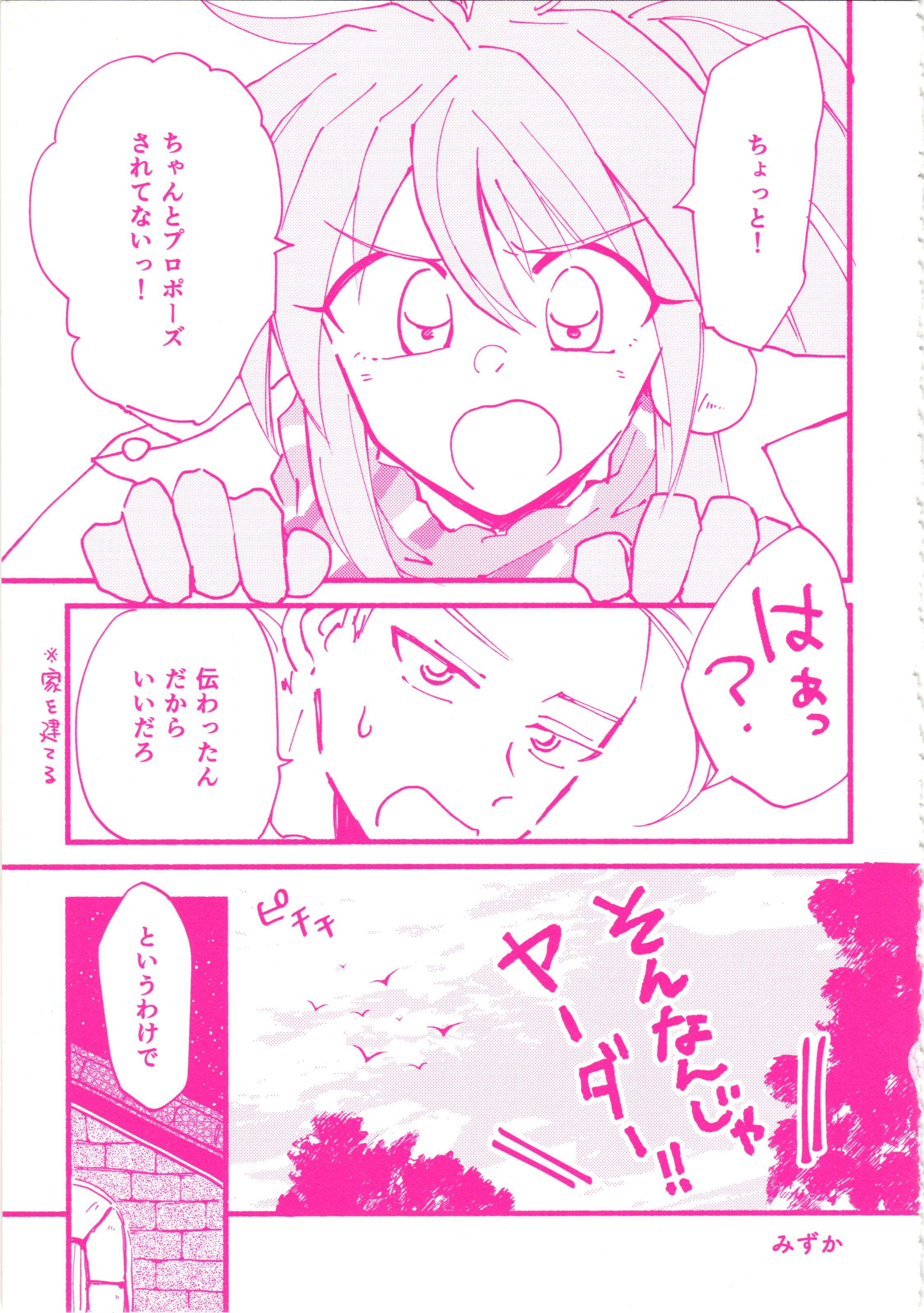
◆チューリップの花言葉
愛の告白

CHESTER ✚ ARCHE PROPOSAL ANTHOLOGY
A Thousand Years
-AC.4304-

◆AC4304
二人が出会った年でもあり
別れた年でもあり
そしてまた2人の時間が交錯する年

◆花の本数による意味
花束の3本「愛している」
額の4本　「一生愛し続ける」
合計7本　「ひそかな愛」

design by くこみ


ちょっと！
ちゃんとプロポーズされてないっ！
はぁっ？
伝わったんだからいいだろ
※家を建てる
そんなんじゃヤーダー!!
ピチチ
というわけで

みずか

クレスの時はどーだったんだよ
えっ「結婚してください」って
てれ
「ください」ねえ…
幸せにし… 幸せって何だろう
なんかそういうかんじじゃねーんだよな
しょーもねーケンカばかりしてる
白髪になるまで
俺だけが
うれしい
いつまでも一緒にいてくれる
どこにでも
ほっとけないっつーか何かやらかしそうだし
ベタな方が好み、そっ？
毎日メシを作っ… 作った方が…俺が たぶん
好きにしてくれ
ただそばにいてほしいだけで

コンコン
一度しか言わねえから
よく聞けよっ
おわり

「ん」
「ん、ってなによ」

目の前に差し出されたのは大きな花束だった。

「なにこれ？もらったの？」
「んなわけねぇだろ……お前にだよ、お前に」

と口を尖らせながらチェスターが言う。
今日何かあるっけ？
誕生日でもないし。記念日…？
いやいやそんな柄じゃないでしょ！

「一応貰うけど…なんかあったっけ？」
「いや…その」

とチェスターはモゴモゴする。

「なによ」
「……あー」

歯切れが悪い。
何かやらかして、それを謝る為にわざわざ花束を買ってきたとか？
思い当たる節がない。
あ。

「まさかアタシのプリン食べたの！？」
「は？」
「冷蔵庫の！」
「プリン？？？」

あれっ。なんだ、違うのか。
じゃああとで食べよー。

「じゃあ何よ、モゴモゴと」
「あー…ああ」

と頭をガシガシ掻く。

「あのさぁ」
「うん」
「結婚しねぇ？」
「うん？」

けっこん？けっこん…

「け、結婚！？！？！？！？！？」
「は…なんだよ」
「アタシとチェスターが！？」
「……嫌かよ」
「いっ…！いや…じゃないけど…」

嫌なわけない。
この100年間、色んなところで見てきた結婚式。
憧れないはずがない。
それに。

そもそも嫌ならこうやって一緒に住んでいない。

「こう…お前が来て1年経つだろ?このまま…でもいいけどさ、
ちゃんと…その式とか挙げて…の方が
いいんじゃねぇかなって思ってよ…」
「ま…まぁ?そうね?」

口調は強気に返すが顔は熱い。
アイツの顔が見れない。

「指輪、サイズわかんねーから…今度アルヴィニスタにでも行って…
式はどーすっかクレス達にも聞こうかと思ってんだけど…」
「……うん」

顔にかかっていた髪がすっと避けられて
覗き込んできたチェスターと目が合う。
潤んでぼやけた視界の中見えたチェスターの顔も赤かった。

「………もっかい聞くけど」
「うん」
「結婚しねぇ?」
「……する」

そう答えればチェスターはホッとしたように、
そして少し困ったように笑った。

「泣くなって……待たせてごめん」

name みずか

Q チェスアーを好きになったきっかけは？

なりダンの小説を読んで

Qアーチェはチェスターのどこが好きだと思いますか？

かわいいところ

Qチェスターはアーチェのどこが好きだと思いますか？

かわいいところ♥

Q チェスターとアーチェの好きな
シーン/スキット/セリフを教えてください！

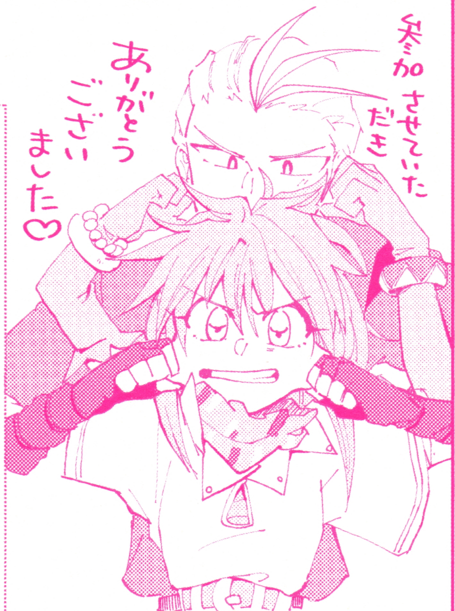
アーリィの「はじめて見たときから…」

Q 今回の作品のチェスターの年齢を教えてください！

21、2くらい？

Qチェスターとアーチェに一言どうぞ！

長生きしてください！



contact　twitter：@mizka_n

name 生春巻き（チェスアーbot管理者）

Q チェスアーを好きになったきっかけは？
まずアーチェに一目惚れし、
そのあとチェスターとの絡みで
一瞬でチェスアー沼に落ちました。

Qアーチェはチェスターのどこが好きだと思いますか？
なんだかんだで優しいところ、面倒見のいいところ
アーチェのことが好きなところ！

Qチェスターはアーチェのどこが好きだと思いますか？
顔！笑
お茶目なところ、明るいところ

Q チェスターとアーチェの好きな
シーン/スキット/セリフを教えてください！
もう二人が会話してる場面全てが、全てが大好きです！
が、今回あえて見てほしい！を挙げるなら
「元の世界に帰ったらどうする」にアーチェが「せいせいする」と
答えた時にチェスターがしょぼんとするスキットですかね…！

Q 今回の作品のチェスターの年齢を教えてください！
19歳

Qチェスターとアーチェに一言どうぞ！
幸せになってくれ、頼む

チェスアーにハマリ早20年…
素敵な企画に参加させて頂けることになって
そしてこんなにたくさんのチェスアーを
浴びることが出来て感謝感謝です…！嬉しい！
わ～～～！チェスアー最高！

contact　twitter：チェスアーbot@tyes_a_bot

一生分の愛を

ゆ

うららかな春の午後を揺らしたのは、ガシャン、とティーカップをソーサーにぶつける音だった。

「プロポーズ!?」

「アーチェさん、お声が…」

頬を赤く染めたミントは慌てて口元に手をやる仕草を向ける。中身がいっぱいだったらとっくに零れているだろう角度に傾くカップもそのままに、アーチェはあんぐりと口を開け、やがて大きく破顔した。

「やったじゃんミント！　クレスはもっと時間かかるタイプかと思ってたけど早くない!?　おめでとう!!」

「いえ、その、正式に決まったわけではなくて、でも…」

自らの心を落ち着けようと柔らかな金の髪をそっと手で押さえる姿の周囲には幸せの空気が漂っている。旅をしていたときよりも更に綺麗になったとアーチェは目の前の姿を見た。

ダオス討伐の旅が終わって幾度かの冬が終わり、崩壊の爪痕を色濃く残していたトーティスも今ではだいぶ村らしくなってきている。未来で見たミゲールの町にははるか及ばずとも、いずれここが誰かの故郷となり、ゆっくりと温かく繁栄していく様を現実として想像できるようになった。

「ねぇねぇ、どんな感じ？　『僕の奥さんになってほしい』？『ミントのいない生活なんて耐えられない』？」

うしゃしゃ、と心底楽しそうに笑うアーチェにつられてミントも子供のようにくすくすと笑う。

温かな光が差し込む窓の向こう、家々や宿屋から先に手をつけていたためなかなか修復まで至らなかった教会の壁が見える。

教会はミントの仮住まいでもある。日中は村の人々や旅人達の悩み相談に乗ったり、法術を頼る傷ついた者たちの診療所として機能していて、奥にはミントのための部屋が用意されている場所だ。夏を前に完全に元の姿を取り戻すだろうその姿を夢見るように、瑠璃の瞳はそっと細められた。

ミントは思い出す。教会の見える場所に立っていたクレスは真剣な眼差しで振り返った。

——僕の父さんと母さんも、ここで式を挙げたんだ。

その後に続いた、緊張して上擦った声を思い出す。

「『ここで挙げる最初の式が、僕らがいいって思うのはわがままかな』と」

「はぁ～!!」

思い出をそっと大事に取り出すように口にしたミントの前で、アーチェは今にもひっくり返らんばかりに仰け反った。もちろん喜びの声だ。

「クレス、あんたも成長したのねぇ…アーチェさん嬉しいわ…。ミントもついに花嫁さんだし、いいなー」
「アーチェさんだって」
「あたしは無理無理、そもそも相手が多すぎて選びきれないし」
「もう、いつもそんなことばっかり言って」
何もかもをお見通し。そう言いたげな表情のミントに見つめられて、アーチェも唇を拗ねるような形に尖らせた。
「でもさ、本当になーんの話もないの。あたしは事あるごとに言ってんのよ。ここに住んじゃおうかなとか、もういちいち来るのめんどくさいなーとか」
「チェスターさんは、そのときには？」
「いつもと一緒よ！　『でかい声で言わなくても好きにしたらいいだろ』とか『めんどくさいなら来るなよ』とか。そしたらこっちだって頭に来ちゃうじゃん」
ミントが見ていないところでもやり取りは相変わらずのようだ。互いに言葉に込められている感情もわかっているくせに、売り言葉に買い言葉、隙があればすぐに喧嘩になってしまう。
だからという訳ではないが、村があらかた復興してきてもなお、アーチェはここに居を構えることなくふらっと遊びにきてはどこへともなく帰っていく暮らしを続けていた。

アーチェは新しく紅茶をついでくれたミントに礼を言って、角砂糖をぽとんと落とした。角ばっていた形は温かな紅茶の中で溶けてみるみる崩れていく。自分も意地を張れずにそうなれたらどんなに楽か。そんなことを考えていたら、聞き慣れた声と共に家の玄関が開いた。
「ただいま──アーチェ！　来てたのか！」
「おかえり～。お茶入ってるからクレスも飲めば？」
「自分がいれたみたいな言い方しやがって。ミントの用意だろ」
「うっさいわね、お菓子はあたしが持ってきましたー」
「クレスさん、チェスターさん、おかえりなさい。お茶いれますね」
途端に賑やかしくなった部屋でミントも楽しそうに立ち上がる。ポットに新しいお茶をいれにいくその姿には自然と寄り添うように立つクレスの姿があった。
「そうだ、ミント。前に相談を聞いてくれたお礼にって、これ」
「ハーブですか？　いい香り…」
「料理に使えるって言ってたけど、わかるかい？」
「これはお肉料理に合うんです。お夕飯のときに使いますね」
笑顔をかわす二人が、ぎこちなさや面映ゆさよりもまるみを帯びた温かさを纏うようになったのはいつからだろうか。頬杖をつ

いたアーチェはもはや夫婦のようにしか見えなくなった二人を眺め、ちらと視線を横に立つチェスターに向けた。
ひと月かそこらぶりに目にする姿は記憶の中と大差ない。ただクレスとミントを見る目が、どことなく、柔らかさと何か別の感情をたたえているようにアーチェには思えた。
「ねぇ、クレスとミントの話、聞いた?」
「知ってるに決まってんだろ。クレスから聞いた」
「ふーん」
じとっと半眼で見つめられている視線とは向き合わず、チェスターは得意気にも見える顔で笑う。
「成長したなクレスの奴…」
「それもうあたしが言った」
「俺はその前に本人に言った」
「あんたは成長しないのにね」
ぽいと投げ捨てるような口調にようやくチェスターがアーチェを見る。喧嘩なら買うぞと意気込んで下から睨みつけたアーチェだが、切れ長の瞳は僅かに眉を寄せて黙り込んだ。
そんな顔をされるなら言い返された方がまだましだ。沈黙はなにより腹立たしく、同時に少しだけアーチェには怖かった。
「何か言ったらどうなのよ」
「何かってなんだよ」
突き返すような口調にたまらず口は開いたものの、何を言うべきかアーチェは惑って二の句が継げない。どうしてクレスやミントのようにできないのか、自分と、そしてチェスターへの苛立ちに耐え切れず勢いよく立ち上がる。
ガチャンと響くカップの音が今度はひどく耳障りだった。
「ちょっと出かけてくる」
その声にクレスとミントが振り返る。一番近くにいるチェスターだけがあさっての方を見て返事もしない。
「出かけるって、アーチェさん、どこに」
「夕飯までには戻るから」
「チェスター、またおまえ」
「戻ってくるって言ってんだからほっときゃいいだろ」
「行ってきます!!」
背後での会話は扉で叩き落し、アーチェは箒を取り出すとままならない思いごと吹き飛ばすように地を蹴った。
一緒にいたいと思えば思うほど、期待と落胆に邪魔ばかりされて、一緒にいる時間が短くなっていくような気がした。
それから何事もなかったような顔をして戻ってきたアーチェも交えての夕飯が終わり、ミントとアーチェは夜の村を歩いていた。春の夜は闇も柔らかだ。

「なんかさ、あいつが何考えてんのかわかんないのよ。クレスはミントとずっと一緒にいたいって思ってるわけじゃん。もちろんミントも」

「アーチェさんも、ですよね？　チェスターさんと」

問いかけというよりは促しの意思に、うん、と素直にこぼれた本音は風にさらわれることなく二人の間に残った。

「あたしはハーフエルフだからいいけどさ、時間ってそんなに長いわけじゃないんだよ。あと百年でも二百年もあるならあたしだって待てるけど、そうじゃないんだもん」

自然と視線が落ちていく。別れは仕方のないことで、悲しいだけではないことで、ならばせめて共にいられる時間は側にいたいだけのことなのだ。それだけなのに、ひどく難しい。

「あたしだって、あいつが何とも思ってないならもうそれでいいのよ」

「チェスターさんはアーチェさんのことを大切に思ってらっしゃいますよ」

「思ってくれてるならさ——！」

思わず力が入った声は予想以上に響いた。無理やり見上げた双月は今日も寄り添っている。青いリボンと桃色の髪が、絡むように風と遊ぶ。

「思ってくれてるならさ、笑うなり何か言うなりしなさいよ」

本当にその胸に引っかかっていたのは、チェスターから一緒にいたいなどの言葉が来ないことではない。自分がそれとなく、そのような意味合いのことを口に出したときに、チェスターが決まって言葉をなくして黙るのがアーチェには何より堪えた。

渡した言葉が拾われずに落ちていくその瞬間が、アーチェの心に棘となって刺さるのだ。

「ごめんね～。こんな話。あのバカ男が何考えてるかわかんないのなんて今更なのに」

「チェスターさんは、ご自身の気持ちをお話しないですものね」

「余計なことはいくらでも口が回るくせにね」

二人が足を止めた先には、昼間に話した教会がある。木の扉を開いたミントはアーチェのためにそれを押さえた。

「すみません、せっかく帰ってきてくださったのにこんなことをお願いしてしまって」

「いいのいいの！　それよりさ、夜も相談聞くことにしたなんて大丈夫？　危なくない？」

「昼間だけだと来づらいという方もいらっしゃいますし、鍵をかけた扉を挟んでのお話ですから」

「そう？　まぁ、何にしても今晩はクレスとごゆっくり♡」

「そ、そんな、私はお部屋をお借りするだけで…！」

「そっちの方が夜の教会よりよっぽど危ないって？」

「アーチェさんっ！」
ひとしきり笑い声を響かせてから、ミントはショールを羽織り直す。
「では、お願いします」
「がってん！　悩める子羊ちゃんは任せて！」
腕を曲げてウインクを一つ。
おやすみ、と挨拶を交わして教会の扉は閉じた。

「いいなー。ミントはクレスとお泊りかー」
教会の長椅子に座って足を伸ばし、誰にともなくアーチェは呟いた。
もちろん自分もチェスターの家に泊まるという選択肢はあり、現に今までもそうした機会はあった。顔を合わせれば否定するがお互いにきちんと思いがあるのはわかっている。そうでなければ百年も待てはしない。
ただ今夜に関しては、たとえ同じ家に泊まったとしても居づらいだけだろうと思ったのだ。ここ数か月、アーチェが一緒にいたいという欲を出せばチェスターは何か考え込むように黙って目を逸らすことの繰り返しだ。
「こんな悩んでさ、相談が必要なのはあたしじゃん…」

そして今晩の寝床をどこにしようか、いっそミントに泊めてもらおうと決めて夕刻にクレスの家に戻ろうとしたところで、逆にミントから提案されたのだ。
——今夜、教会の相談所を私の代わりにお願いできますか？
——あたしがミントの代わり？　いいの？
——誰か来たらノックを返して、黙って聞くだけで大丈夫です。
——それだけ？
——はい。聞いてくれるだけだから、お話できる方もいらっしゃるんですよ。
加えて今夜ミントはクレスのところに泊まるとなれば、一にも二にもなく了承してしまった。悩み相談を黙って聞けばいいだけだ。失敗することはないだろう。
「けどこの村に悩んでる人間なんかいる？　面白い悩みはないだろうけど…」
やれやれと欠伸混じりに見た手元の時計は日付が変わるまであと少しの時間を示している。あと少し待って、来なかったら寝ちゃおう。そんなことをアーチェが思った瞬間、ノックの音が鳴った。
はーい、とつい返事をしそうになったアーチェは己の口を手で押さえる。抜き足差し足で扉に近づく間にも、躊躇いがちなノッ

クがもう一度鳴る。ミントならどんなノックだろうかと迷ったところで向こうから声がした。

「…さすがにもう寝てるか」

ぶわっとうなじの毛まで逆立つような感覚に襲われたアーチェは、その数秒間に呼吸さえ止めていた。扉を隔てた向こうにいる人物は問い返すまでも見るまでもない。

チェスターだ。

なんで、どうして、なんでよ、と狼狽するアーチェの手はすでに扉から離れて心臓の真上にある。頭の中にまで響く音が外まで聞こえるのを恐れるように、両手でぎゅっと胸を押さえつけた。

ようやくわかった。ミントが考えたのだ。あのミントが夜に教会で一人で誰かの悩みを聞くなんて、考えついたとしてもクレスが心配してやめさせるに決まっている。チェスターはチェスターでクレスあたりに何か吹き込まれたのだろう。お互いにバカと罵りあっている自分達はまんまと謀られた。あの誰より優しい二人に。

アーチェがどうすべきか悩んでいる内に取るべき行動は扉の向こうが示してきた。

「ま、別にいいよな。いなけりゃいないで…話しやすいか」

後半の声はやけに下から聞こえた。恐らく、扉に寄りかかるようにして腰を下ろしたのだろう。

アーチェも音を立てないように慎重に扉に背を預ける。鍵はしっかりと内側からかかっているので不意に開く心配はない。

「その、もしいたらあれだから言っとくけど、おめでとさん。良かったな。ミント」

クレスとの話かと容易に想像はついた。まるで昼間の自分とミントの会話をなぞっているようだとアーチェは思う。

「クレスはあの通り、真っ直ぐで、真面目で、優しい奴だからさ。一緒にいたら幸せになれる。長年付き合ってる俺が保証するんだから間違いない」

自分と二人でいるときにはあまり聞かない穏やかな声色が、悔しいくらいに心地よく、アーチェは膝に顎をつけた。

「あいつもたまに気が弱くなるときがあるからな。ミントは意外と強いし、そういう意味でもお似合いだって思ってる」

うんうん、と頷くアーチェだったが、そもそもチェスターはこの祝いを伝えるためにわざわざ来たのだろうかとふと疑問に思う。それが聞こえたかのようなタイミングだった。

「――俺とは違う」

短い言葉がアーチェの血の気を一気に引かせる。

違う。何が。震えそうになった指先を組み合わせてアーチェはひたすらに耳を澄ます。もしもこれで、思っているのが自分だけ

だと聞かされたら。考えるだけで体が冷えていく。何を言うの。言わないで。心は今にもばらばらになりそうだ。

あの冷たい月の光の下で、チェスターがどんな顔をしているのか知りたくてたまらない。

「昼間、あいつが何言いたいかなんて顔見りゃすぐわかった。自分もそうなりたいって顔にでかでかと書きやがって」

それならなぜその度に黙るのか。口をへの字にしたまま声を出せずにいるアーチェの心境など知らない声は更に続ける。

「別にあいつが嫌なわけじゃねぇよ。側に…いる、のも、な」

言い淀み、小さくなりながらも告げられた言葉にアーチェの胸を言いようのない安堵と幸福感が満たす。

ただ、とチェスターの声が僅かに小さくなった。

「あいつがそういうこと言う度に浮かぶんだよ。旅の終わりの」

――寂しすぎるよぉ…。

百年を超えたアーチェの中にも残っている自分の声は、チェスターにはより鮮明に残っているはずだった。

あのとき、ここで別れてしまえば目の前の仲間と百年の時を待たなければもう会えないとわかったとき、寂しさと悲しさにアーチェはぼろぼろと泣いたのだ。

「俺はまた、あいつにあの顔をさせるのかって、思っちまった」

たった一人の大事な相手を失う辛さと、重さと、痛みを、チェスターはよく知っていた。それが傷を残すかということも。

あの泣きじゃくる幼い顔は妹を思い起こさせて、同じくらいに目の前のアーチェを大切に思うようになってしまったのだと、知ってしまった。自分は共に年を取ることができない。あるとき必ず、置いて行かなければならない日が来る。旅の終わりとは違い、もう二度と会えない別れに、どれほど大きな声をあげて泣くだろう。その思いがいつも、チェスターの声を奪っていた。

「…まぁ、こんなこと言ってもどうしようもねぇよな」

そこまで言うとチェスターは立ち上がったらしく、アーチェの上から声が落ちてきた。扉を隔てて表情が見えなくても、俯いて無理に口元に笑みを浮かべているのがわかってしまう。

「押し付けられるかよ。失くすのがどんな気持ちかわかって、それでも側にいさせようとは――」

そこまでが限界だった。

理由がわかってしまった今、アーチェの胸に噴き上がったのは純然たる怒りだった。そのまま立ち上がって振り返ると躊躇いなく鍵を外し、両手に渾身の力を込めて、目の前の扉を破らんばかりに押し開ける。

チェスターは幸いにも、猟師の勘で不穏な空気を感じて咄嗟の一歩を引いていた。さっきまで鼻先があった場所を轟音と共に

開け放たれた扉が掠める。見開かれた切れ長の瞳は、本来そこにいるはずのなかった姿と対峙した。正面からの月明りに照らされ、教会中の闇を背負った真紅の瞳が燃えている。

「アーチェ⁉」

「この…大バカ男‼」

開口一番に響いたのは遠慮のない腹の底からの怒声だった。

アーチェがいること自体の驚きと、その怒りの大きさにのまれてチェスターは未だ立ち尽くしたままだ。何も言えずにいる姿は昼間と重なり、より一層アーチェを激情に駆り立てる。

「自惚れてんじゃないわよ！　あんたがいなくなったらあたしが泣いて、そのまま一生不幸で過ごすなんて考えてバカなんじゃないの⁉　今ここにいない過去と未来のあたしのせいにして、今のあたしを無視しないでよ‼」

近くにいたいと思っているのが同じ気持ちであるにも関わらず、いつか来る時を恐れるならともかくアーチェのことを気遣うかのようにした物言いが逆鱗に触れた。アーチェはチェスターに詰め寄り、その顔を強く睨みつける。

「もういい！　わかった！　あんたがそういうことしか考えられないなら、後悔しないように今全部言って、あたしはもう二度とここに帰らない！」

「二度とってお前、なに考えて――」

「うるっさい‼　触んないでよこの意気地なし！　あたしだってそんなことぐらい何十年も前からとっくに考えたわよ！　考えて、考えて、それでもここに来たのは何でかって、そんなのもわかんないくらいバカなわけ⁉」

昂った気持ちからこみ上げてくるものを必死に押さえつけようとすればするほど、その声は震えていく。しかしアーチェはしっかりとチェスターを見て、目を逸らそうとはしなかった。

「あたしの人生の責任はあたしが取る！　あんたが勝手に余計な心配してようが、何考えてようが、あたしの一生があんたに不幸にできるわけないって覚えておきなさいよ！」

荒げた息はもう一度大きく喉を震わせようとしたが、ひくりと引き攣って大きな瞳は一粒だけ涙を落とした。

「そんなくだらない決めつけで…あたしの百年を無かったことにしないで」

その無防備な一言が、何よりもチェスターに突き刺さった。

「あたしだってわかってる。全部わかってて、それでもいたいって思ってんの。あたしはどれだけ悲しくなっても、泣くことになっても怖くない！　あたしはただそれでもずっと一緒にいたいって、幸せになりたいって、あんたとけっこ――‼」

一度は挟んだ声を遮られたが、今度こそチェスターはアーチェの言葉を封じ込めた。

遠慮ない強さで口に強く押し当てられた手が自分を黙らせたとわかったアーチェは眉間に皺を寄せた。離してよ、やめて、どけなさいってば。そんな類の言葉はもごもごという音になるだけでチェスターは手を動かそうとしない。怒りのままアーチェが魔術の発動も視野に入れたとき、チェスターは落ち着こうとしているのか、これ以上ないくらい大きく息をついた。

「…さっきから好き放題言いやがって、いい加減しゃべらせろ」

切れ長の瞳がようやく日頃の鋭さを取り戻す。逸らされることなく射るように真っ直ぐ見つめられて、その氷のようにも星のようにも思える色にアーチェは息をのむ。

おまえが、とチェスターは迷いながらも言葉を紡ぐ。

「勝手に人の話聞いたのはこの際置いておくとして、好き放題言いたくなったのもわからなくもない。けどな、俺にはおまえと違って山ほど悩む時間が無かったんだよ。こっちに戻ってきて、壊された村の中を直して、その合間に色々考えてもおまえは来たかと思えば毎回すぐどっか行きやがるし」

チェスターの言うことも最もだ。アーチェは口を塞がれたままだったが、う、と思わず声が出た。何を考えているのか、とはお互いが思っていたことに違いなかった。

「んなのこっちからすれば、おまえだって迷ってるかと思うだろうが。どっか行くならさっきみたいに面と向かって喧嘩売ってくればよかったんだよ。そうすりゃ俺だって——」

そこまで言って、チェスターは口を引き結んだ。

「いや、やめだ。おまえが言いかけてからってのが癪に障るけど、もう知るか。俺も言いたいこと言わしてもらう」

あそこまでまで言われて黙ってられるか、との呟きは自分を鼓舞するかのような口ぶりだった。

「アーチェ」

チェスターが手を外しても、アーチェは何も言わなかった。何も言えないまま黙って、目の前のチェスターだけを見ていた。

照らす月の明かりの下で己の手を強く握って、チェスターは言った。

「おまえを、おまえの残りの人生ごと俺が全部もらう」

風すら聞こえない静寂に、静かな声はしっかりと届いた。

薄く開いた唇が、それって、と息のようにこぼす。

「あたしが…さっき、言いかけたから?」

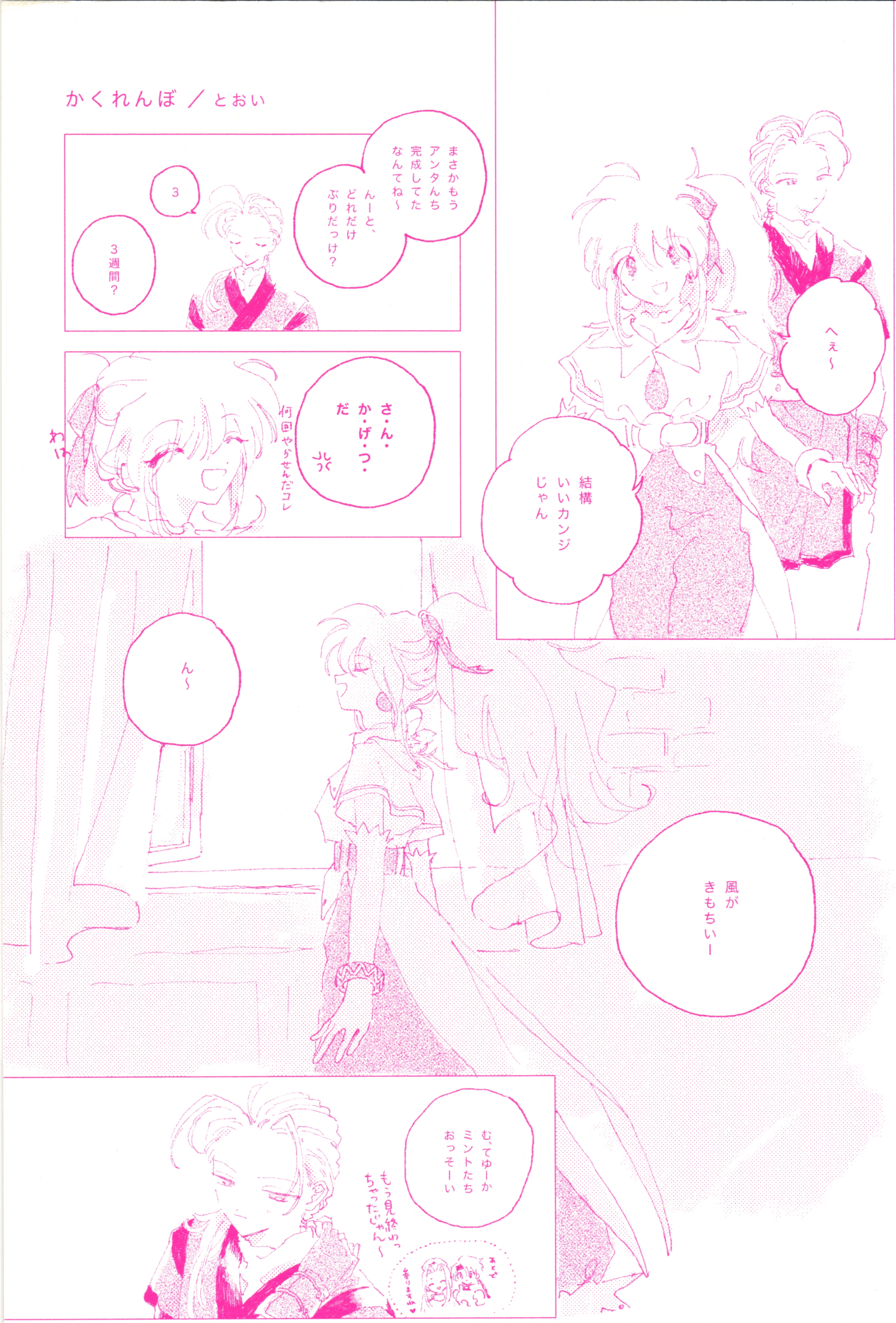
「違ぇよ。おまえが決心してるのがわかってたら俺は…」

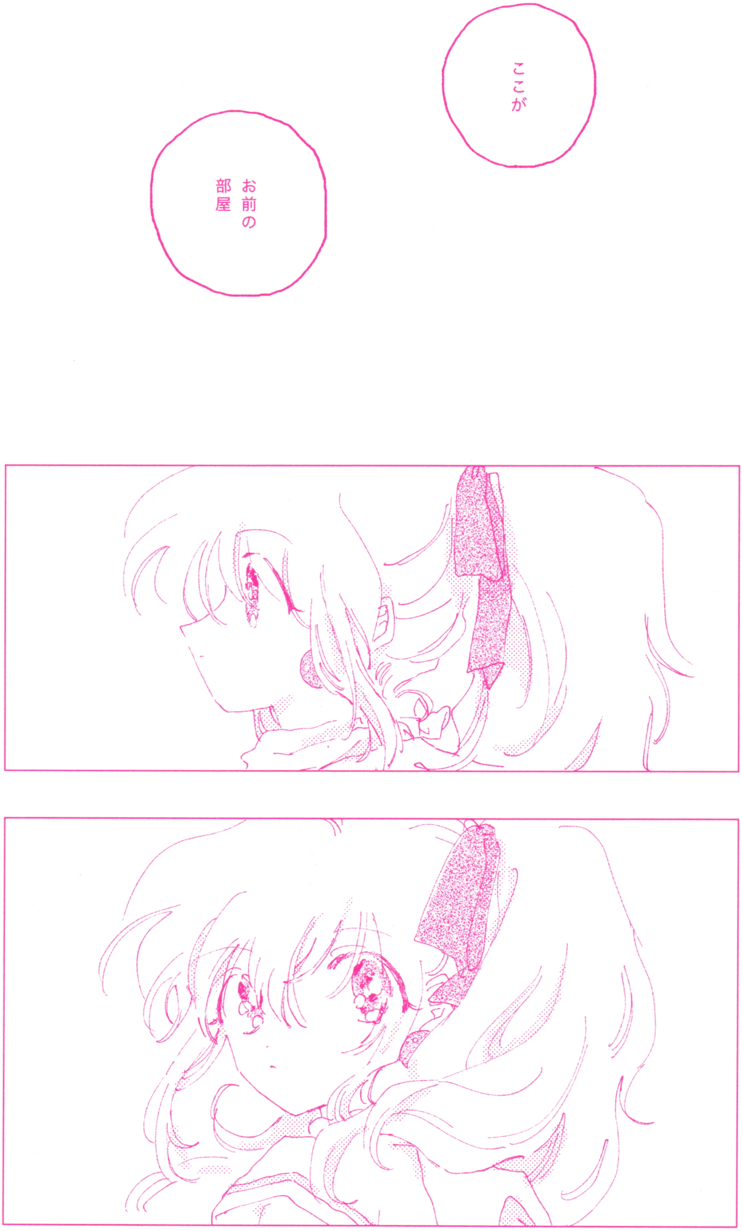
そこまで口にして、目の前のアーチェが花のように顔を綻ばせていることに気づいたらしい。言いようのない気まずさと照れく

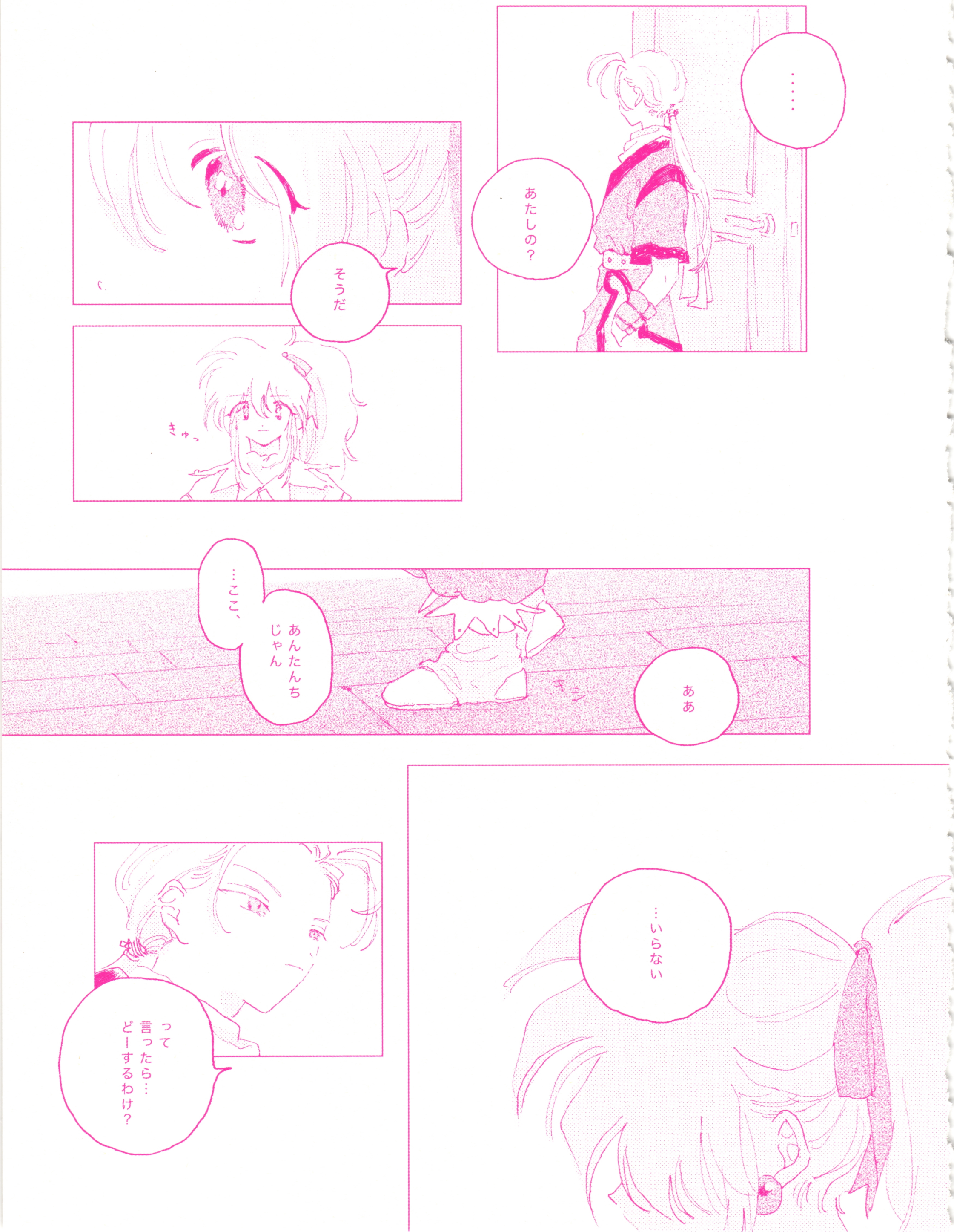
ささにチェスターの視線は斜め下へと向かいかけて、しかしその頬をぱちんと、今度はアーチェの手が包んだ。
　向かされた先で泣き笑いの顔をしたアーチェが言う。
「あたしにも、ちょうだい。あんたのこと。チェスターの全部」
言うが早いかアーチェは手を離して、今度は腕を伸ばして飛びつくように抱きしめた。
　これまでなんとか耐えてきたチェスターも顔に熱が集まるのを抑えきれず、誤魔化すように軽く息をつく。
「後悔したってもう遅いからな」
「遅いのはあんたよ、バカ」
「勝手に決めつけて勝手に離れようとしたのは誰だよ、バカ」
　囁くような優しい二文字は百年と少し前に聞いたあのときの声と同じだった。別れのときを泣きじゃくり、その後に長い時を過ごす間にアーチェが何度も思い出し、辛い時間も最後には笑顔に変えてくれた、あの声だった。
　気づけば互いに身体を抱き寄せていた。離さないようにぎゅっと抱き着くアーチェを抱きすくめるチェスターの力もまた痛いくらいに強く、アーチェにはそれが嬉しくてたまらない。
　腕の中から顔を上げる。涙を溜めた真紅の瞳は夜の中にあってなお星空よりもきらきらと輝いて、チェスターを心ごと捕らえて離さない。

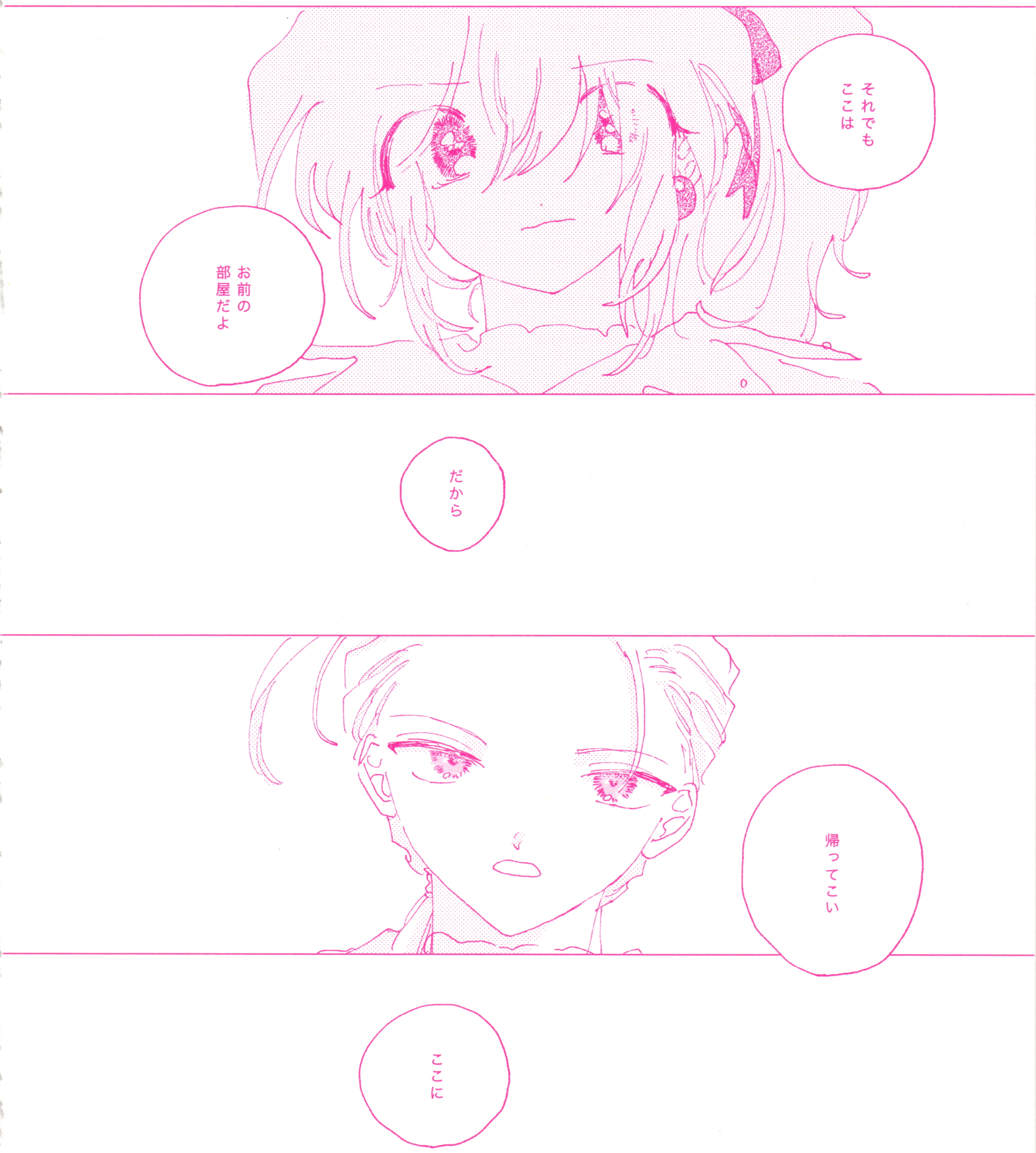
「プロポーズ、結局あたしに先越されてんじゃん」
「途中で止めたろ。俺の方が先だった」
「先じゃありませんー。あんたって本当いっつもあたしのこと待たせてばっかりなんだから」
「おまえな…この先ずっと言うつもりだろ、これ」
「当たり前でしょ！」
　そう言うといたずらっぽく笑い、アーチェは背伸びをしてチェスターに口づける。不意の感触に目を丸くしてぴたりと動きを止めるチェスターの姿がおかしくて、愛しくて、アーチェは笑い声をあげて改めてきつくその体を抱き返した。
「一生許さないんだから」
「一生言ってろよ」
　言葉の響きと裏腹の弾むような声ごと受け止めたチェスターは柔らかな声音と口づけでそれに返す。いつかに見たときよりははるかに幸せそうな涙を零すアーチェと額を合わせて、チェスターもようやく心から笑った。
　最期までの時間は違っても、どちらにとっても長い長い一生を、寄り添って、笑い合って、幸せに生きていこう。
　そうしたいと思える相手と出会えたのが、運命なのだから。

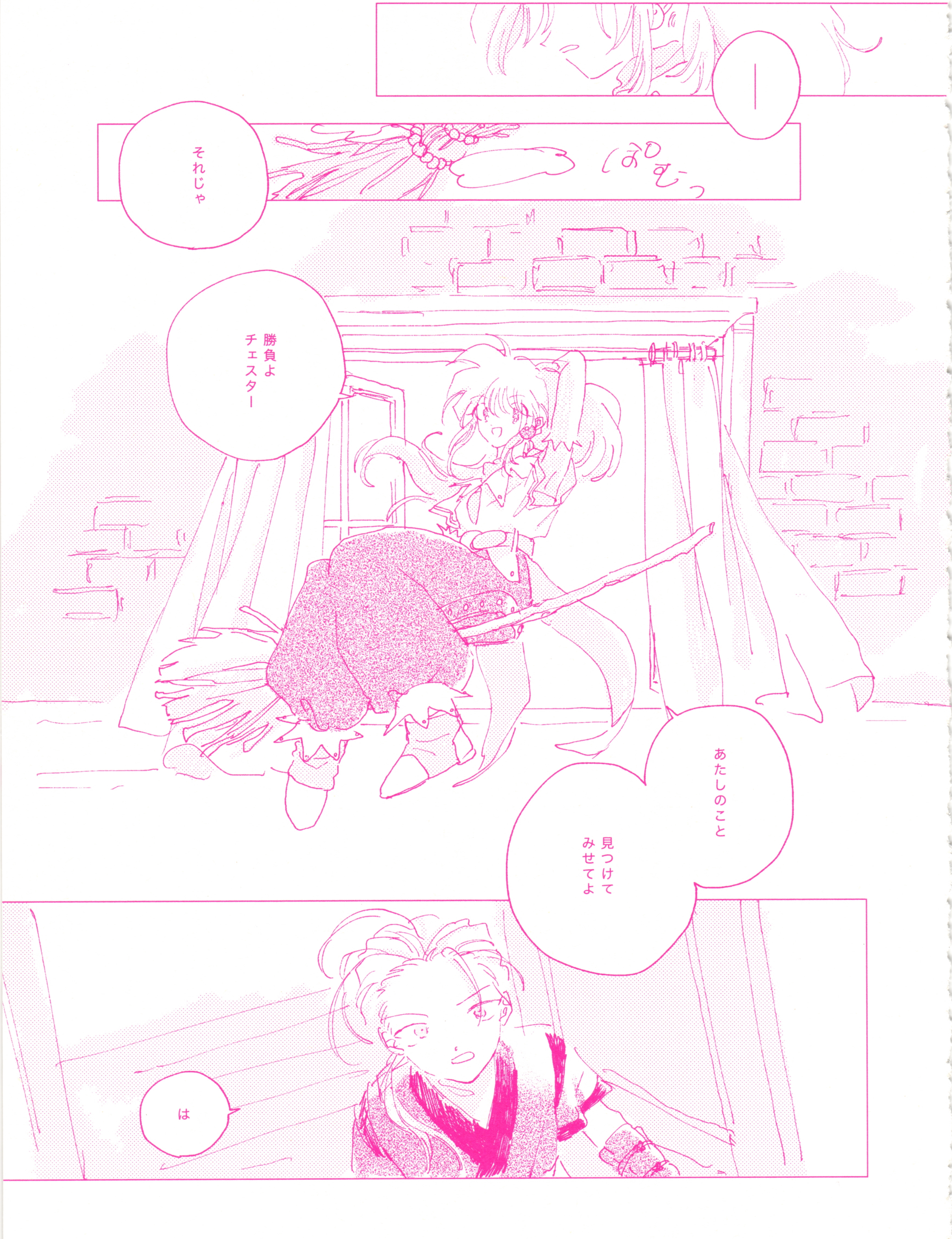
かくれんぼ／とおい

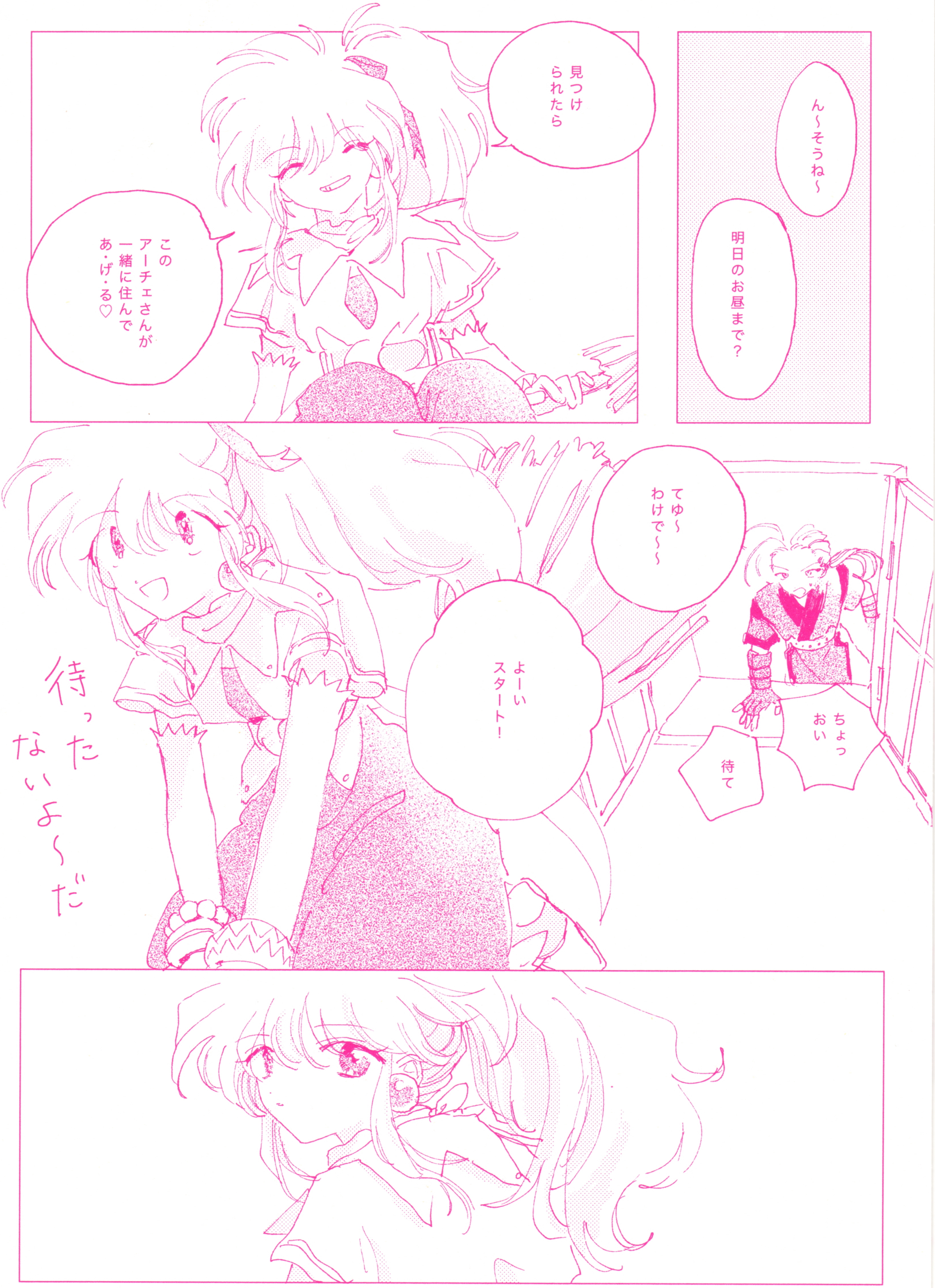

へぇ～
結構いいカンジじゃん
まさかもうアンタんち完成してたなんてね～
んーと、どれだけぶりだっけ？
3
3週間？
さ・ん・か・げ・つ・だ
何回やらせんだコレ
わは
ん～
風がきもちいー
む、てゆーかミントたちおっそーい
もう見終わっちゃったじゃん～


ここが
お前の部屋

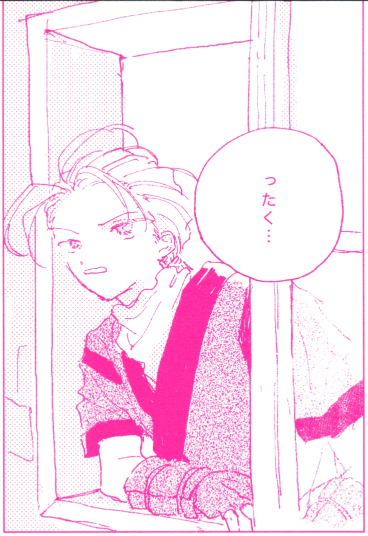

……
あたしの？
そうだ
きゅっ
…ここ、
あんたんちじゃん
ああ
…いらない
って言ったら…どーするわけ？


それでも
ここは
お前の
部屋だよ
だから
帰ってこい
ここに


ー
ぱむっ
それじゃ
勝負よ チェスター
あたしのこと 見つけて みせてよ
は

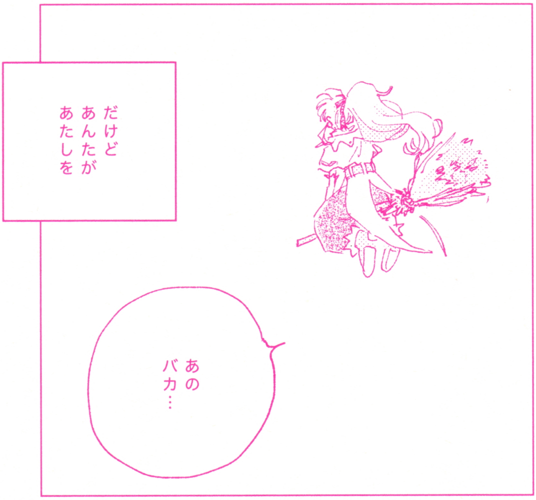


ん～そうね～
明日のお昼まで？
見つけられたら
このアーチェさんが一緒に住んであ・げ・る♡
てゅ～わけで～～
よーいスタート！
ちょっ おい
待て
待ったないよ～だ



ねえ
チェスター

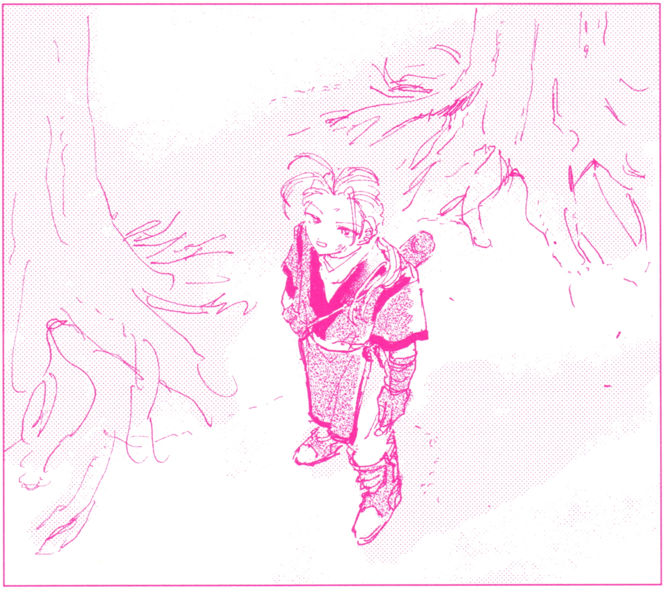
あたしは
きっとまた
ここから
逃げるよ



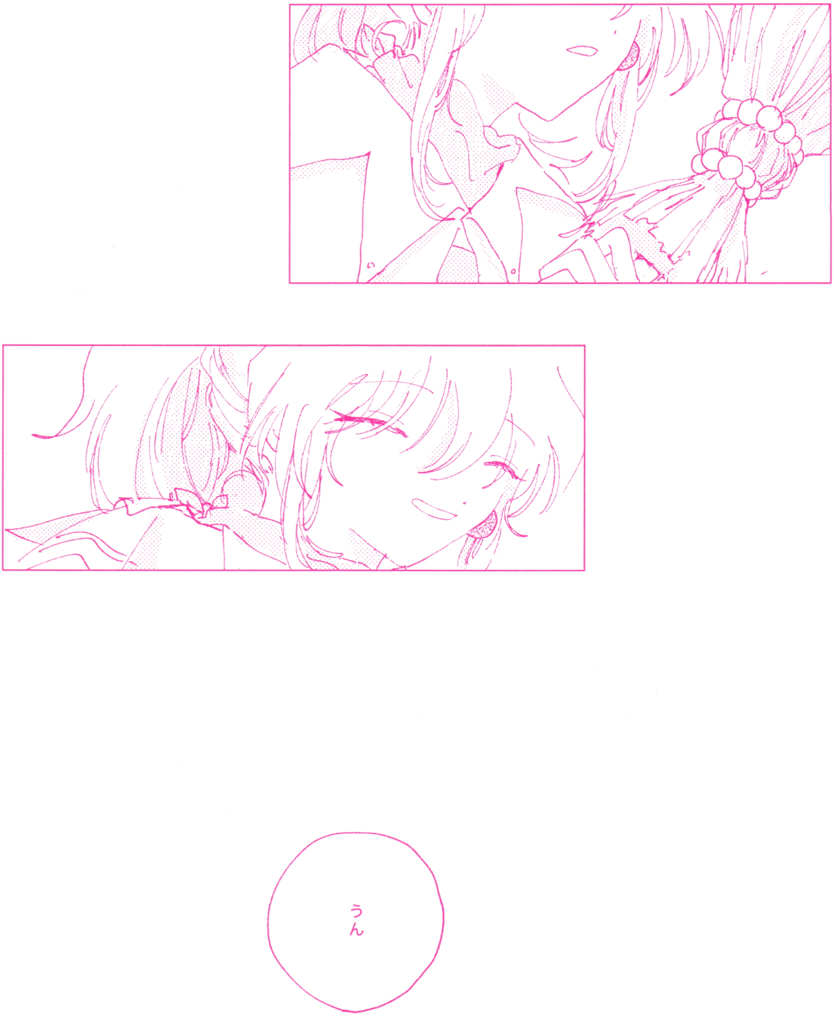
つかまえて
いてくれる
のなら

おい

バカピンク



帰るぞ


うん

name ゆ

Q チェスアーを好きになったきっかけは？

合流時の「な～んか弱そう」のかわいさに一目惚れでした。

Qアーチェはチェスターのどこが好きだと思いますか？

口が悪くて斜に構えても努力家で真っ直ぐなところ！

Qチェスターはアーチェのどこが好きだと思いますか？

明るくて強くていつでも皆を引っ張ってくれるところ！

Q チェスターとアーチェの好きな
シーン/スキット/セリフを教えてください！

スキットの「俺が結婚するなら～」です。かわいい…

Q 今回の作品のチェスターの年齢を教えてください！

20 歳か 21 歳くらいで、色々考え出すお年頃かなと。

Qチェスターとアーチェに一言どうぞ！

どうか永久にお幸せに！

今回素敵な企画にお声かけ頂きましてありがとうございました！チェスアーのプロポーズは想像がとても楽しくて、今回は彼らしいかなとケンカップル方式になりました。チェスアーが結婚することでチェスターはもう家族に先立たれることはないし、ファルケンが生まれたらアーチェも自分がいなくなるまでチェスターの面影と記憶がすぐそばにあるのが本当に素敵だと思います。ファンタジアもチェスアーもずっと大好きです！

contact

---

name とおい

Q チェスアーを好きになったきっかけは？

小さい頃父とTOPしていて、とにかくアーチェがかわいくて好きだったのを
懐古して再プレイしたところ、あまりにも可愛いケンカップルがいて…

Qアーチェはチェスターのどこが好きだと思いますか？

ヤなとこしか思い浮かばない（けど好き）
突っかかったり突っかかられたりしてるうちに
心に住み着いてしまったので仕方ない

Qチェスターはアーチェのどこが好きだと思いますか？

はじめは一目惚れ。からの好みとは正反対だったのに以下略（アーチェ同様）
チェスアーはお互いに好みのタイプと真逆そうで萌える

Q チェスターとアーチェの好きな
シーン/スキット/セリフを教えてください！

ぜんぶ！！ひとつ挙げるなら、キャラトークCDの恋はフルーツポンチ
「何だよ、まだ用かよ」「バーカ。」「ふっ…じゃあな」「じゃあな」　ここ！！！！！

Q 今回の作品のチェスターの年齢を教えてください！

18~20 かなあ…

Qチェスターとアーチェに一言どうぞ！

世界一幸せになってね！！！！

逃げまわるアーチェの居場所を
自分の家に作ってしまうなんて
もはやプロポーズじゃん

という萌えです。（結婚前のアレソレじゃなくてごめんなさい😣）アーチェが彼らに再会できるのは、あの事件に目をつむった後のことなんだと思うと、胸が痛くて仕方なくて。いろんなもの心に抱えて逃げまわっている彼女に、まず物理的に居場所を作ってしまうチェスター、なんて男前なんだ!!!
この世界、想い合う2人のもとにコウノトリが赤ちゃんを運んでくると思っているのですが（※妄想）、チェスアーは同居してるけど告白とかはしてない時点で赤ちゃん運ばれてきて、子育てスタートしますね。それで結婚はというと、しないかも。クレミンの式準備で、なんやかんやで服は着て、2人の特別な時間はあった、みたいな。だといいな。そんな2人だけど一緒に住んでいて、隣にいる。というのにロマンを感じます。

［指輪とかは
全然ロマンチック
じゃない渡し方で
渡してそうで萌える］

contact twitter @ tooi____

ありがとうございました♡

name 森野きこ

Q チェスアーを好きになったきっかけは？

もともと好きですが、近年の皆さまの情熱溢れる作品でさらに深めたいカップリングだと噛み締めています～、、、

Qアーチェはチェスターのどこが好きだと思いますか？

正直わかりません、でも本人も自覚なしの愛…そこはお互いさま？？
離れても好きでいてくれる安心感？後ろめたさ？色？切れ目？
アーチェさん恋愛も結婚も向いてなさそうだけど二人はそこもわかって波長が合いそうですよね。遠い未来にすれ違ったヒトすっごいアイツに似てた～！って報告して息子くんに笑われてほしい

Qチェスターはアーチェのどこが好きだと思いますか？

上記と被るけれど、根本的に違うのは一目惚れ！！！！
アーチェ可愛いもんね～うんうんわかるよチェスターくん
良くも悪くも純粋で一度彼女を守ると決めたらそれしか見えなさそうで、、
アーチェはそんな彼に甘えてますよね、きっと

Q チェスターとアーチェの好きな
シーン/スキット/セリフを教えてください！

アーチェがダオスを倒したら過去に帰るっていう話を聞いてテンションだだ下がるチェスターすきです
物語の最後に、二人が別れる際にようやく意地をはらずに素直にまた会いたいと思い合うのは本当に二人の物語が続くなぁ、幸せだなぁと思いますね

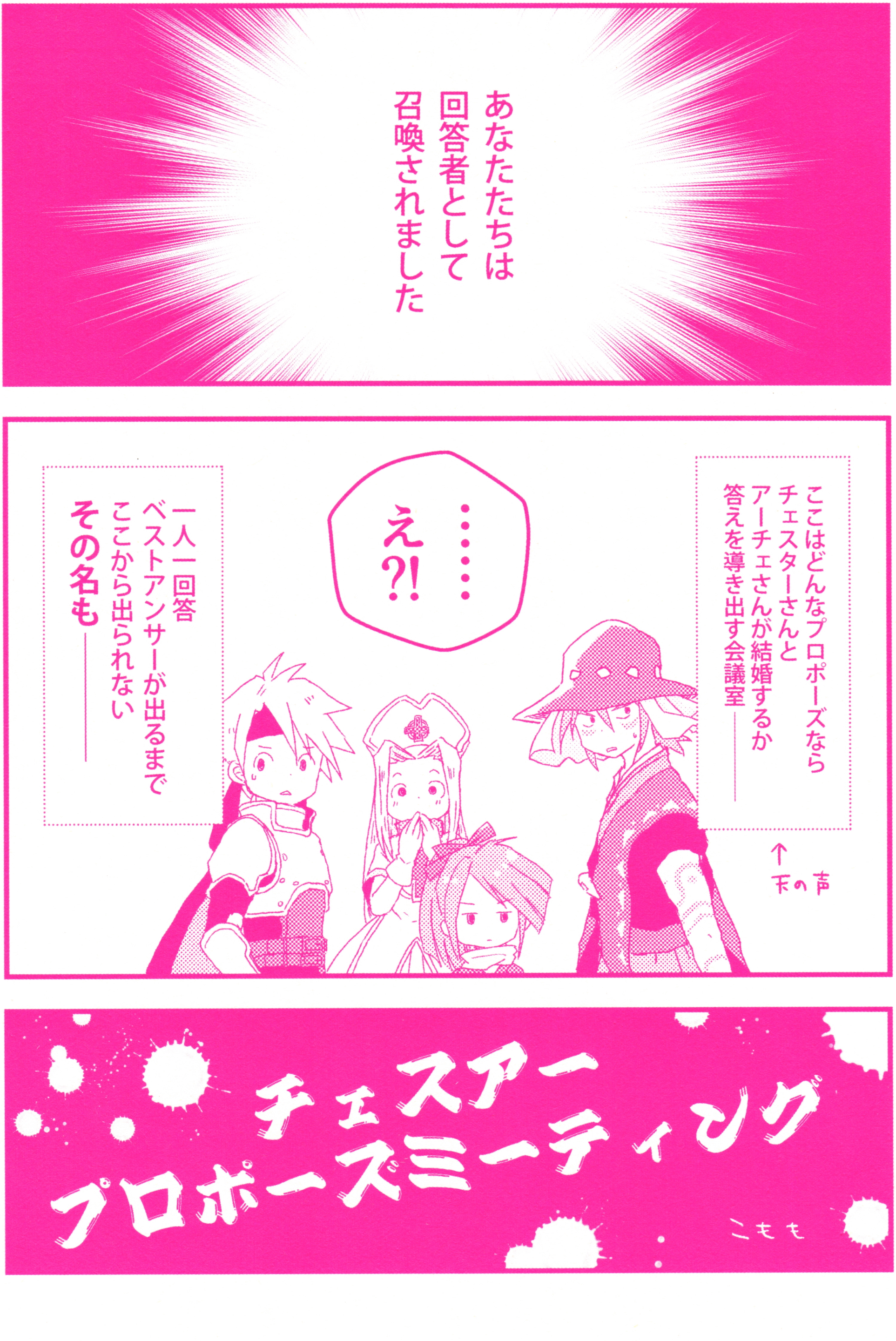
Q 今回の作品のチェスターの年齢を教えてください！

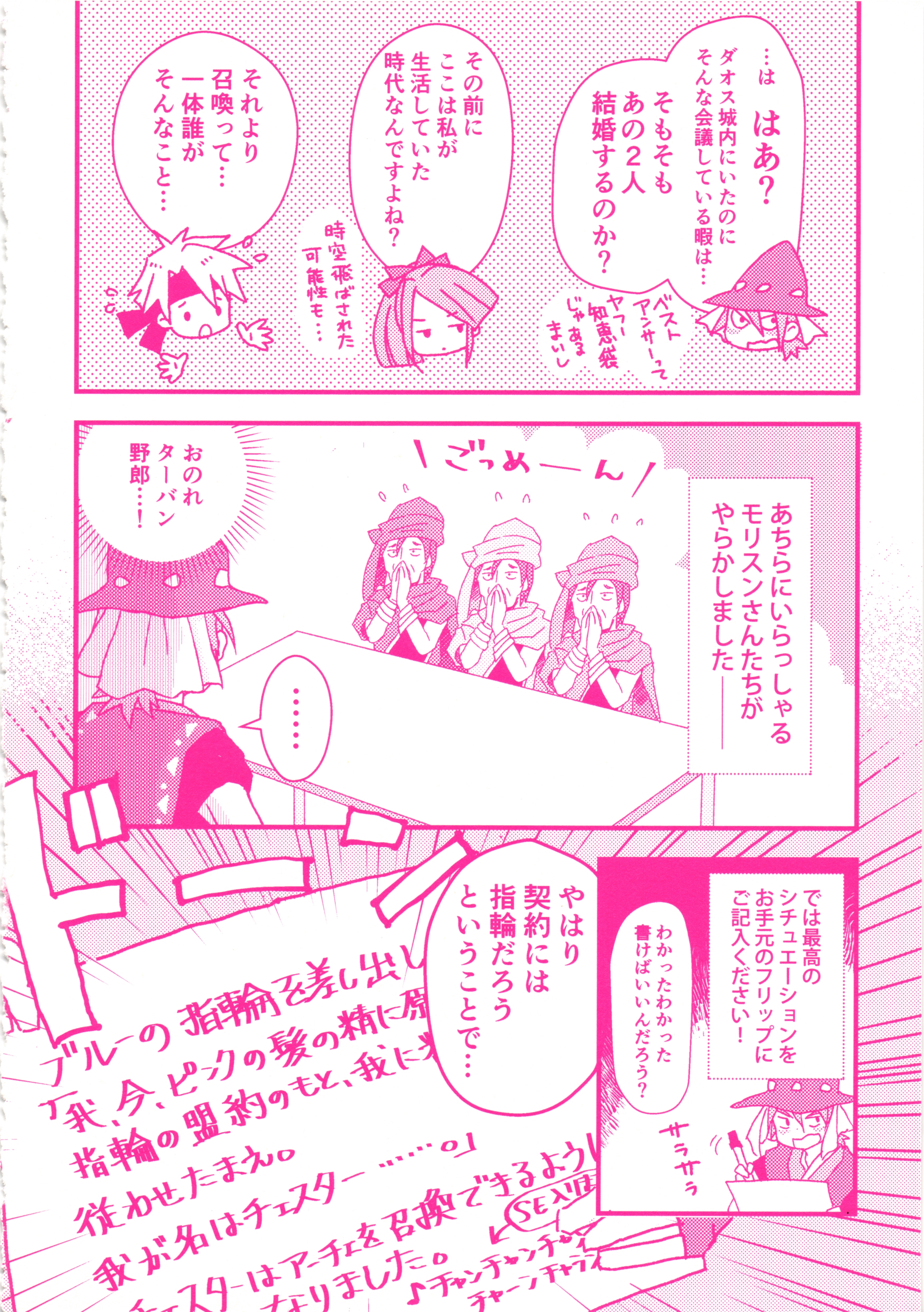
一目惚れなら17歳ですね♡

Qチェスターとアーチェに一言どうぞ！

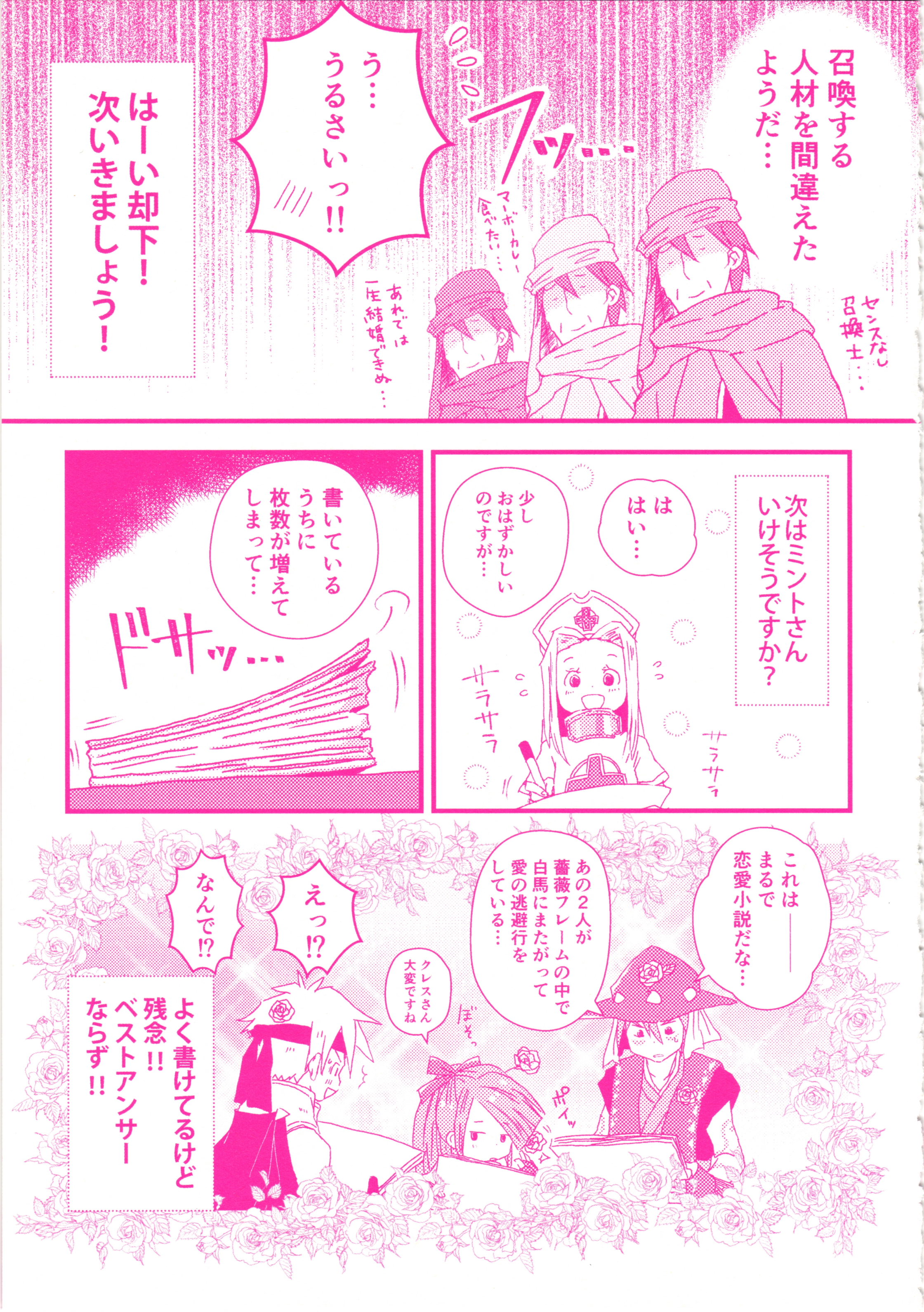
君たちの未来はずっと続いていくよ！
これからも仲良く喧嘩してね♡

contact @kyunkiko

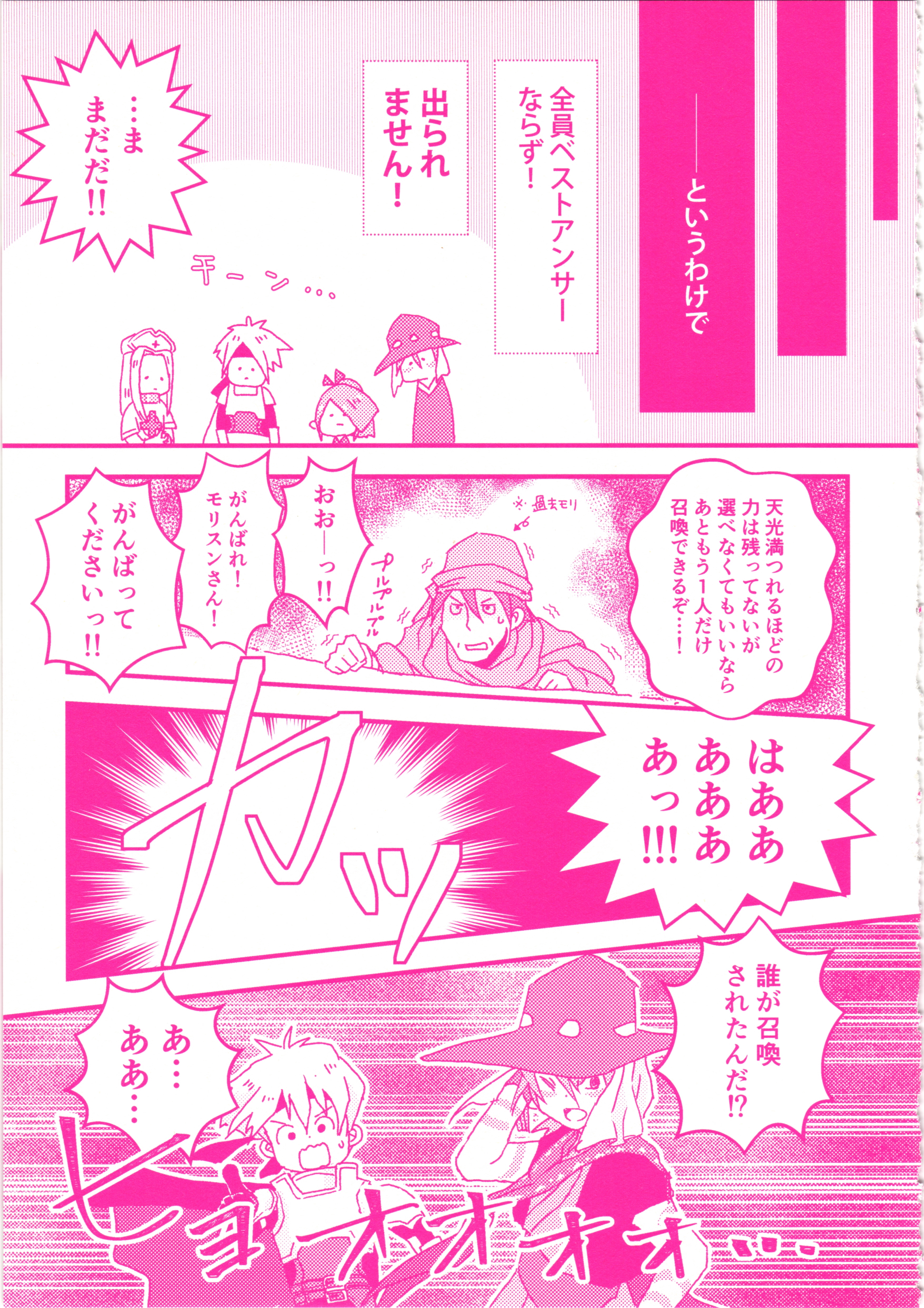

あなたたちは
回答者として
召喚されました
ここはどんなプロポーズなら
チェスターさんとアーチェさんが結婚するか
答えを導き出す会議室――
↑天の声
……え?!
一人一回答
ベストアンサーが出るまで
ここから出られない
その名も――
チェスアー
プロポーズミーティング
こもも



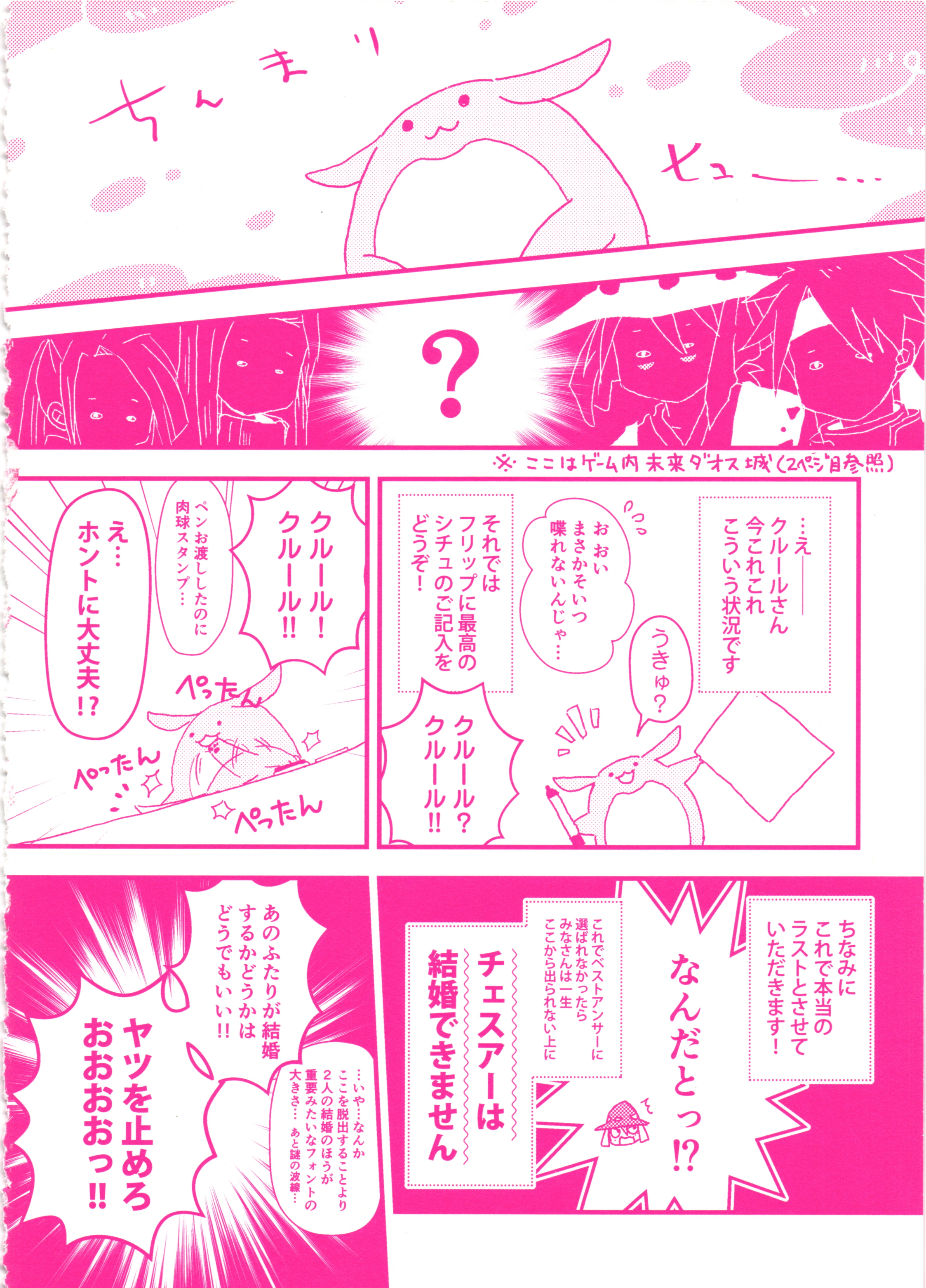
…は
はあ？
ダオス城内にいたのに
そんな会議している暇は…
そもそも
あの２人
結婚するのか？
ベスト
アンサーって
ヤフー知恵袋
じゃあるまいし
その前に
ここは私が
生活していた
時代なんですよね？
時空飛ばされた
可能性も…
それより
召喚って…
一体誰が
そんなこと…
ごっめーん
あちらにいらっしゃる
モリスンさんたちが
やらかしました——
おのれ
ターバン
野郎…！
……
では最高の
シチュエーションを
お手元のフリップに
ご記入ください！
わかったわかった
書けばいいんだろう？
サラサラ
やはり
契約には
指輪だろう
ということで…
ブルーの指輪を差し出し
我、今、ピンクの髪の精に
指輪の盟約のもと、我に
従わせたまえ。
我が名はチェスター……o!
スターはアーチェを召喚できるようり
なりました。
♪チャンチャンチャ
チャーンチャラ

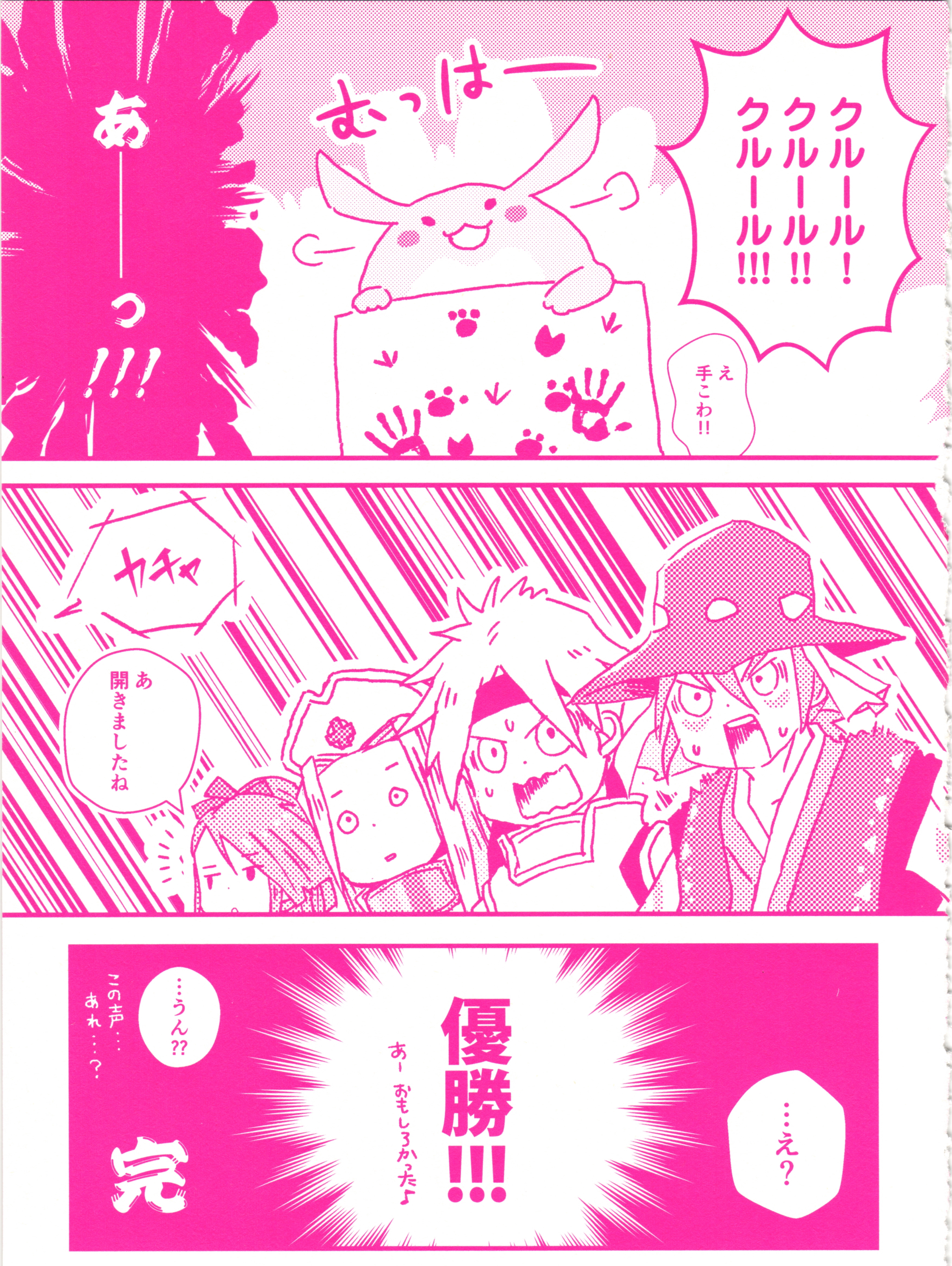

召喚する人材を間違えたようだ…
センスなし召喚士…
フッ…
マーボーカレー食べたい…
あれでは一生結婚できぬ…
う…うるさいっ!!
はーい却下!次いきましょう!
次はミントさんいけそうですか?
はは い…
少しおはずかしいのですが…
サラサラ
サラサラ
書いているうちに枚数が増えてしまって…
ドサッ…
これはまるで恋愛小説だな——…
あの2人が薔薇フレームの中で白馬にまたがって愛の逃避行をしている…
えっ!?
なんで!?
クレスさん大変ですね
ぼそっ
ポイッ
よく書けてるけど残念!!ベストアンサーならず!!

次 クレスさん
やっぱり チェスターはこれくらい 気の利いたこと するんじゃないかな？
きゅうこん うえてるときに きゅうこん
トンッ
シュパパパ…
…サイクロン
フリップ
あっ！
出られるんだろうか…
次 ラスト すずちゃん
自信 あります
チェスターさんの 漢気…
アーチェさんの パワフルで 気まぐれな気質…
——これらを 考慮すると
こんな感じに なると思います
シュンバァァァァ…
あ この絵はですね チェスターさんの大牙が アーチェさんのブラックホールの中
フゴ
クレス！ その春が…いや フリップを 取り上げろ！
あ ハイッ！
…
サッ



――というわけで
全員ベストアンサーならず！
出られません！
…まだだ!!
チーン…。
天光満つれるほどの力は残ってないが選べなくてもいいならあともう1人だけ召喚できるぞ…！
※過去モリ
プルプルプル
おお――っ!!
がんばれ！モリスンさん！
がんばってくださいっ!!
カッ
はあああああっ!!!
誰が召喚されたんだ!?
あ…ああ…
ヒョオオオオ…


ちんまり
ヒュ——…
?
※ここはゲーム内未来ダオス城(2ページ目参照)
…え——クルールさん今これこれこういう状況です
うきゅ?
おおい まさかそいつ喋れないんじゃ…
それではフリップに最高のシチュのご記入をどうぞ!
クルールル?クルールル!!
クルールル!クルールル!!
ペンお渡ししたのに肉球スタンプ…
え…ホントに大丈夫!?
ぺったん
ぺったん
ぺったん
ちなみにこれで本当のラストとさせていただきます!
なんだとっ!?
これでベストアンサーに選ばれなかったらみなさんは一生ここから出られない上に
チェスアーは結婚できません
あのふたりが結婚するかどうかはどうでもいい!!
ヤツを止めろおおおおっ!!
…いや…なんかここを脱出することより2人の結婚のほうが重要みたいなフォントの大きさ… あと謎の波線…


クルール!
クルール!!
クルール!!!
え
手こわ!!
むっはー
あーーっ!!!
カチャ
あ
開きましたね
…え?
優勝!!!
あー おもしろかった♪
…うん??
この声…
あれ…?
完

愛しの魔女に花束を

まぎ子

チェスターとアーチェが一緒に暮らし始めてから、幾度目かの春を迎えた頃。休みの前日は、寝る前に弓矢の特訓に励むのがチェスターの習慣となっていた。わざわざ遅い時間帯に出かけるのは、アーチェに見つかると熱血スポ根野郎とからかわれるからだ。

特訓が終わり帰宅したら、シャワーを浴びて、同居人が占拠しているベッドに潜り込む。寝相の悪さから蹴られたり、ベッドの隅っこに追いやられる事に苛立ちを感じる事もあるが、ぬくもりを感じながら眠るのは悪くない。

――あぁ、ちゃんと隣にいるんだな。

そんな事を実感しながら、チェスターは眠りにつく。

そして、翌日はいつもより遅く起きる――とは言っても、アーチェよりはだいぶ早いが。一緒に暮らすようになったものの、アーチェの家出癖や放浪癖がなかなか抜け切らないものだから、朝起きて隣で眠っている事を確認する度いまだに安堵している事は本人には秘密だ。

――本当よく寝るよな、こいつ。こいつが長生きなのって、起きてる時間が短いせいもあるんじゃねーか？　おいおい、口元からよだれ垂れてるぞ……。

気持ちよさそうに口を開けて眠るその寝顔を眺めていると、自然とチェスターの口元が緩む。半分は呆れから。そしてもう半分は、可愛いとか、愛おしいとか、普段の自分では到底口に出せないような想いから。

顔を洗って着替えた後はアーチェを起こして、一緒に朝食作りに取り組む。これも、今では休日の習慣になりつつある。初めはアーチェが寝ている間にチェスターが朝食を作っていたが、一度アーチェが自分も一緒に作ると言い出し、それが彼女にとっては思いの外楽しかったらしい。

朝食の準備が整ったら、向かい合っていつもより遅めの朝食を頬張る。木製のスープボウルから漂うのは、チェスター特製スープの良い香り。スープを火にかけている間に作ったサラダが、食卓に彩りを添えている。

一方のアーチェの作品は、焦げて固くなったトーストに、これまた焦げたベーコンと、もはや形を成していないぐちゃぐちゃの目玉焼き。美味しいとは言い難いものの、彼女が作る卵料理に殻が入らなかった時点で大成功と言っていいだろう。以前作った卵サンドは口に入れる度にジャリジャリして、作った本人ですら一口食べるなりチェスターに押し付けてきた。

――うん、美味い。

スープを一口すすって、自画自賛する。朝食を味わいながら、最

近の出来事や、他愛無い世間話で盛り上がる。アーチェが雑貨屋に行ったら美人だから安くすると言われただの、最近ベルトがキツくなった、新しくできたご飯屋さんが安くて美味しいせいだ、だの。
そんな、いつもと変わりないはずの平穏な休日の朝——しかしそれは、アーチェの一言により終わりを告げた。
「ねぇチェスター」
「なんだよ」
「あたし達、いつ結婚する？」
「はぁ？」
唐突なアーチェの問いに、チェスターは間の抜けた声しか出なかった。手が滑って、今まさに頬張ろうとしていたベーコンがフォークごと皿の上に落下する。
——ついさっきまで、買い物に行った時の話してなかったか？
混乱した脳内を整理しようと、順番に記憶をたぐり寄せる。雑貨屋の店主が安くしてくれるというので新しい腕輪を買ったら、他の店で全く同じ物がもっと安く売られていた、とアーチェが憤っていたのはたった数分前の事だ。「その店主、商品の価値だけでなく女を見る目も無いんだな」なんて軽口を叩いたら、食後用のとってきのメロンを全部アーチェに食べられた。ミントに傷を治療してもらった老婦がお礼に教会に持ってきたというのを、お裾分けしてもらった分だ。
——えーと、せっかくミントから分けてもらった高級メロンなんだぞって文句言ったら、だんだん話がずれていって……。
「もう長いこと一緒に住んでるし、今更あんま変わんないとは思うんだけどさ。さっきも話題に出たけど、クレスとミントの結婚式ももうすぐじゃん？　で、あたし達もそろそろどうかなって」
——そうだ。結構な高級品だし、治療は当然の事だからってミントが受け取るのを遠慮したら、なら結婚祝いって事で受け取ってくれって言われたんだっけ。コイツなら遠慮なくふたつ返事で受け取るんだろうな……って、そうじゃなくて！
話の流れは思い出したものの、チェスターの脳内は依然として混乱が続いていた。アーチェから言われた言葉を理解して、顔が熱くなる。
「お、おい、お前……」
「何？　もしかして、今更嫌とか言い出すつもりじゃないでしょーね？　百年も待たせといて」
アーチェから半目で睨まれ、チェスターが慌てて否定する。
「そ、そうじゃないけどよ」
「……じゃなかったら、何？」
アーチェが期待に満ちた眼差しを向ける。いつもより更に大きく見開かれた赤い瞳に、チェスターは心の中まで全て見透かされているような錯覚に陥った。鼓動が激しくなっていくのを感じる。

実のところ、最近のチェスターは、アーチェに結婚を申し込む機会をずっと伺っていた。ただ、結婚するにあたってチェスター自身の中でまだ課題が残っていたし、今朝は完全に不意打ちだった。それに、やはりこういう事は男である自分から言いたい、という気持ちもある。

——まさか先に言われるなんて。

コーヒーと共にその言葉を流し込み、息を整えた後に軽く咳払いをする。

「……悪い、ちょっと時間くれ」

気が動転したあまり言葉を選び間違えた、とチェスターが気づいた次の瞬間にはもう遅かった。

＊

「なぁチェスター、そろそろ何とかできないかな」

「……あのバカ、またミントの事とっ捕まえてんのか」

困った顔で話しかけてくる親友に申し訳なさを感じながら、チェスターが溜息をつく。

旅を終えてから、トーティスの生き残りであるクレスとチェスターは率先して復興計画に取り組む立場となり、話し合いの場を定期的に設けていた。新しく完成した村の集会所で開催するようになってからは、参加するメンバーも増え、回を重ねるごとに話し合いも活気付いている。今回の集まりが解散となったところで周りに誰も残っていない事を確認した後、クレスが話しかけてきたのだ。

「もう、ここのところ毎晩だよ……。僕が今朝家を出る時は、二日酔いでまだ寝てた。あんなんじゃ身体を壊すんじゃないかって、ミントも心配してる」

あの朝、チェスターの煮え切らない態度に業を煮やしたアーチェは、箒を掴むやいなや家を飛びだし、そのままクレスとミントの新居に転がり込んでしまった。

勿論チェスターも何度か連れ戻そうと試みたのだが、会うのを頑なに拒絶されてしまい、顔も拝めていない。今は居場所が分かっているから安心だが、下手に無理強いをして刺激すると村から出ていきかねない——アーチェの現状を把握しているクレス達とも話し合った結果、アーチェが落ち着くまで待っていた方が良いのでは、という結論に至ったのだ。

アーチェが夜な夜なミントに愚痴りながら晩酌に付き合わせるものだから、クレスもろくにミントと二人の時間を持てていない。寝室は女性陣に譲り、居間のソファで身体を小さく折り曲げて眠っている始末だ。

「悪いな、新婚気分を邪魔して」

「いやそんな、新婚だなんて。まだ先だよ」

チェスターの冷やかしに締まりのない笑顔で返すクレスを見ながら、ふっと笑う。そして、考えてしまう。もし自分達にもクレスとミントのような素直さがあったなら、こんなに拗れてはいなかっただろうか——比べるものではないと分かってはいるが、そう嘆いてしまうくらい、今のチェスターには打つ手がなかった。

アーチェともうどのくらいマトモに顔を合わせてないだろう、と思い返す。しかも一番新しい記憶は、顔を真っ赤にして唇を震わせる、怒りと泣く一歩手前が混ざった表情だ。チェスターとしては、思い出す度に胸が痛い。

ミントに聞いたところ、どうやらアーチェの中では「チェスターにプロポーズをして断られた」という認識になっているらしい。それ以来、アーチェを捕まえようとしても、すぐに飛び去って逃げられてしまうのだ。

——完全に誤解してやがるんだよな……。俺も、何でもっと上手く返せなかったんだ……。

あの日の事を思い出す度に、チェスターは頭を抱えていた。時空転移が出来るものなら戻りたい、とすら思ってしまう。

「で、チェスターはどうするんだ？……ちゃんと結婚するつもりだったたって、伝えないのか？」

そうクレスに問いかけられ、チェスターが言葉を詰まらせる。

——そうなんだよな……。

旅を終えた後ミントがトーティスに移住し、アーチェも再会してから、チェスターとクレスは様々な話をしてきた。昔のトーティスと、互いの家族の思い出話。まるでおとぎ話のような、時空を超えた旅の記憶。相変わらず馬鹿話をしたり、少年時代のようにはしゃいで狩りの計画を練る時もある。

そして、村の復興についての打ち合せや、それぞれの恋人との話。最近は、結婚に関する話題も多かった。故郷を失い、英雄や復興責任者といった多くの責任を背負う立場となった二人は、いつしか大人の男への仲間入りを果たしていた。

「……今のタイミングで言っても説得力無いだろ。アイツに言われたから渋々結婚する、なんて間違った解釈されかねないしな。そもそも会う事すら出来ないんじゃお手上げだ」

「……確かに」

二人揃って肩を落とし、溜息をつく。

クレスと違って、チェスターには継ぐような家は無い。家庭を持ってこそ一人前の男だとか、そんな考えも到底持ち合わせていないし、周りからどう見られようと気にならない。アーチェとこれから先も共に過ごす事ができるなら、何も結婚という形にこだわる必要は無いと思っていた。

それならば、何故わざわざプロポーズのタイミングを計っていたのか——もし誰かにそう問われると、気恥ずかしくて到底答える事

は出来ないだろう。きっかけは、半年近く前に遡る。

クレスがミントにプロポーズをしたという報告を、二人から受けたあの日。チェスターとアーチェは自分の事のように喜び、祝杯という名目で四人で遅くまで酒を酌み交わした。

プロポーズが成功して安心したような、誇らしげで幸せそうなクレスの表情を、いまだにはっきりと覚えている。ミントは、今までチェスターが見たことない程幸せそうで、村中の男が見惚れるんじゃないかという程の笑顔をしていて。そんなミントを眺めながら、酩酊状態のアーチェが「いいなぁ」と呟いたのを、チェスターは聞き逃さなかった。

――ミント、良い顔してるな。……よしっ。アーチェのあんな表情を見れるなら、俺だって――

酔いの回り出した頭で、柄にも無くそんな事を思った。

あの日を境に具体的に考え出したチェスターは、惚れた女を喜ばせたい一心で、クレスやミントに相談もした。だが、翌日以降のアーチェはすっかりいつもの調子に戻って飄々としているものだから、次第に自信が無くなっていった。

特に、アーチェの家出癖はチェスターを躊躇わせた。チェスターと喧嘩した時。父親の墓参りでローンヴァレイに行った時。ある時は、朝から姿が見えず心配していたら、夜にベネツィア土産を大量に抱えて戻ってきた。雪景色を見たくなった、と一文だけの置き手紙を残してひと月近く留守にしたと思いきや、アーリィまで出かけていた事もある。

せめて行き先と期間を伝えていく事を約束させたものの、整理や片付けといったものはアーチェが特に苦手とする分野なものだから、書き置きが見つからない事も往々にしてあった。帰ってきたアーチェのズボンのポケットから、置いて行き忘れた手紙が出てきた事も、一度や二度の話ではない。

元々自由奔放なアーチェではあったが、まるで百年の間に磨きがかかったようだった。そして、その自由奔放さは度々チェスターを悩ませると同時に、彼女の魅力の一つでもあった。そんなアーチェを見ていると、果たして結婚という形が一番良いのか、自由な野良猫に無理やり首輪をつけて縛り付けるような事にならないだろうか、彼女が天寿を全うするその時まで自分が傍らにいられるわけではないのに――なんて迷いが生じてしまって。具体的に行動に移す機会を逃したまま時間が過ぎてしまっている内にあの朝を迎えた、というわけだ。

――チェスターのバカ！

――時間くれって、あとどんだけ待てば良いのよ！

――百年だよ？ あたし、もう百年も待ったんだからね！

――これ以上待ってたら……一緒にいられる時間、どんどん減っちゃうじゃん……。

アーチェに言われた言葉を、今まで何度も噛み締めた。罵られるだけだったら、どんなにか気が楽だっただろう。
「だせぇな、俺」
大切だからこそ、彼女の人生にとって一番良い選択は何なのか考えていたし、タイミングも見計らっていた。その結果泣かせてしまうなんて、とんだ皮肉だ。
「チェスター……大丈夫か？」
自嘲気味に呟くチェスターに、心配そうにクレスが問いかける。
「あぁ……何とかする」
——そうだ、絶対に何とかしてみせる。やっとまた会えたのに、このまま終わらせてたまるか。
心の中でそう付け足しながら、チェスターは力強く応えた。

*

「悪いな、教会も忙しいだろうに呼び出して」
「いえ、大丈夫ですよ。最近は法術や教会に興味を持ってくださる方も増えてきて、人手も潤ってきましたし」
チェスターの謝罪の言葉に対して、ミントが首を横に振りながら柔らかく微笑む。
「それで……お話って、アーチェさんの事ですよね？」
「……アイツ、どうしてる？　夜な夜なミントを晩酌に付き合わせてるってクレスが嘆いてたけど」
「そうですね……明るく振る舞われてますが、やはり空元気かと思います」
「だよな……」
少し間を置いた後、ミントが再び口を開く。
「その……私、正直に言うと、アーチェさんから結婚を切り出した事が意外だったんです」
「あぁ、それは俺も……」
アーチェの事だから、てっきりプロポーズはチェスターの方から期待しているかと思っていた。
「アーチェさん、話してくださったんです。なぜ自分から切り出したのか」

つい数日前の事。アーチェが家を飛び出して、もう半月以上が経過していた。初めはアーチェも言葉を濁していたが、夜ミントと二人になると、酒の力もあり少しずつ語ってくれるようになった。
バートの死後ずっと一人で暮らしていたため、誰かが同じ家にいる暮らしに初めはなかなか慣れなかった事。たまにふらっと出かけては、気の赴くままに行動していた事。でもいつからか、外でひとりで過ごす自由気ままさよりも、家に帰ってきた時に安堵する気持

ちの方が大きくなっていた事。

「……アイツと暮らすの、思ってたよりずっと居心地良くってさ。心配する事なんか、何も無いんだって思えてきて。あたし、皆より百年多く生きてきたわけじゃん？　で、これから先も長く生きる。……そう思うと、なんか、勿体無いなって思うようになって」

「勿体無い、ですか？」

「そっ」

伏し目がちに笑った後、アーチェが言葉を紡ぐ。

「百歳を超えても、あたしも女だからさ。そりゃプロポーズしてもらう事への憧れもあるけど……でも、それにこだわってたら、アイツおじーちゃんになっちゃう。あたしの長い人生の内、少ししか一緒にいられないなら……時間が勿体無い、ちょっとでも多く一緒にいたいなって、そう思ったの」

「アーチェさん……」

「それにさ、待ってるだけなんて、あたしらしくないじゃん？　で、自分から言っちゃったんだよね」

明るく言った後、溜息をつくアーチェにミントが優しく返す。

「きっとチェスターさんも、アーチェさんとずっと一緒にいたいと思っているはずです」

「うん、ありがとう。……でも、今はアイツの考えを聞くのが怖い」

「アーチェさん……」

「さ、ミントも飲んだ飲んだ」

グラスの中の酒をぐいっと飲み干し、アーチェはいつものように笑いながらミントに酒を勧めた。

「あいつ、そんな事考えてたのか」

ミントの話を聞いている内に、そういえば、最近は以前より家を出ていく頻度も減っていた事に気付く。そして、あの日の事——長年抱いていたであろう女性としての憧れやこだわりよりも、自分との未来を大切にし、優先してくれたのだ。

そう思った瞬間、一刻も早く会いたくてたまらなくなった。

「……なぁミント、ちょっと頼みがあるんだけどさ」

*

目前の墓石に花を飾った後、手を合わせて目を閉じる。チェスターがしばし祈りを捧げていると、背後からよく聞き慣れた声がした。

「……なんで、あんたがここにいんのよ」

チェスターが振り向くと、ふてくされた表情の中に驚きを浮かべたアーチェの顔がそこにあった。

「よぉ、元気だったか？」

「なんでこの場所——あっ！　もしかしてミントから！」

「おっと、ミントの事は責めないでくれよな。俺が頼みこんで教えてもらったんだ。……ずっと、お前の親父さんに挨拶したかったからさ」
今日はバートの月命日だ。毎月ではないものの、アーチェがバートの墓参りに行くのは月命日だったり、何か塞ぎ込んでいるタイミングが多い。チェスターと喧嘩中のこのタイミングなら、バートの墓前に現れる可能性が高いと踏んで先回りした。
今までチェスターも何度か墓参りに同行させてもらおうとしたが、アーチェが前触れも無く家出してしまったり、「箒で行った方が早い」と一人で飛んで行ってしまうものだから、機会を逃し続けていた。そんな中、ミントは法術師として祈祷を捧げに趣いた事があり、場所を教えてもらったのだった。
「俺、お前に話があるんだ」
「やめて、離してよ！　聞きたくないってば！」
踵を返してその場を離れようとするアーチェの腕を、チェスターが慌てて掴む。アーチェは全力で振り払おうとするが、力の差は歴然で、掴まれた部分はびくともしない。
「いいから落ち着け――痛っ。おい噛むな！」
抵抗したアーチェが、チェスターの腕に全力で噛み付く。まるで手負いの獣だ。
「やだって言ってるでしょ！　あたしの事なんて放っておけばいいじゃん！」
「放っておけるわけないだろ」
「何を今更……」
――やっと捕まえたんだ、絶対離すもんか。
逃れようとするアーチェの腕を、必死に掴み続ける。
「だから、完全に誤解なんだって」
「何がよ！」
「俺と結婚してくれ」
アーチェが一瞬固まった隙を狙って、その華奢な身体ごと両腕の中に閉じ込める。初めは抵抗していた力が、徐々に抜けていく。
「俺はお前と結婚したいって、ずっと思ってた。もちろん今だってな。……これでも、結構前から考えてたんだぜ」
「嘘……」
「嘘な訳あるか！　この先もずっと、お前と一緒にいたいと思ってる。じゃなきゃ、家なんて建てねーよ」
「それは……」
説得力のある言葉にアーチェが口ごもる。アーチェと共に暮らすためにチェスターが建てた家は、部屋の広さや配置といった間取り全て、二人で話し合って決めた。意見が割れて揉める事もあったが、その甲斐あって、二人にとって居心地の良い家が完成したのだ。
「ほら」

「へっ？　何これ」
目の前に差し出された物を、反射的にアーチェが受け取る。何とも愛らしい色合いの、ピンク色のチューリップを主役に据えた花束。
「これ、お前に」
「あたし？　お父さんのお墓じゃなくて？」
「親父さんには可愛すぎるだろ」
軽く笑った後、チェスターは咳払いをしてアーチェの瞳を見つめた。真剣な瞳に、アーチェの心臓が跳ねる。
「……これはその、お前に……プロポーズ用の花束ってやつだ」
顔を真っ赤にしながら続けるチェスターの言葉を聞きながら、アーチェは自分の顔も熱くなっていくのを感じていた。
「……あの日、うまく返せなくて悪かった。時間くれって言ったのはさ……お前にとって何が一番良いか、俺なりに考えてる時だったんだよ。将来の事とか、プロポーズの事とか」
「そう……だったの？」
「あぁ。それに俺、過去に行ってないからさ……お前の親父さんと会った事無いだろ。大事な娘が、百年も後の世界で、会った事も無い男の嫁になるって思ったらさ……。なんつーか、お前に結婚を申し込む前に、ちゃんと挨拶しときたかったんだよな」
アーチェと結婚するにあたって、チェスターが課題としていた事だ。チェスターが胸の内を明かすのを、アーチェが黙ったまま耳を傾ける。
「お前、いつも一人で親父さんとこ行っちまってたからさ」
「あ……」
何度かチェスターから墓参りへの同行の申し出があったものの、先送りにしていた事をアーチェは思い出す。
「……悪かったな、勝手に土足で踏み込むような真似しちまって」
「そんな事無い！」
アーチェが慌てて否定する。
「あたし、あんたがそんな事考えてるなんて思わなかったから……。村の復興も忙しいし、一人でパッと行った方が手っ取り早いかなって……その、来てくれてありがとね。きっと、お父さんも喜んでる」
「だったら、はるばる来た甲斐あるな」
しおらしくお礼を言うアーチェに微笑みかけながら、チェスターがそっと頭を撫でた。
「でもさ。もうちょっと良い返し方があったんじゃない？　いまいちデリカシーに欠けるっていうかさ」
チェスターに撫でられた箇所を抑えながら、アーチェが憎まれ口を叩こうとするが、照れ隠しである事を赤く染まった頬が物語っている。
「あれはだって……完全に想定外だったんだよ。まさかあんなムードもへったくれも無い状況で、お前から言い出すとか思わないだろ」

「あんたの口から、ムードなんて言葉が出るとはね」
聞きなれない単語に、アーチェがくすくす笑う。
「し、仕方ねーだろ！……そういうのも気にした方が喜ぶかなって、ずっと考えてたんだよ」
「ずっとって……それ、いつから？」
いたずらっぽく、上目遣いでアーチェが問いかける。
「……内緒」
「何それずるい！ねぇ、いつから考えてたの？」
「あーもう、うるせーな。少なくとも、お前から切り出されるよりは前だよ」
「どーだか。言うだけなら簡単だしね」
「……ほら、証拠品」
チェスターがポケットから小箱を取り出すと、アーチェの左手を握り、小箱に収まっていた指輪をそっと嵌めた。
「えっ……？　これ……」
左手の薬指とチェスターの顔を交互に見て、アーチェが呟く。赤い瞳からぽろぽろと溢れ出す涙を、チェスターが親指で拭った。
「完成するまで三ヶ月。フルオーダーの特注品だ」
クレスとミントのように、出会ってからずっと傍で支え合い、同じ時を刻んできたわけではない。クラースとミラルドのように、数多くの思い出を共有し、長年連れ添ってきた関係でもない。自分達の場合、共に過ごせるのは、ハーフエルフの長い人生の間のごく一部だ。そんな自分達だからこそ相応しいプロポーズを、チェスターは長い時間をかけて考えていた。
「何つーか……お前にとって、特別な思い出に残るようにしたかったんだよな。百年だろうが千年だろうが、お前がどんだけ長く生きても、色褪せないような……そんなとびっきりのやつ。……女の憧れなんだろ？　プロポーズってやつは」
考えすぎてしくじっちまったけどな――そう付け足しながら、チェスターが視線を逸らす。耳まで真っ赤だ。チェスターの左腕に、アーチェが両腕を絡めてもたれ掛かる。
「……バカ。慣れない事しようとするから」
「だな。……で、返事は？」
「んー、どうしよっかな？　まぁ、チェスター君がどうしてもアーチェさんと結婚したいって言うなら、考えてあげてもいいけど？」
「言うと思った」
二人で笑い合った後、どちらからともなく顔を近付ける。チェスターが目を瞑ろうとした瞬間、風が吹き、バートの墓前に供えた花が踊るように揺れるのが見えた。
――まるで親父さんが喜んでるみたいだな。
そんな事を考えながら、そっと目を瞑った。

name こもも

Q チェスアーを好きになったきっかけは?

ピンクとブルー かわいい！キキララのよう。

Qアーチェはチェスターのどこが好きだと思いますか?

裏表ないところ

Qチェスターはアーチェのどこが好きだと思いますか?

↑同じだと思う！

Q チェスターとアーチェの好きな
シーン/スキット/セリフを教えてください!

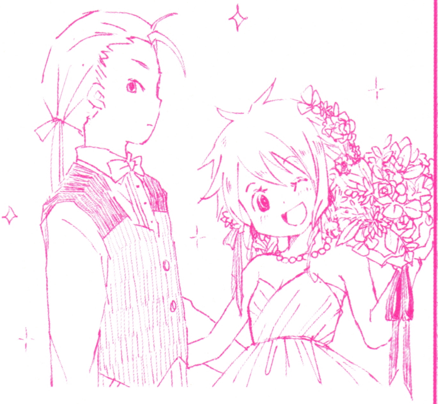
空はどうして青いの?ってスキットなかったでしたっけ?
あれです。

Q 今回の作品のチェスターの年齢を教えてください!

チェスアープロポアンソロなのに本人たち不在で描いてしまい
申し訳ないんですが、ダオス城内らしいので17ですかね?

Qチェスターとアーチェに一言どうぞ!

仲良くケンカしてね♡



contact @puchi0202

name まぎ子

Q チェスアーを好きになったきっかけは?

昔過ぎてうろ覚えですが…
本編プレイ時からじわじわ好きになっていって、一気に好きになった
きっかけはドラマCDな気がします。

Qアーチェはチェスターのどこが好きだと思いますか?

努力家なところ。その一面を知って意識しだして、妹思いだったり、仲間思いだったり、すずちゃんに対して面倒見が良かったり、周りへの態度も見て更に惹かれていったのかな〜…しかもなんだかんだで自分へも優しくて包容力がある事に気付いた時には既に恋に落ちていた、とか…(妄想)。

Qチェスターはアーチェのどこが好きだと思いますか?

天真爛漫で、表情がくるくる変わるところ。クールで皮肉屋に見られがちだけど、義理堅くて情熱家(しかもスケベ)という外見と内面のギャップが大きいのは、親を失ってから、いろいろ抑え込みながら生きてきた影響もあると思うので…自分とは違う感じが眩しくて惹かれたのかな、と。

Q チェスターとアーチェの好きな
シーン/スキット/セリフを教えてください!

・チェスターの特訓イベント、決戦前夜、バカって言い合う場面
特にチェスターの放つ「バカ」は、言い方ひとつでからかってたり怒ってたり、呆れてたり愛情表情だったり…バリエーションに富んでいるところが大好きです。レイニーデイ・ブルーでアーチェに優しく囁く「バカ」は最高…。

Q 今回の作品のチェスターの年齢を教えてください!

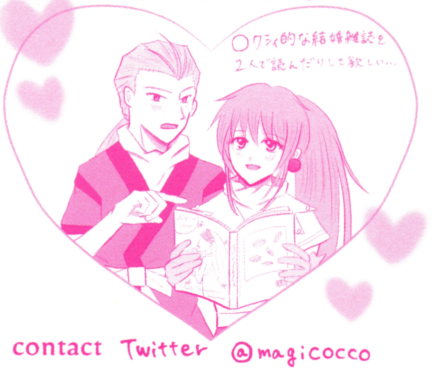
20代初めくらい

Qチェスターとアーチェに一言どうぞ!

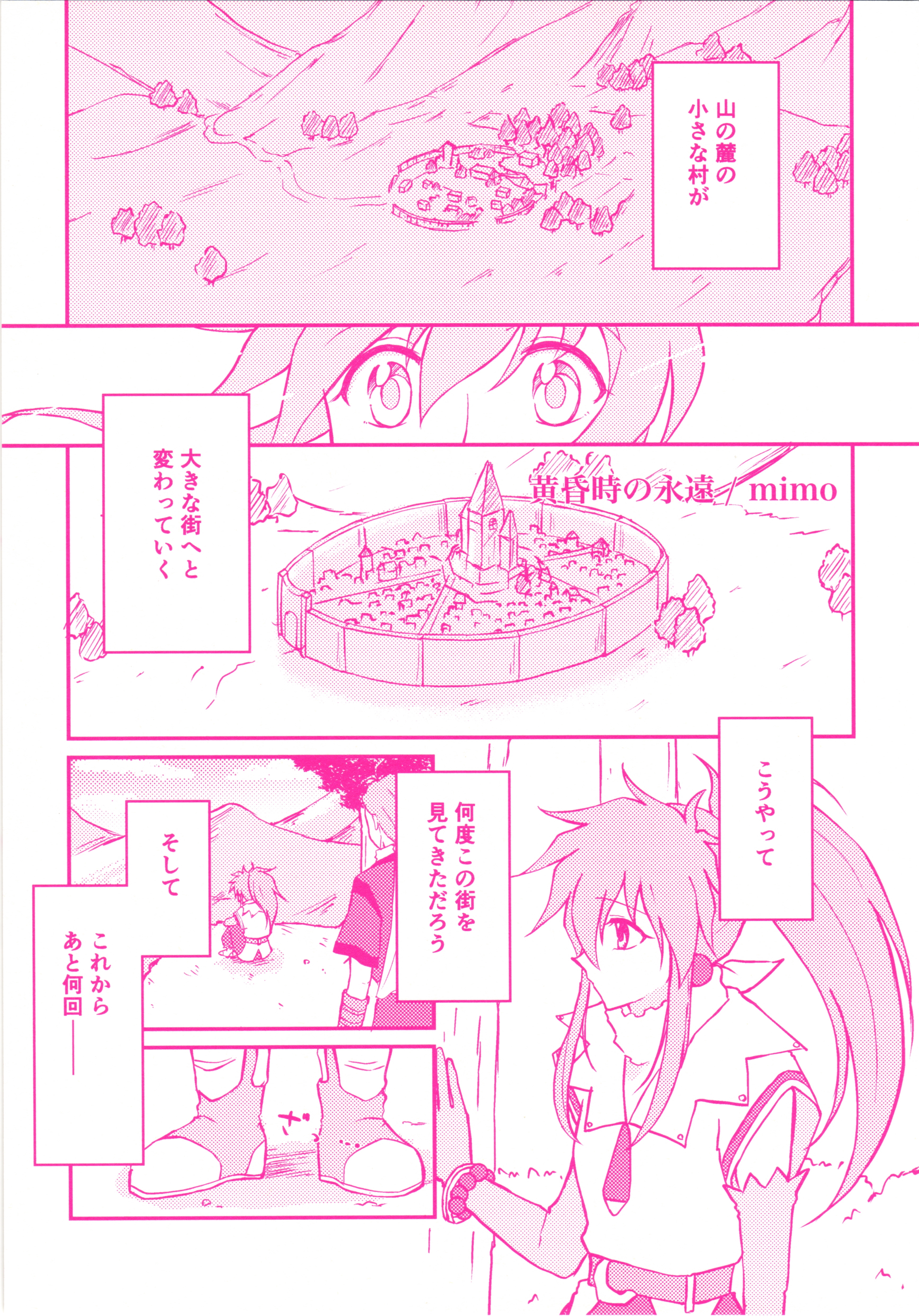
末永くお幸せに！！
一生仲良くケンカップルしてください！！！

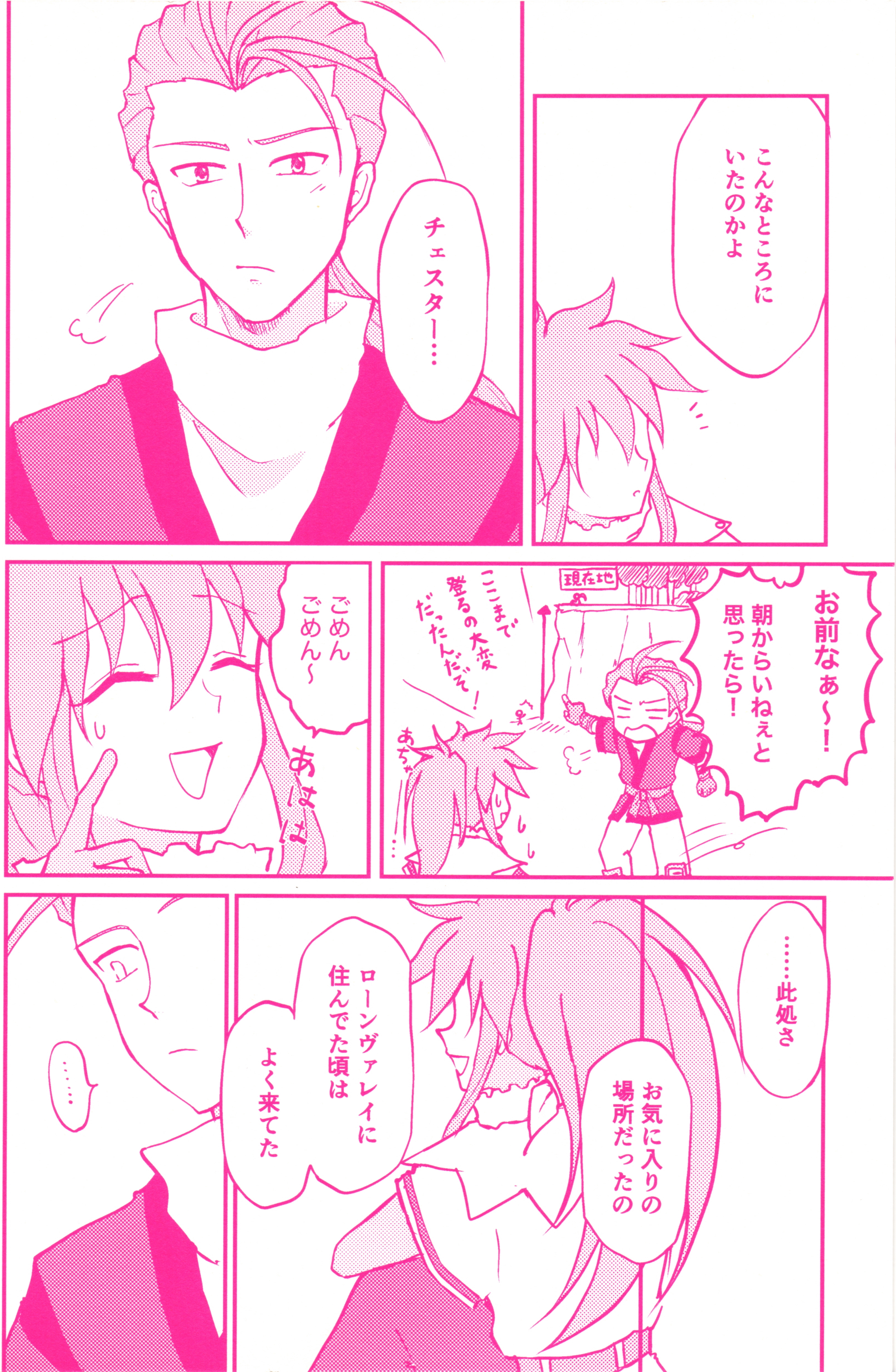
✧ 素敵なアンソロ企画 ✧
ありがとうございました!! ✧

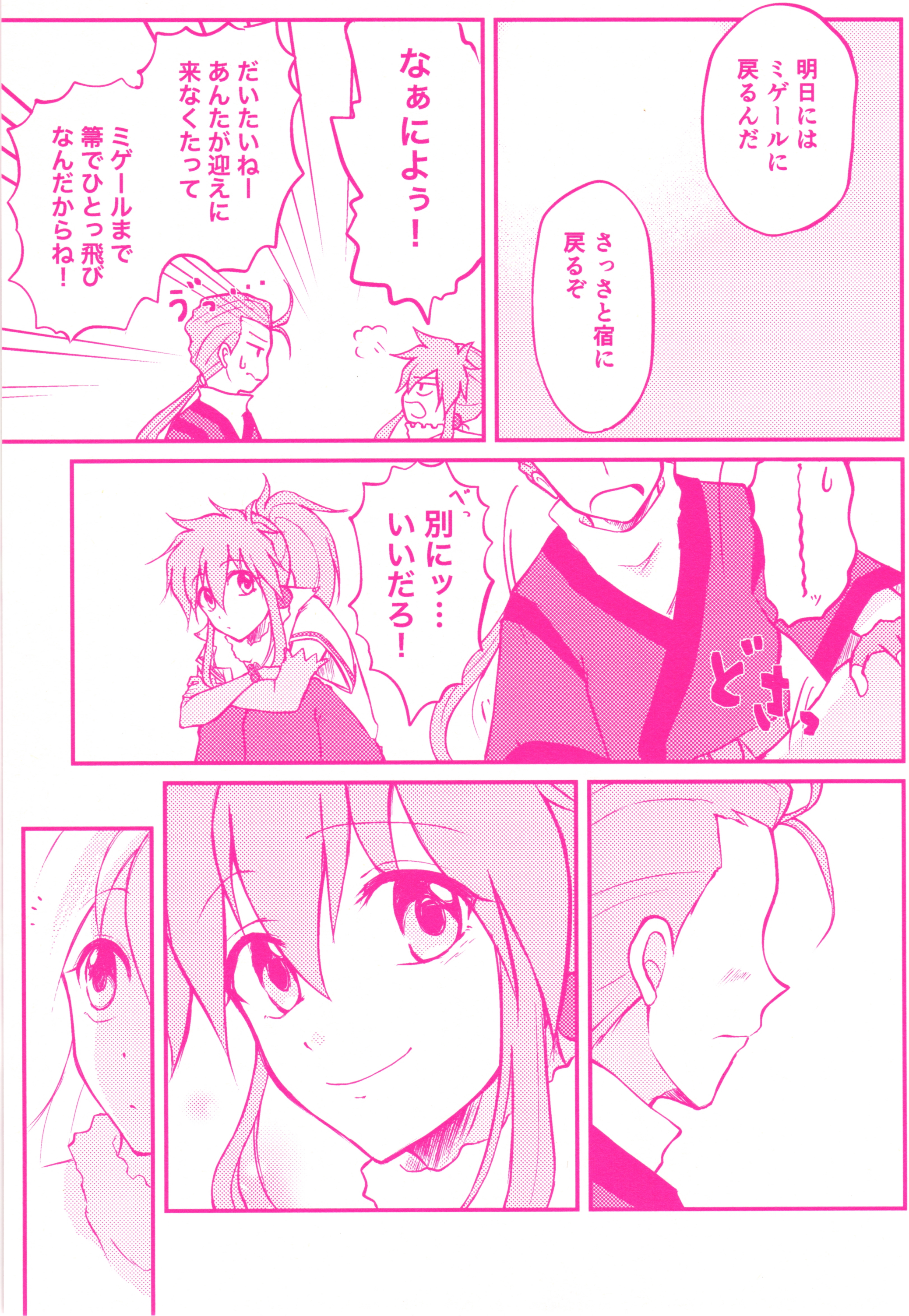
まさかの令和の時代に、大好きなファンタジアのアンソロに参加させていただけて大変嬉しいです。
しかもチェスアーのプロポーズ企画…！！
同年代なノリも良いし、チェスターが引っ張る展開も良いし、再会後は百年多く人生経験積んでるアーチェがリードしようとする展開も良いし…チェスアーのいろんな可能性について妄想できて楽しかったです。

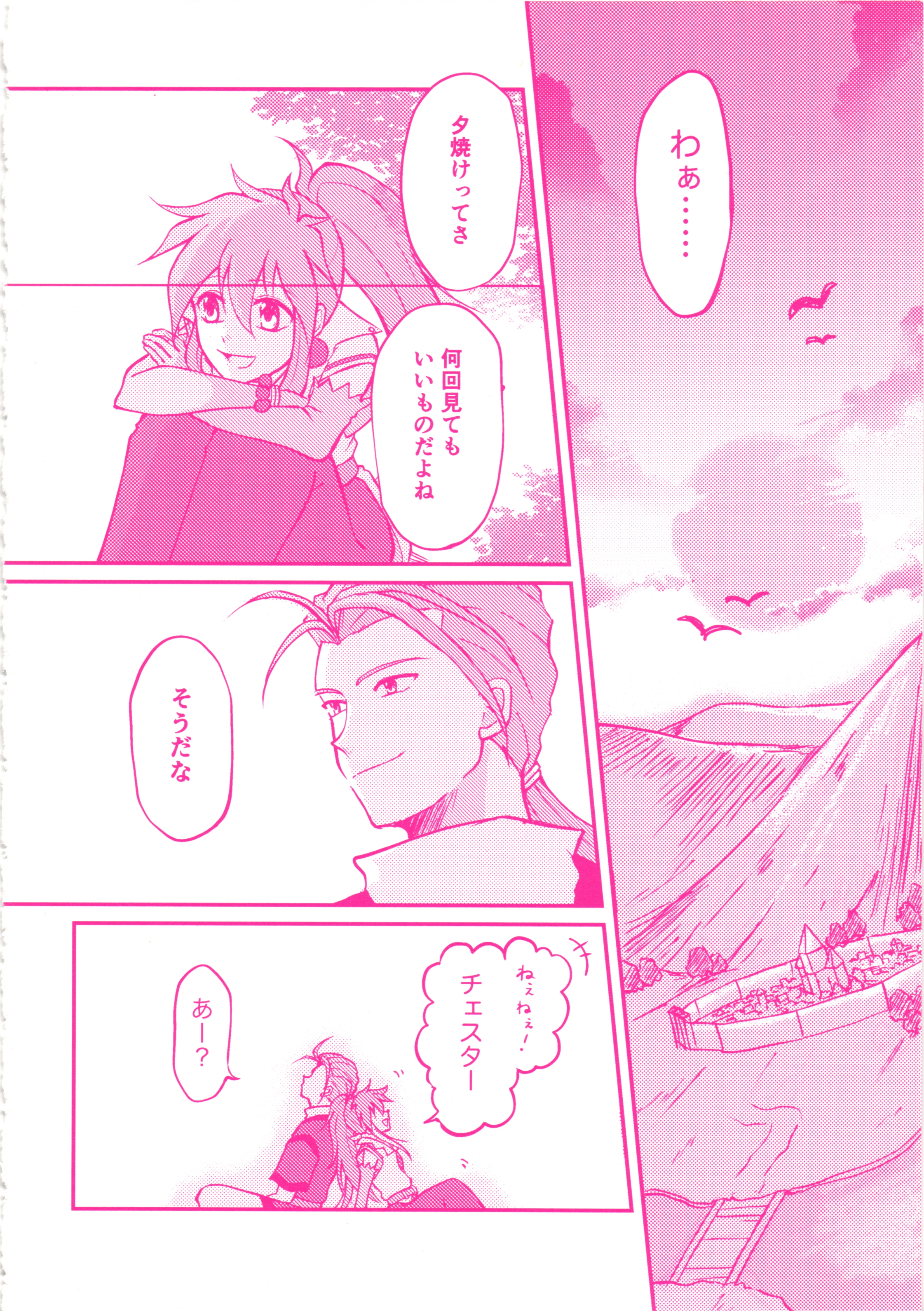


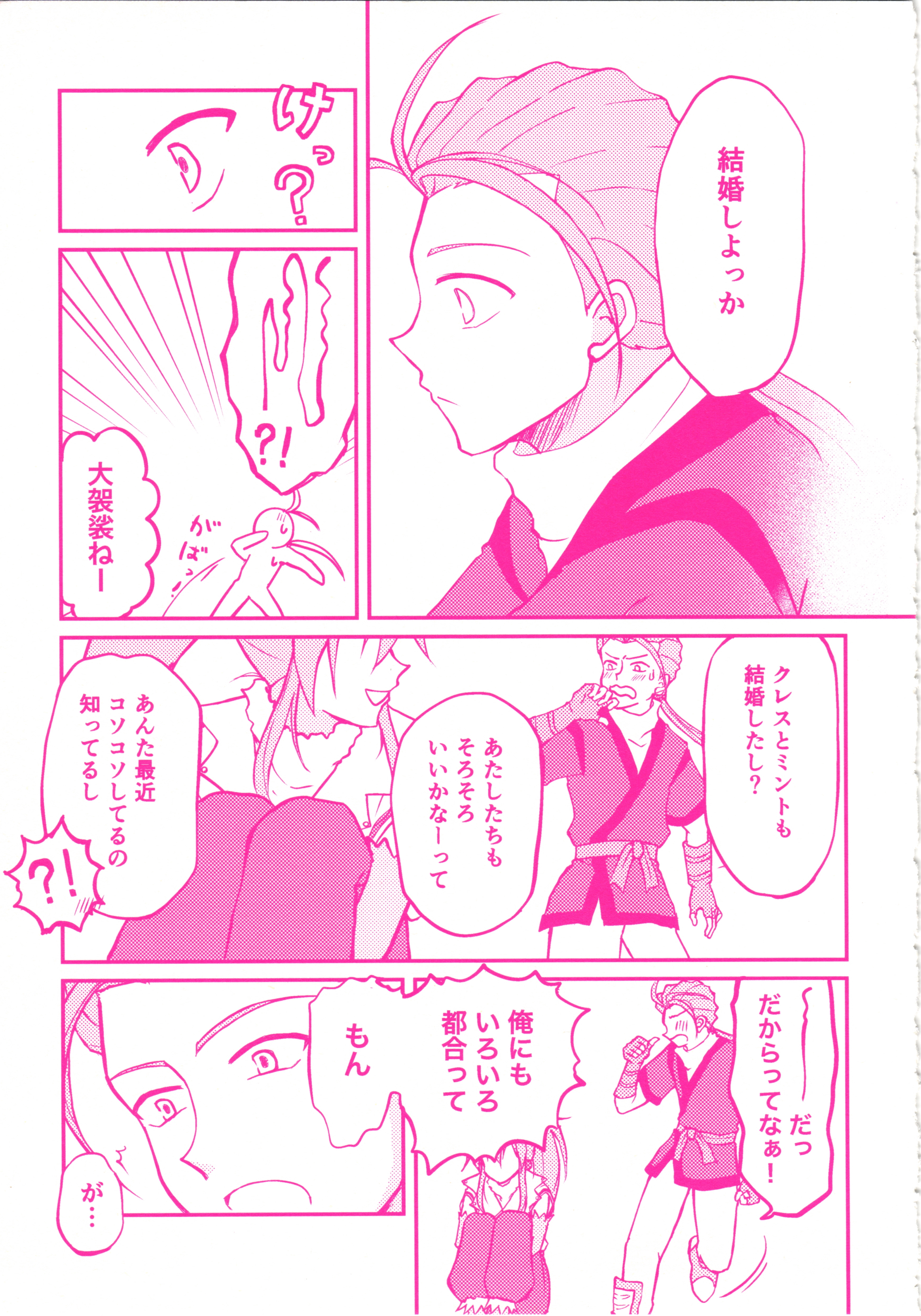
contact Twitter @magicocco

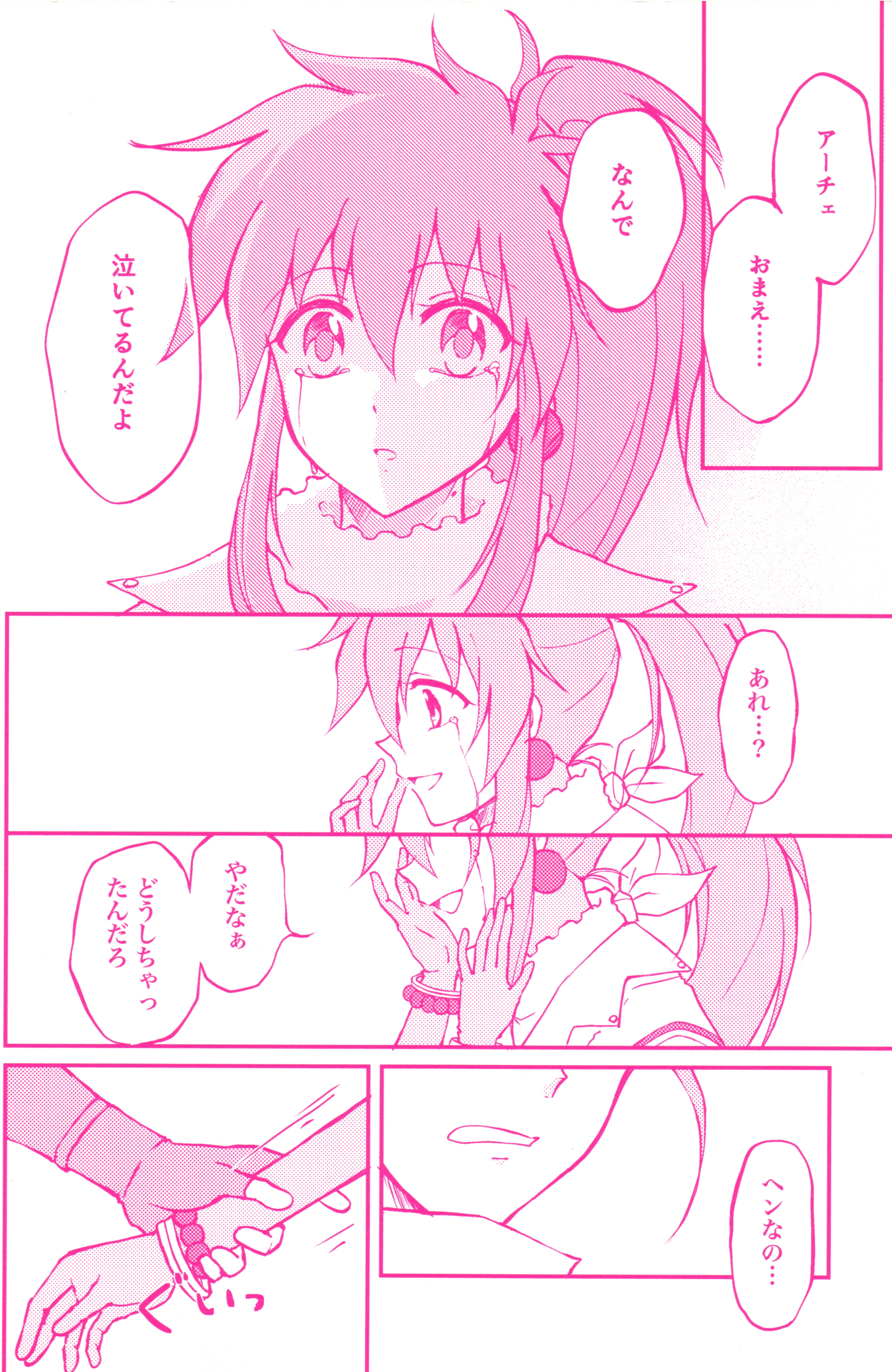

山の麓の
小さな村が
黄昏時の永遠 / mimo
大きな街へと
変わっていく
こうやって
何度この街を
見てきただろう
そして
これから
あと何回——
ざっ…

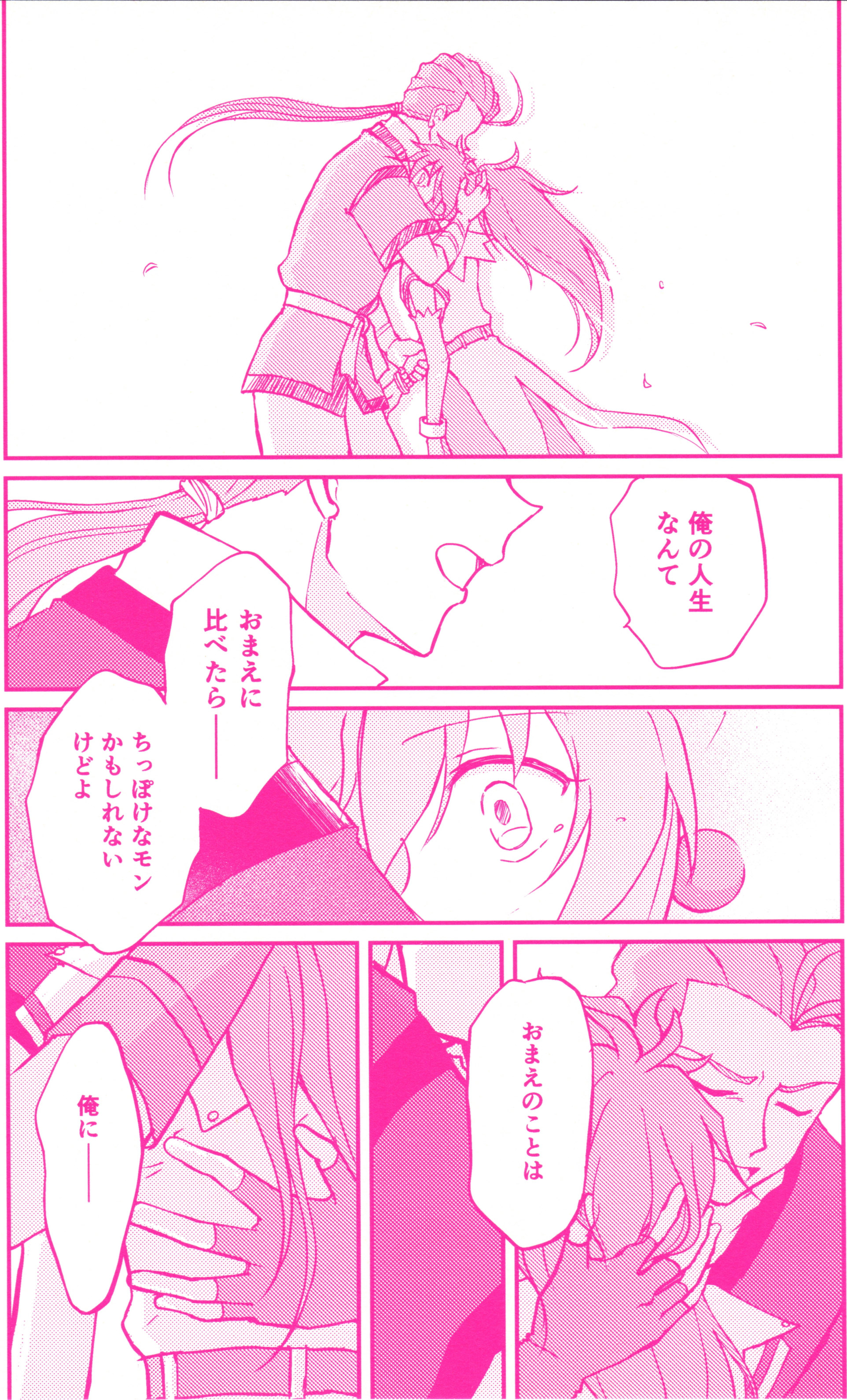

こんなところにいたのかよ
チェスター…
お前なぁ～～！朝からいねぇと思ったら！
現在地
ここまで登るの大変だったんだぞ！
あちゃ…
ごめんごめん～
あはは
……此処さ
お気に入りの場所だったの
ローンヴァレイに住んでた頃はよく来てた
……


明日にはミゲールに戻るんだ
さっさと宿に戻るぞ
なぁによう！
だいたいねーあんたが迎えに来なくたって
ミゲールまで箒でひとっ飛びなんだからね！
うっ…
どさっ
べっ別にッ…いいだろ！

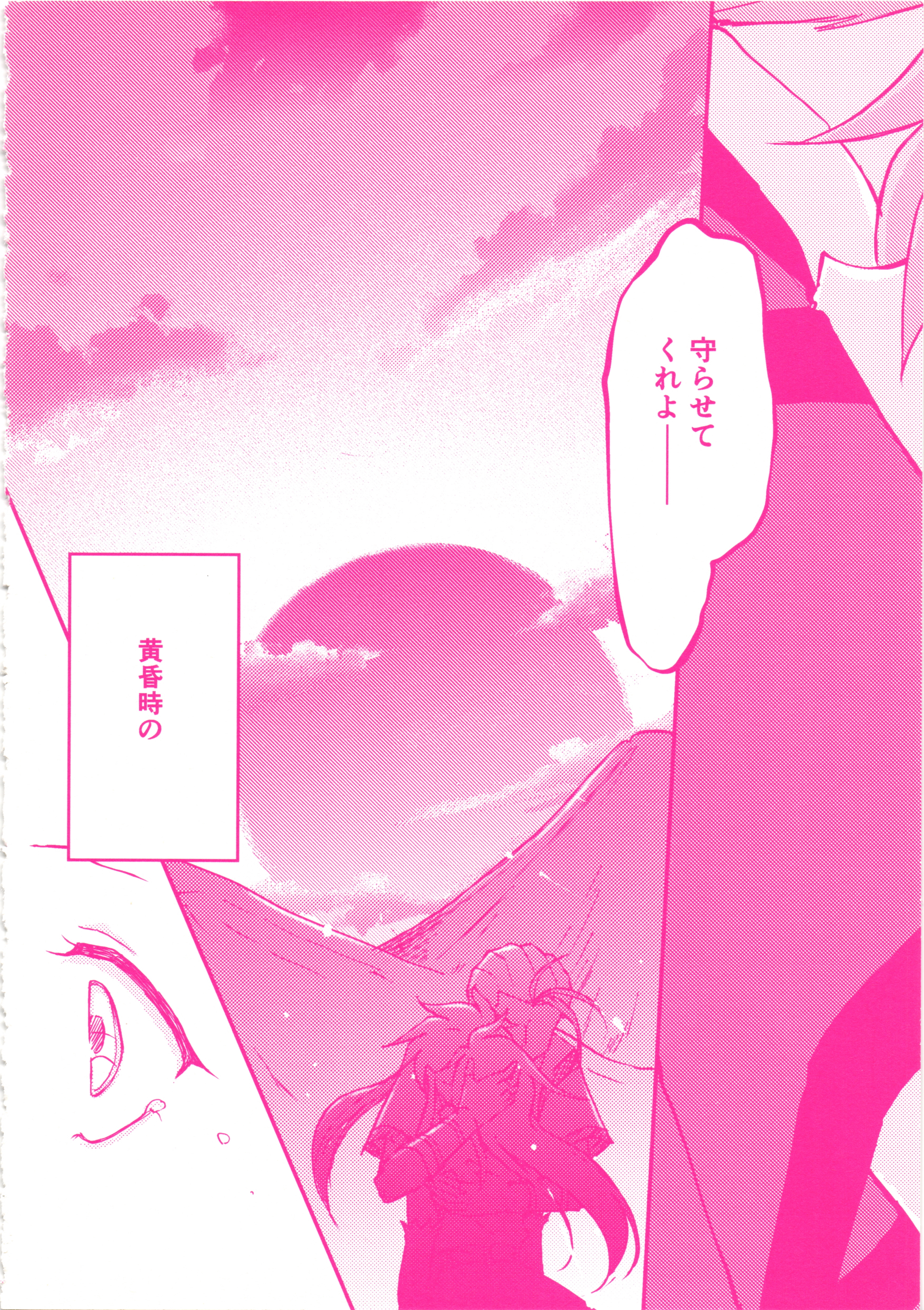

わぁ……
夕焼けってさ
何回見てもいいものだよね
そうだな
ねえねえ！
チェスター
あー？

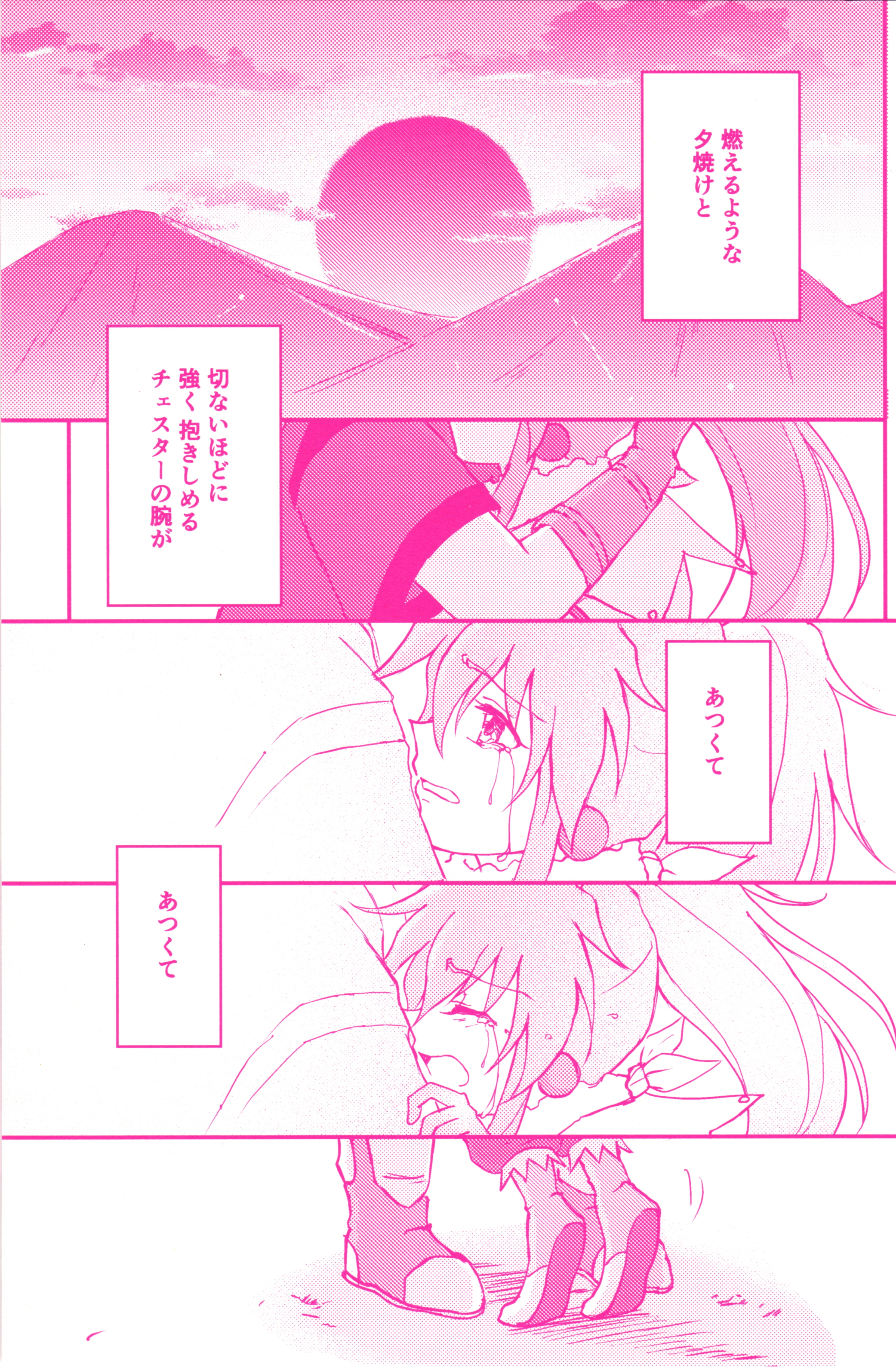

結婚しよっか
けっ?
?!
大袈裟ねー
がばっ
クレスとミントも結婚したし?
あたしたちもそろそろいいかなーって
あんた最近コソコソしてるの知ってるし
?!
――だっ だからってなぁ!
俺にもいろいろ都合って もん
が…

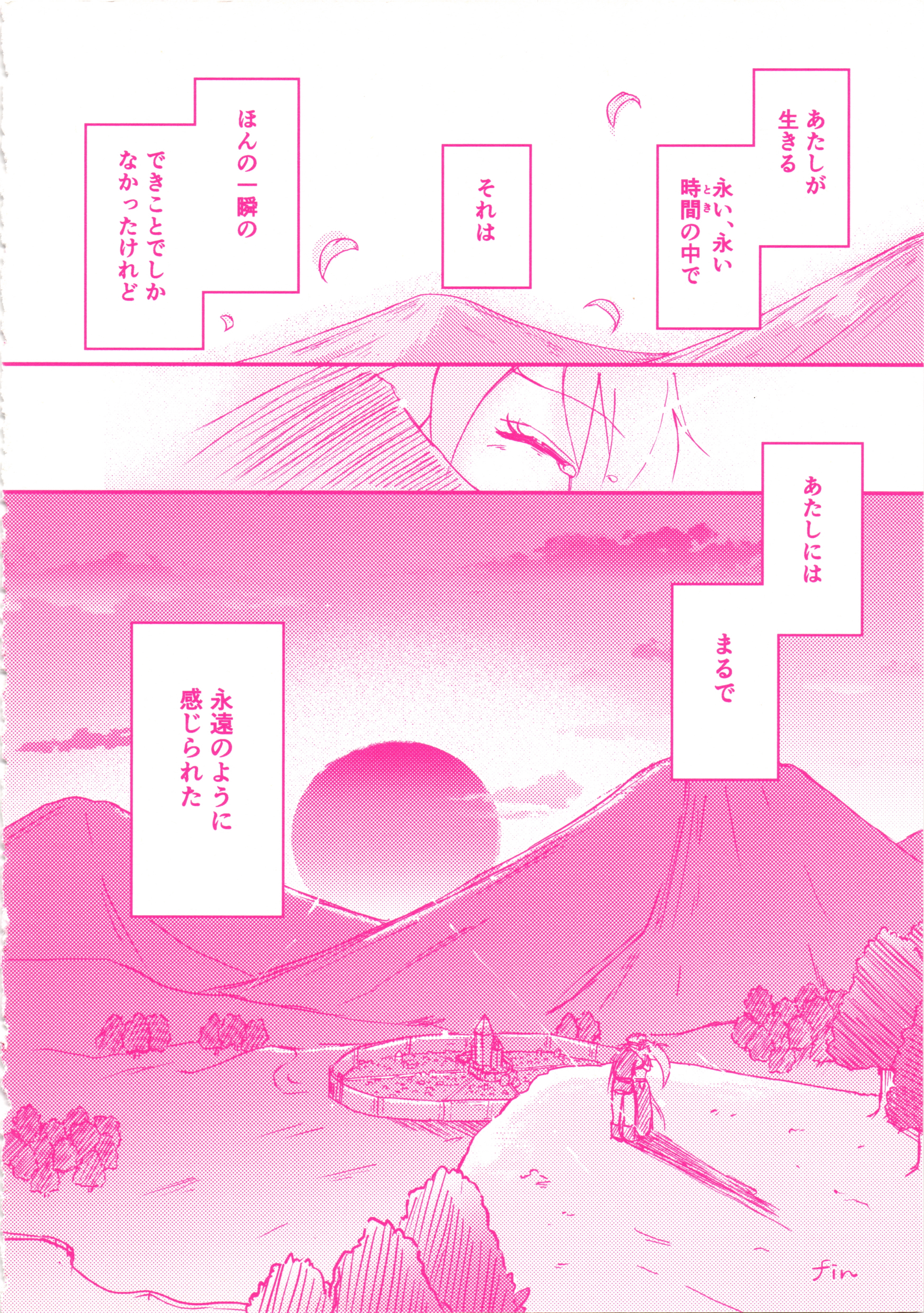

アーチェ
おまえ……
なんで
泣いてるんだよ
あれ…？
やだなぁ
どうしちゃったんだろ
ヘンなの…
ぐいっ



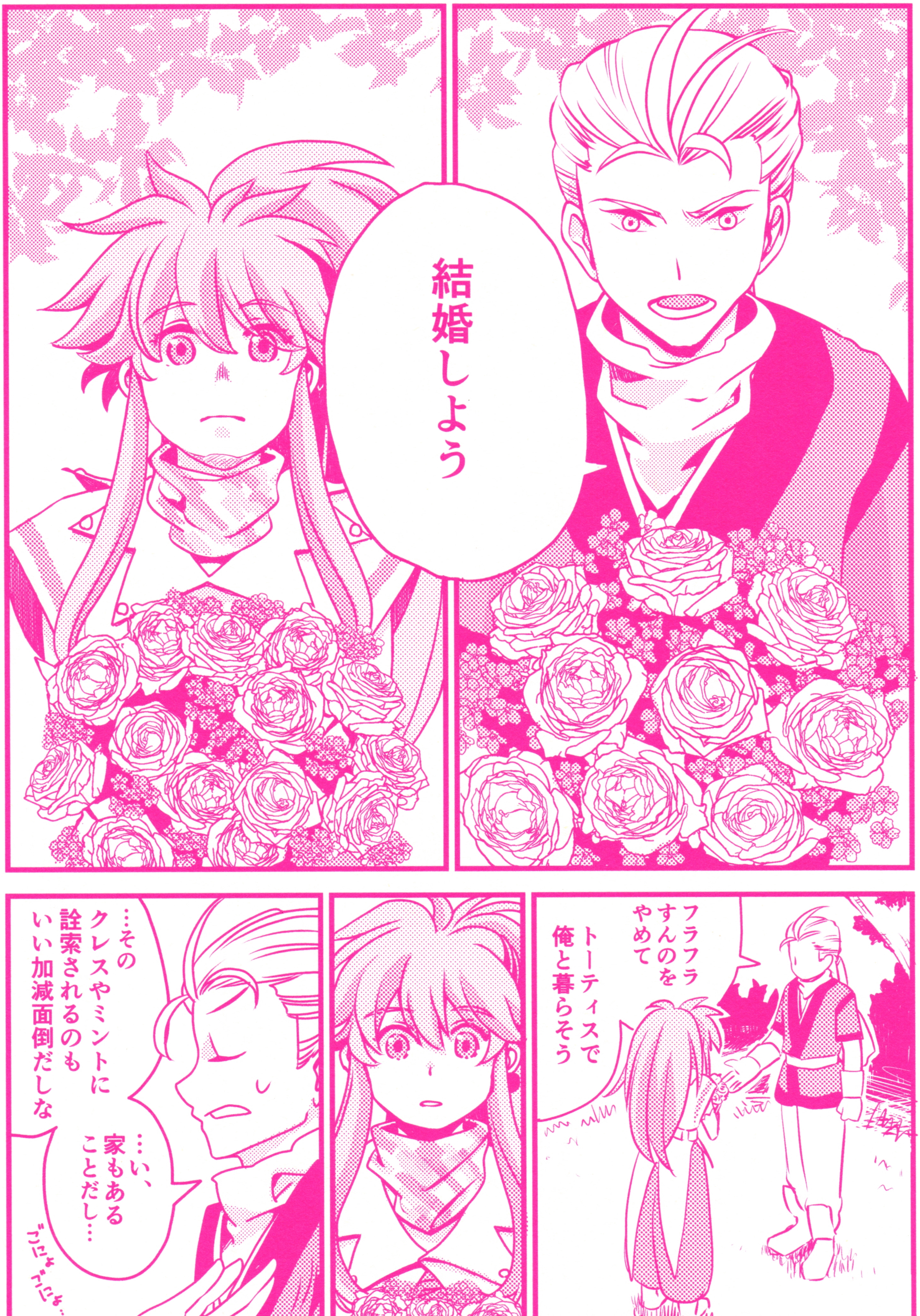
俺の人生なんて
おまえに比べたら——
ちっぽけなモンかもしれないけどよ
おまえのことは
俺に——

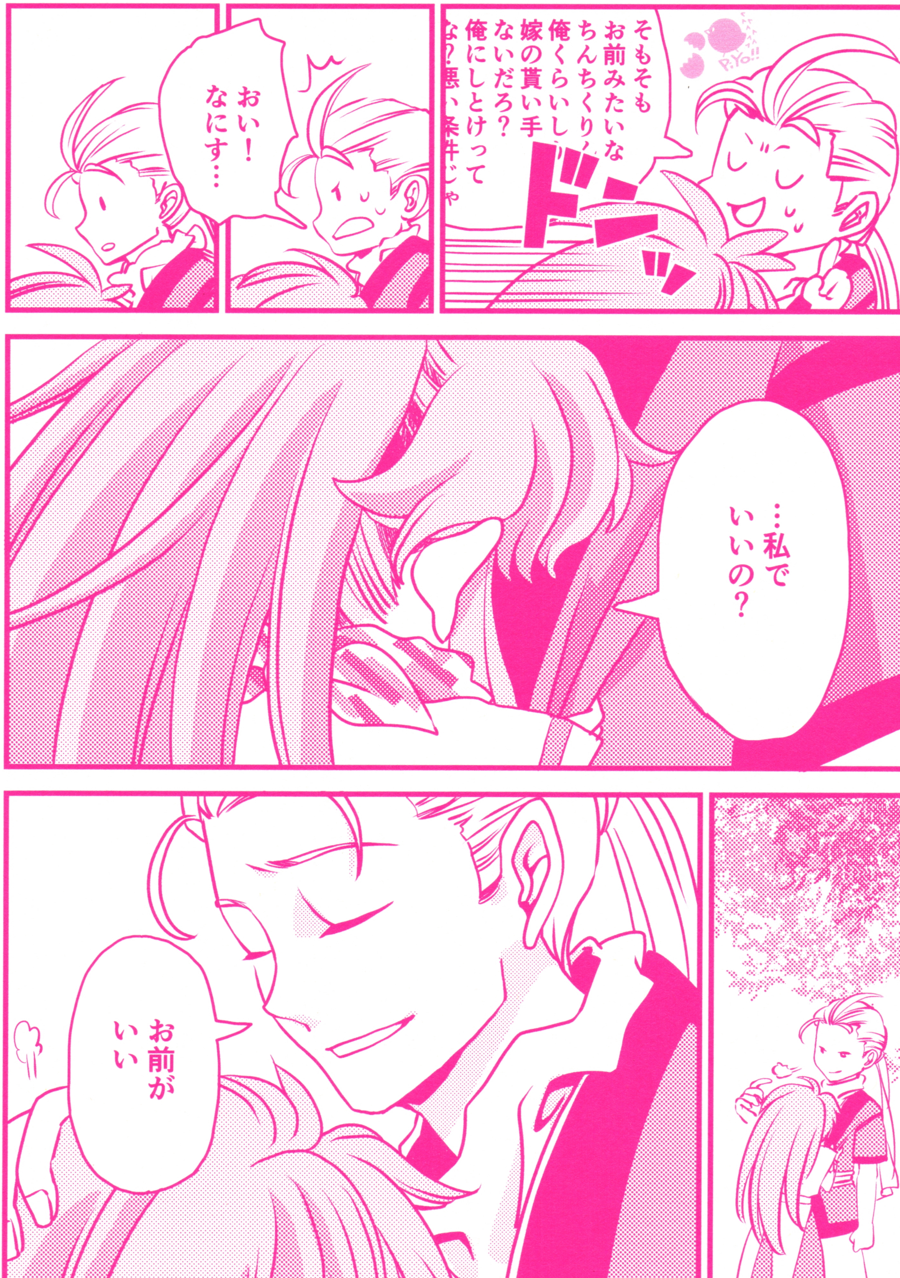

守らせてくれよ――
黄昏時の

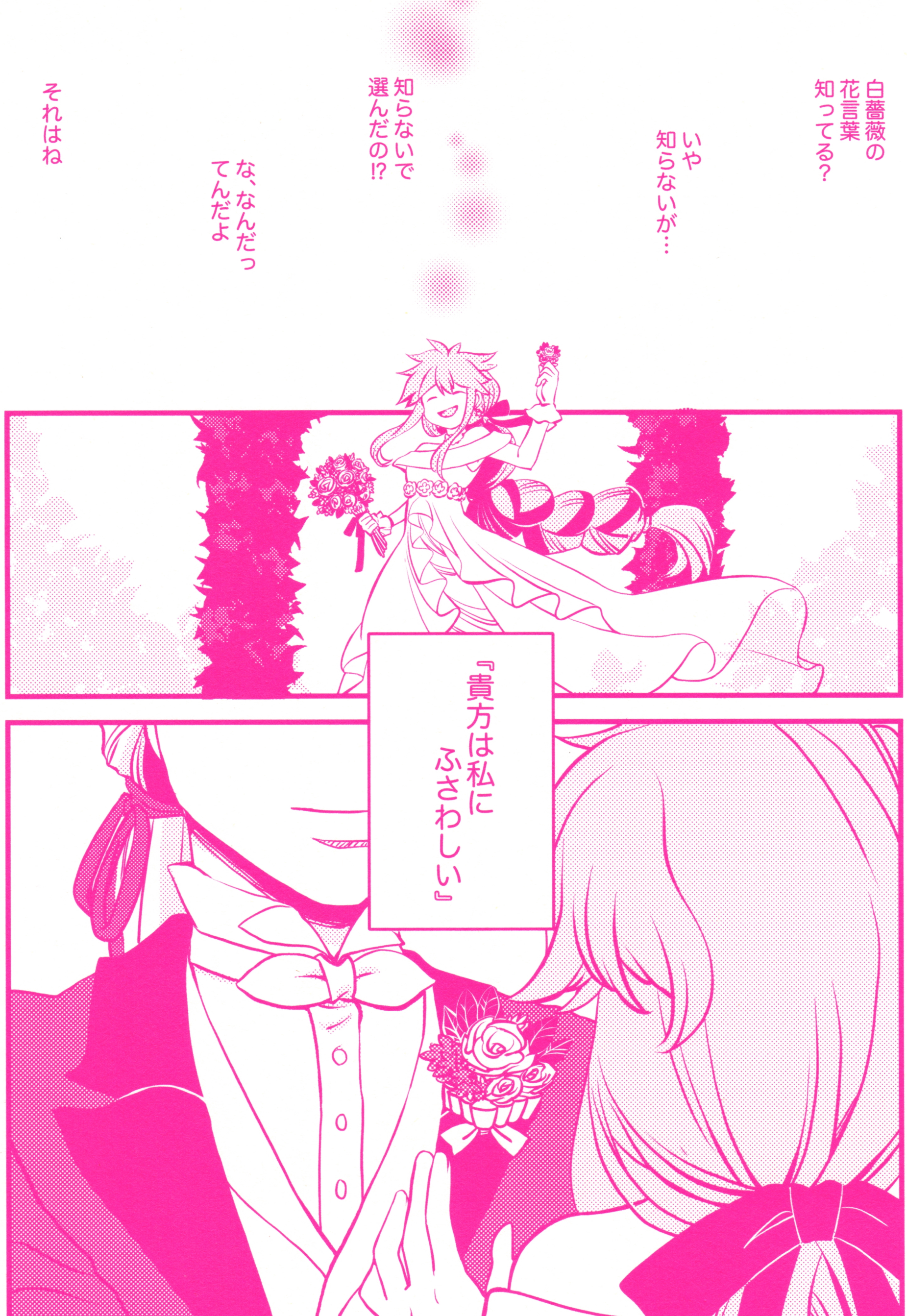

燃えるような
夕焼けと
切ないほどに
強く抱きしめる
チェスターの腕が
あつくて
あつくて


あたしが生きる
永い、永い時間（とき）の中で
それは
ほんの一瞬のできことでしかなかったけれど
あたしには
まるで
永遠のように感じられた
fin

山田ちう


結婚しよう
フラフラすんのをやめて
トーティスで俺と暮らそう
…そのクレスやミントに詮索されるのもいい加減面倒だしな
…い、家もあることだし…
ごにょごにょ…


P.Yo!!
そもそもお前みたいなちんちくりん俺くらいしか嫁の貰い手ないだろ？俺にしとけってな？悪い条件じゃ
ドンッ
おい！なにす…
…私でいいの？
お前がいい


白薔薇の花言葉知ってる？
いや知らないが…
知らないで選んだの⁉
な、なんだってんだよ
それはね
『貴方は私にふさわしい』

name　mimo

Q チェスアーを好きになったきっかけは？

あの名曲が二人のイメージに
ぴったりだと知り……

Qアーチェはチェスターのどこが好きだと思いますか？

ひたむきに自分を追いかけてくれるところ

Qチェスターはアーチェのどこが好きだと思いますか？

見た目と、ほっとけないところ

Q チェスターとアーチェの好きな
シーン/スキット/セリフを教えてください！

初めて見た時から…

Q 今回の作品のチェスターの年齢を教えてください！

19～20歳くらい？

Qチェスターとアーチェに一言どうぞ！

漫画を描いていたら君たちのことが
もっと好きになりました。お幸せに♡

アンソロ発行おめでとうございます！
以前からあたためていたお話を描かせて
いただきました。切ない終わり方になりましたが、
思い切り泣いた後はきっと軽口を叩き合いながら
晴れやかな笑顔を見せてくれるんだろうな
と思います。

contact　Twitter:@diacutea

name　山田ちう

Q チェスアーを好きになったきっかけは？

初めて見た時から…（アーリィ）。SFC版プレイヤーだったのでスキットも料理も修行イベントもない状態からのハジメテミタトキカラを受けてワワー！？どこから！？どうなって！？今どんな気持ち－？？？と落ちました。D購入特典のスキットDVDで、めちゃくちゃアーチェにつっかかっていくチェスターが悪い。好きに決まってるやんこんなの…

Qアーチェはチェスターのどこが好きだと思いますか？

自分を好きなところ

Qチェスターはアーチェのどこが好きだと思いますか？

最初は見た目、次に内面

Q チェスターとアーチェの好きな
シーン/スキット/セリフを教えてください！

レイニーデイブルー（ドラマCD）でアーチェがドアの開く音にいつも反応してしまうことにチェスターが気づく場面のやりとり。チェスターの声色がいつもより柔らかいんです！当たりが!!やらかいの!!!

Q 今回の作品のチェスターの年齢を教えてください！

20代前半

Qチェスターとアーチェに一言どうぞ！

ありがとう人生！

プロポーズの言葉を言うとしたらこのパターンかなと思いながら描きました。アーチェがいつもよりしおらしいのは、トーティスの惨劇を救わなかった負い目がある、という私のED後アーチェ解釈の為です。普段は明るくてもこういう真面目な場面ではつい素が出てしまうのではないか…？朗読劇はメッチャ明るかったけどね！（笑）
今回はプロポーズの言葉が必須だったのでこのような形になりましたが、はっきりと言葉に出さないパターンもあると思いますので（没にした）、このお題、まだまだ噛み締めがいのあるテーマだな～！！とニコニコしました。

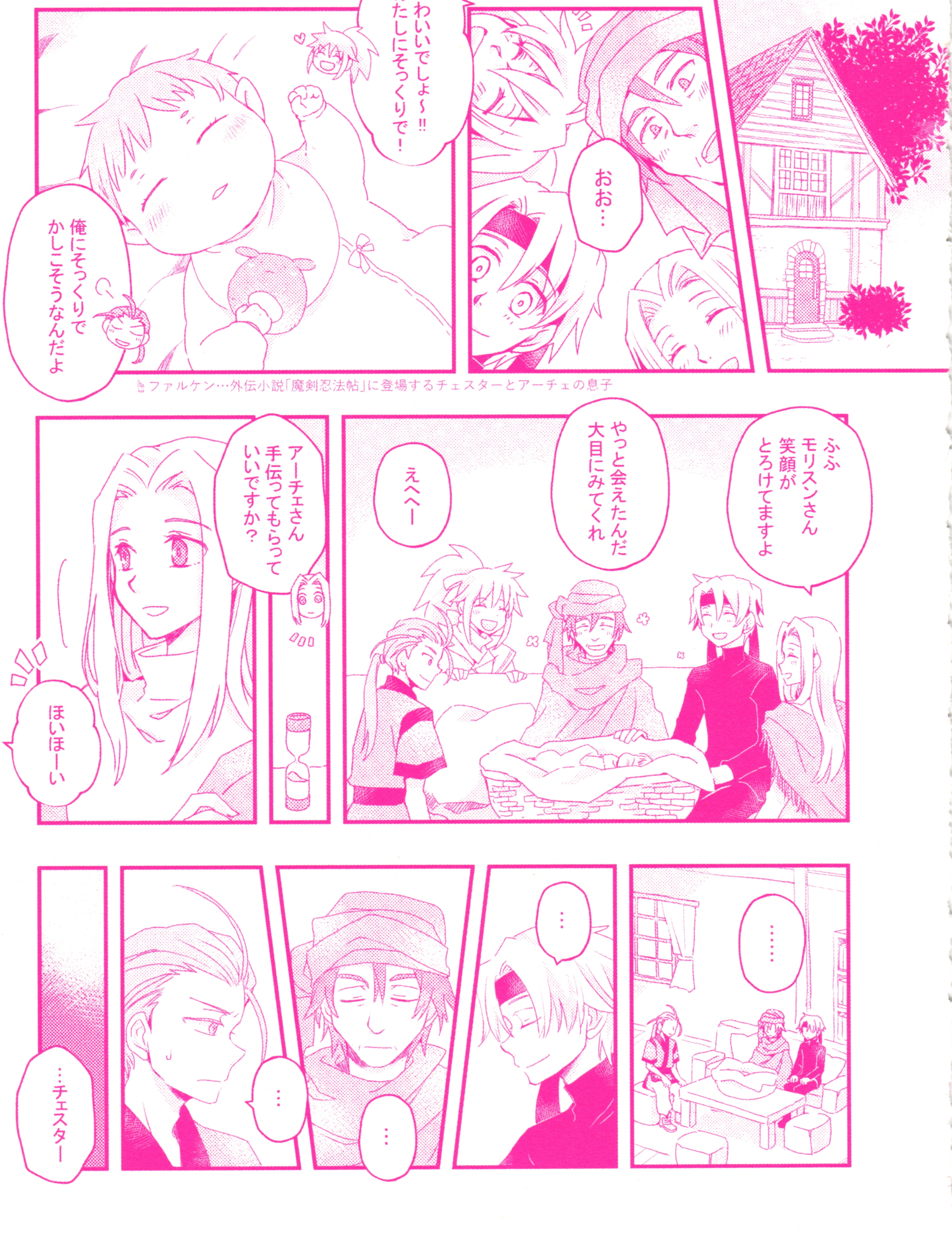
この度は参加させていただき
ありがとうございました－！

アスタリアウェディング衣装と
ブーケコサージュ周り最高ですね！

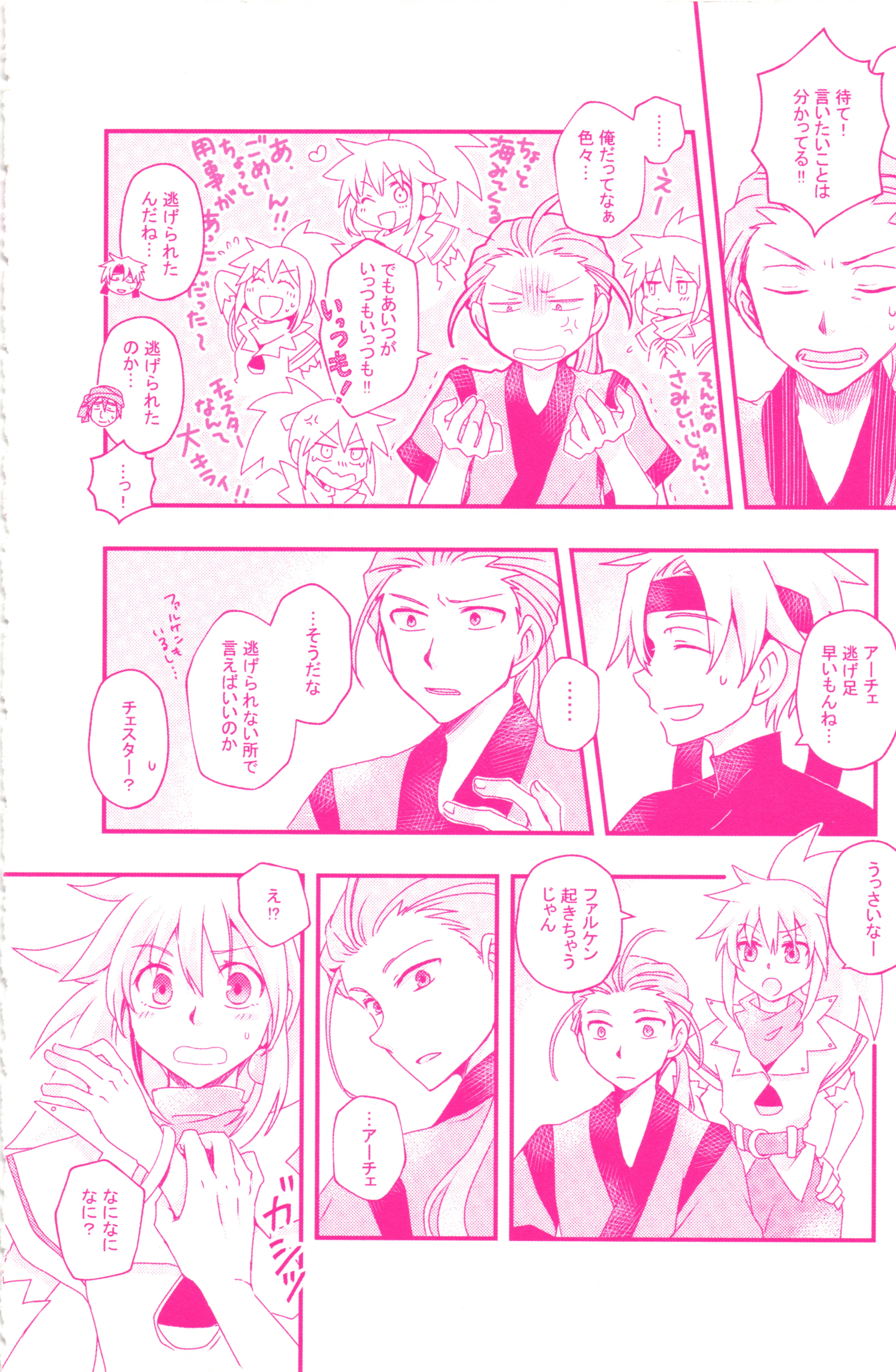
等身高い絵は難しいね…

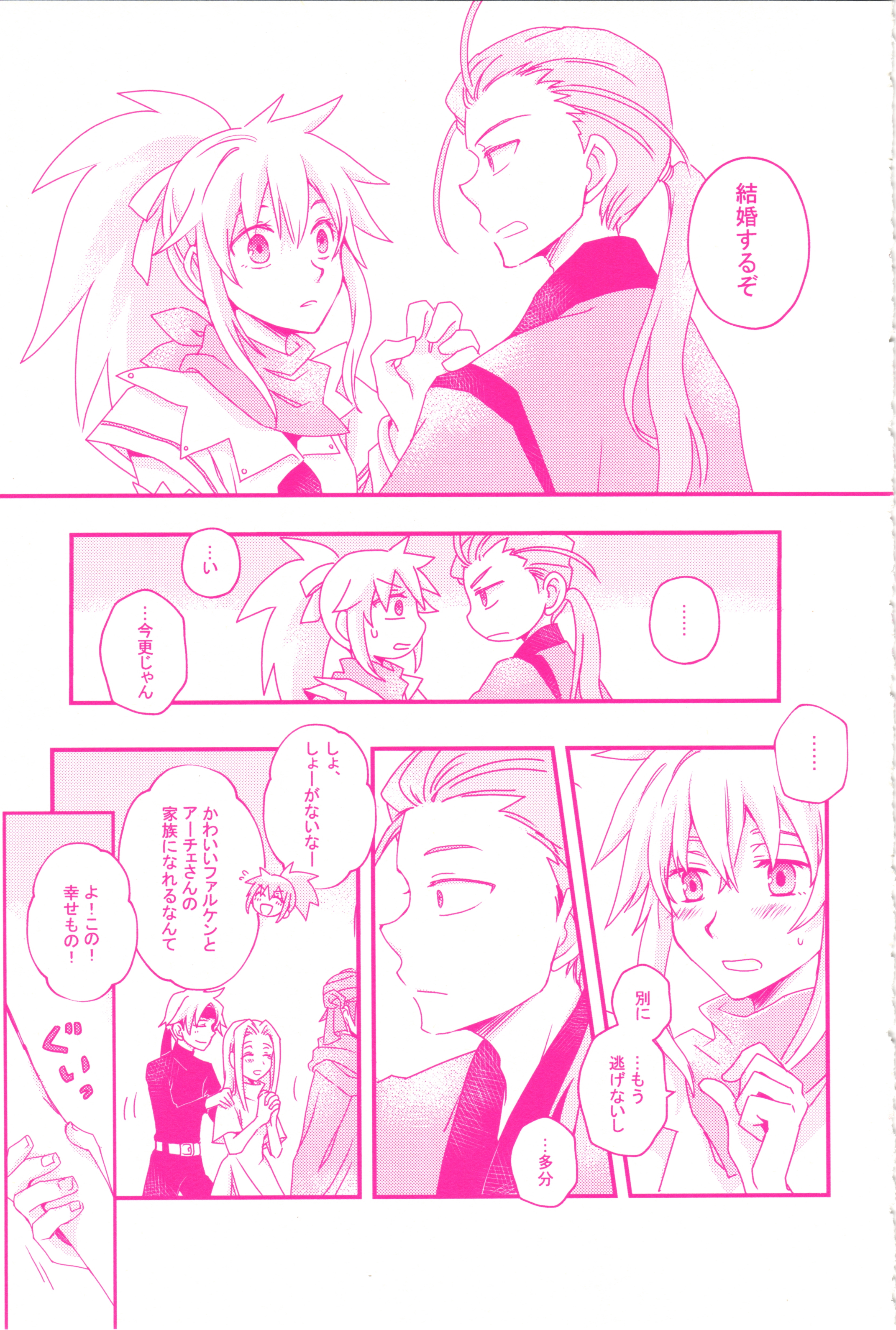
contact　Twitter@cucumber00

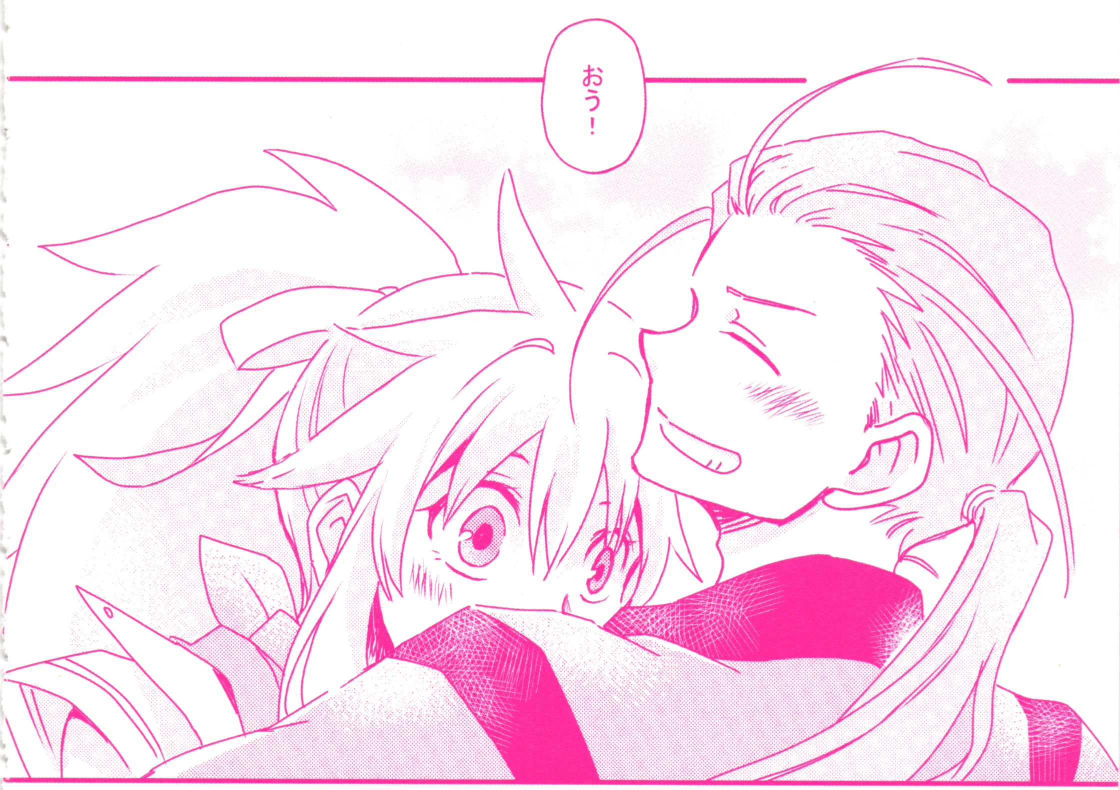
coro

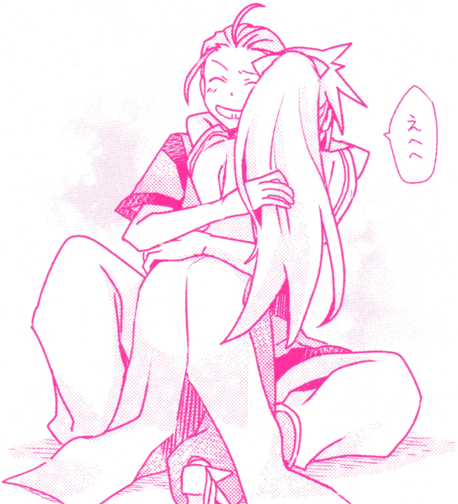


ファルケン…外伝小説「魔剣忍法帖」に登場するチェスターとアーチェの息子


結婚して…
待て！
言いたいことは
分かってる!!
……
えー
俺だってなぁ
色々…
そんなの
さみしいじゃん…
ちょっと
海みてくる
でもあいつが
いっつもいっつも!!
いっつも!
あ、ごめーん!!
ちょっと
用事があったんだった〜
チェスターなんて
大キライ!!
逃げられた
んだね…
逃げられた
のか…
…っ！
アーチェ
逃げ足
早いもんね…
……
…そうだな
逃げられない所で
言えばいいのか
ファルケンきいてるし…
チェスター？
うっさいなー
ファルケン
起きちゃう
じゃん
…アーチェ
え!?
なになに
に？
ガシッ


結婚するぞ
……
…い
…今更じゃん
……
別に
…もう逃げないし
…多分
しょ、しょーがないなー
かわいいファルケンとアーチェさんの家族になれるなんて
よ！この！幸せもの！
ぐいっ


おう!


えへへ

スタートライン

たかはる

さっきまでいつも通りの小規模な衝突をしていただけのはずだった。売り言葉に買い言葉で繋がれていく会話は考える前に口から滑り出していった。

「チェスターなんてだいっきらい！」

――アーチェがそう投げた言葉にチェスターが声を荒げるまでは。

「誰が好きになってくれなんて言った!?」

……。ほんの数秒だけの沈黙がチェスターをはっとさせる。相手に視線だけ送ってみるが、彼女は身体ごとそっぽを向いてしまっていてよくわからなかった。いつも通りの流れだし、お決まりの言葉しか並んでいないのに何かのスイッチを押してしまったようで胸がざわついてくる。

「……、だね」

　ようやくアーチェがこちらを向いたかと思うと、寂しそうに微笑むだけだった。チェスターはぎくりとして乾いた自身の唇を引き結ぶ。

「そうだね。好きになってくれなんて言われてない」

ただ己の言葉を繰り返されただけなのに、彼女が紡ぐだけで遥かに重みが増すような気がした。

　トーティスの冬はその年により雪がたくさん降る。今年はまさにその大雪の年のようだった。春が来るのが待ち遠しくなるほど、本当にこの雪が溶けて春が来るのかと心配になるくらいには今年の冬は寒く厳しい。冬支度をしっかりしていたチェスターの家は暖炉が室温を保ってくれて、食糧も備蓄がある。扉を開けて雪降る外へ出ようなどとは思えないくらいに快適だった。意地悪な彼の一言に表情を歪められることはあれど、こんなにも暖かく、居心地の良い場所、ほかにあるだろうか？　アーチェは自問して苦笑する。

「たまには言って欲しいなぁ、なんて」

　アーチェが期待した言葉が返ってくるなんて思ってはなくて、それが分かっているぶん余計に寂しく思えただけなんだ。これは、なんてことない衝突。いつものケンカ。ひとりごちる甘ったるい声は嫌味でもなんでもなく、軽い調子のまま部屋の中に響いた。それでもチェスターは気まずそうに沈黙を保っている。

「あー……もしかして、キライのままのほうがいい？」

　そんなわけがない。と、チェスターは喉まで言葉が出かかって、しかしアーチェが真っ直ぐに見つめてくるので何も言えなくなった。ソファにどっかり腰掛けているので背中に逃

げ場はない。真紅に見える彼女の瞳は角度によりほんのりと薄桃色に見える。普段から思い付いた疑問をすぐ口にする彼女のことだから、今回だって例外じゃないだろう。きっとこちらを困らせたくて聞いているに違いないとチェスターは思うものの、初めて会ったときから彼はその真紅にめっぽう弱いのだ。

す、とチェスターは息を吸った。互いの気持ちなどとうの昔――とはいえ、二年前くらいのことだが、とにかくこれまで幾度と確かめ合ったはずなのに何故また今更問いかけてくるのか。

「もう好きじゃねーのかよ」

ようやく出た言葉は、彼女を喜ばせるものではなかった。

「んー……好きだけど」

けど、と口元を緩ませるわりに目線は落ちていたので、好きという言葉にチェスターが安堵している場合ではない。

「この日この瞬間を境に嫌いになっちゃうかもしれないよ。そしたらあたしはもうここから出てっちゃうかも」

なんだって、こいつは冗談を言うような口調で恐ろしいことを言うのか。ただ彼女が何を言いたくて、それにどう答えたらいいかをチェスターは知っていた。しかしそれを吐き出そうとするとこの通り、途端に歯切れが悪くなる。

視線を彷徨わせてみると、まっさらだった家にも随分と家具が増えた。チェスターの趣味じゃないと感じていた色とデザインのそれらも、今ではすっかり馴染んでいる。いつかアーチェが衝動的に買ってきたファンシーな色のクッションは、チェスターがソファに腰掛けるときにちょうどいい柔らかさだ。そのほかにも風邪だとか頭痛だとか火傷によく効くらしいと我が家に持ち込まれた植物の鉢がいくつもあり、水やりから置き場所など細やかな説明もされた。「さすがは魔女だな」とからかうも、どこか誇らしげにしていたのを何故か今思い出す。これら植物の世話は家を開けがちなアーチェに代わってチェスターがすることになってしまっているが、彼女が本当にいなくなってしまったあとはどうすればいいのだろうか。どうせフラフラ出かけてもすぐ帰ってくると、これまでの経験で分かっていても本当に帰ってくるかの保障はない。

「あたし、ここにいないほうがいい？」

「んな訳ねーだろ」

彼女がいない部屋のことなんて考えたくもないしちょっと想像しただけで胸が潰れそうだ。

あの日一度旅の仲間として別れてから、再会してどうにか恋人という形になれた。好きという気持ちがチェスターにはいまだによく分からないが、こんなにも定期的に伝え合って

確かめないと維持すらできないものなのか。
「だって、毎日毎日ケンカするなんて根本的に合わないいんじゃん。あたしもアンタもお互いが悪い訳じゃなくってさ、やっぱりダメなのかもしんないよ」
彼女の問いが本心であれば、ここでいつも通りの答えをしてしまうと永遠に彼女を失うかもしれない。慎重に返答すべきではある。ただし、その試すような彼女の口ぶりがチェスターを素直にさせない。
彼女と彼とでは身体に流れている血に違いがある。マナを感じ取れる者とそうでない者、永久に近いほどの寿命を持つ者とそうでない者。彼女とは根本的に違うのだ。しかしアーチェがエルフと人間との混血であったことでこうして同じ時を過ごすことが出来ているのだから、その部分に関してチェスターは感謝することはあれど悲観したことはない。
「ダメって、なにがだよ」
チェスターは覚悟してから問いかけた。彼女が言おうとする言葉を最後まで聞き届ける義務が彼にはあったからだ。
「――――、エルフとニンゲンじゃ、うまくいかないってこと」
そう言ったアーチェの瞳から溢れた涙はソファに小さなシミをつけた。チェスターはそっと腕を伸ばすと彼女を胸に抱き寄せる。冗談を言うなら最後まで冗談で通せよ、とは言わずにため息だけを吐き出す。
「んなことねえよ」
何の根拠もないがはっきりと彼は答えた。そして抱き締めた彼女をどこへも逃がさないようにしっかり腕に力を込めた。アーチェがはらはらと流した涙がチェスターの首筋を伝っていく。
「――――ッ、だってぇ～……」
チェスターの体温に安心したのか、張り詰めていた気持ちと涙腺はすっかり緩んでしまい涙が止まらなくなる。ずん、ずびと鼻をすすり呼吸を整える彼女の背中をチェスターは優しく撫でた。アーチェの襟に付いている白いくるみボタンを摘んでは意味もなくひらひらやりながら、呼吸が落ち着くのを待つ。
肩を揺らし涙を流すピンク頭を見ながら、チェスターはいつかの日のことを思い出す。彼女そっくりの髪色をしたエルフ族の母が娘に、と手袋とほうきを待たされたときのことだ。オリジンとの激闘のあと、チェスターたちはそれを無事アーチェに渡した。その時も彼女は同じように子供みたいに声を上げて泣いていた。そんな彼女へチェスターは「泣くな」と言った。それはいつか種族のことがどうにかなって、母と娘が会える未来が来るかもしれないから、と。それなのに自分

がまた同じ問題で彼女を苦しめているのだ。種族の違い、感覚の違い、育ってきた環境の違い。これらに解決のしようがないことは分かっているし、だからどうにかお互いの譲り合える場所を探るしかない。

「考えてるんだよ、あたしだって。バカじゃないんだから」

「いや、バカだろ」

「バカはおまえだ――っ！」

「いッッて！」

茶化していると肩にがぶりと噛みつかれた。泣いてたかと思ったら急に怒る。しかも甘噛みとはいえ噛みついてくるなんて。一緒に暮らしていたのは魔女ではなく吸血鬼だったのかもしれないなと、可笑しくて笑ってしまう。

「何笑ってんのよ！　カノジョが不安で泣いてるときに！　何笑ってんのよっ」

アーチェがチェスターの背中へ回した腕をぎゅうと締める。彼の長髪を彼女が指に絡めたまま引っ張るのでチェスターは顎をしゃくった。

「悪かったな、一緒に泣いてやれなくて。残念ながら俺とお前は違う種族で違う人間だからな。でもお前が俺を好きで、俺もお前が好きなんだから仕方ないだろ」

納得がいかないカノジョの頬を、チェスターのごつごつとした指で傷つけてしまわないよう優しく撫でた。

「好きじゃないもんキライだもん」

「へぇ」

涙が通った跡をそっと親指の腹で撫で、そのままアーチェの顎をするするとくすぐる。潤んだ瞳にふっくら腫れた目元をまじまじと見ると、ゆっくり顔を近づけて唇にキスをした。

「んっ……」

「俺は……好きだぜ。お前のこと」

こつっと額をぶつける。触れた唇の柔らかな感触が愛おしすぎたせいで、チェスターは無自覚に優しく微笑んでいた。

「バカ。……バカ」

想いを伝えるだけじゃ足りないってことを彼女は言いたいんだろう。いつか諸々準備が整って然るべきタイミングで言おうと思っていた言葉が脳内を過ぎる。ちょっと早いだけで、別にタイミングなんて計るものでもないのかもしれない。

「なぁ、アーチェ」

「……なに」

まだ思考が整理しきれてないままの返事が聞こえたが、チェスターはまた言葉に詰まってしまった。生唾を飲み込んでから深呼吸をする。こういうのはスマートにさりげなく言うものなのだと思う。

「…………」

「…………？」

いや、本当にいいのか。やっぱりこういうことはちゃんと諸々が整ってからするべきだ。いくら相手がアーチェだろうと、いや、彼女だからこそ長い人生に関わってくることなのだ。だいたいアーチェの性格上、こういったシチュエーションについて後からうるさく文句を言われるかもしれない。などと考え始めたチェスターはぴったり動きを止めてしまった。

「え？　……なに、黙ってんの」

チェスターの眉間の皺をアーチェは人差し指でつんつんとつつく。しかし反応は薄い。なんだなんだと様子を窺ってみるが、よくわからない。ほどなくしてチェスターがまた深呼吸した。どうやら今度こそ腹を括ったようだ。

「アーチェ＝クライン」

「は、……い」

不意にフルネームで呼ばれたからかアーチェはどきり、として彼の目を見た。そのただならない雰囲気を纏う彼に何事かを察知する。え、いや。まさか？　と戸惑いながら、勘違いかもしれない、と自分を誤魔化し始めたアーチェは急に恥ずかしくなってきてしまって、何か言いたげなチェスターの口を思い切り唇で塞いだ。

「……っな、」

可愛らしいリップ音を立てて啄むようにチェスターとキスをする。抱き寄せられるような形でいたからそのまま体重をかけてチェスターのことを見下ろす体制に変えていく。

「お、ま……ッ、ば……、……」

いくら体重をかけられても全然軽い。エルフ族ってのは、みんなそんなものなのか、女だからなのか、彼女だからなのか。頭がぼうっとしてきたところでチェスターはハッとした。

「おいっ！」

アーチェの細い両腕をがっしり掴んで引き剥がす。可愛らしく尖らせた彼女の唇が決死の覚悟の言葉を遮ったことに勘づいたからだ。

「お前なぁ、人がせっかく」

「……っ、だって、だって！　仕方ないじゃん。それ聞いちゃったらあたし、もう手離せなくなっちゃうよ。そしたらあんたのこと困らせるだけなんだから」

「はぁっ!?　今までもさんざん困らせてきただろうが！」

「ちがうのーもっとすっごいことになっちゃうってこと！」

はっ、とまた鼻を鳴らしてチェスターが薄く笑う。

「おもしれえじゃねぇか。どんと来やがれ」

「ばかばかばか！　ねぇ、やっぱまた今度！」

こんな勢いとノリでいいのだろうか。でももう今更、こんな、じゃあまた今度で済ませられるほど簡単な覚悟ではないのだ。彼女が逃げてしまいそうなのをがっしりと捕まえる。もうシチュエーションなんて知るもんか。ちゃんとチェスターのことを困らせてもらわないと困るのだ。

「いいから聞け」

「聞かないもんっバカチェスター！」

アーチェが暴れて逃れようとしても腕はびくともしない。チェスターが腕力でアーチェに負けるわけがなかった。

「……愛してる。……一生、俺の傍にいろよ」

ようやく落ち着いたアーチェの涙がまたポロポロとこぼれ落ちた。バカ、バカと肩を震わせて首を横に振る。拒まれてはいない自信はあったものの、はたからみればどう見えるのだろうかなどと、どこか他人事のようなふわふわした気持ちでチェスターはアーチェを見る。

「……ばか。あたしの一生にあんたはいないじゃん」

「いなくても俺は一生お前の旦那だし、お前は一生俺の嫁なんだよ」

「……ばか」

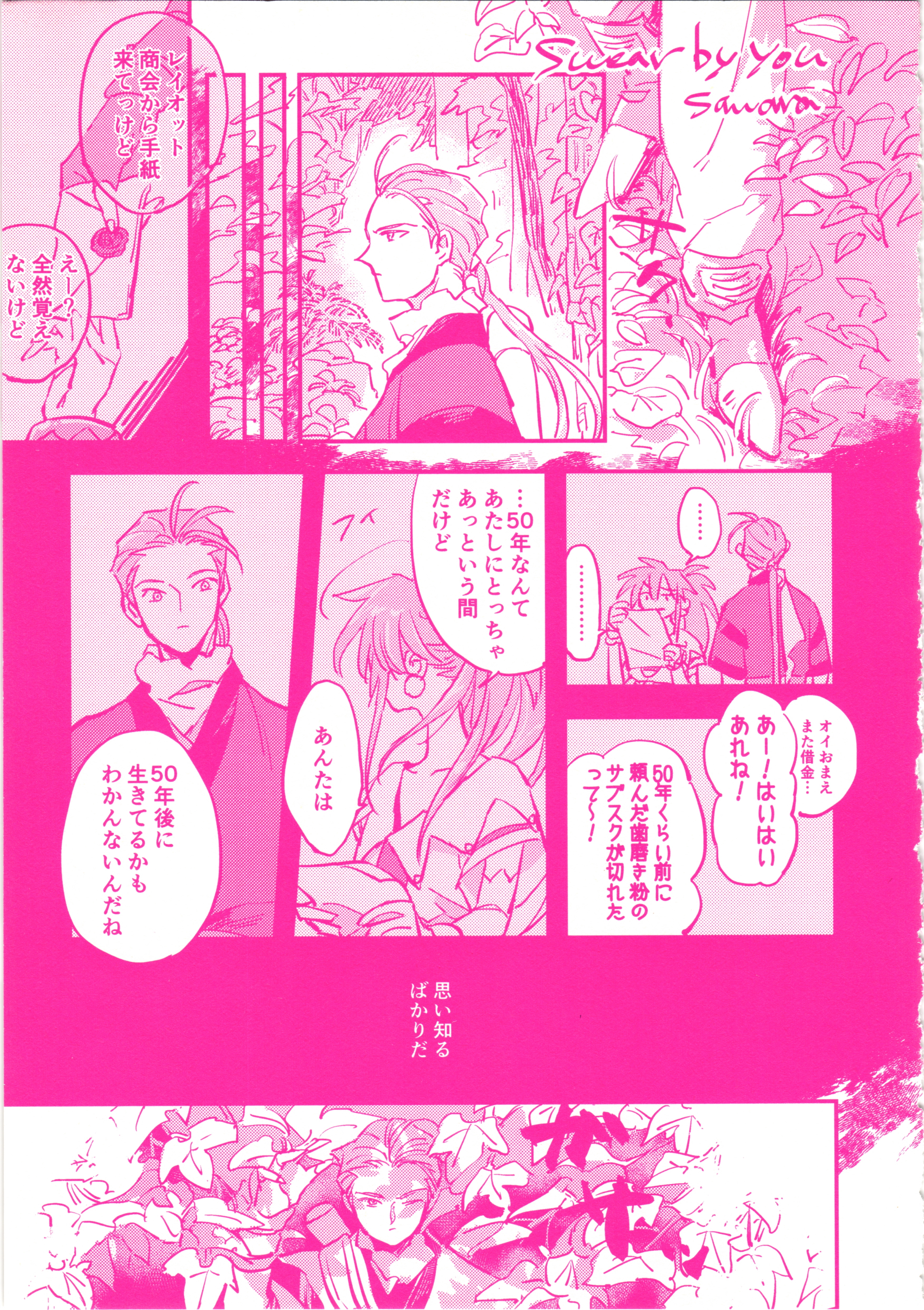
「うるせぇ、ばか」

チェスターはアーチェの一生がどれくらいなのかは分からないから、彼女がこの時代へ縛りつけられることのないようにと思ったこともなくはない。けれど、チェスターの方が我慢できなくなってしまった。いつだって、チェスターはアーチェを追いかけてしまう。無事再会できたときに変わらない姿で態度でいてくれたことにどれほど安堵しただろう。変わらないようで、変わっていて、どこにもいない、こんなに可愛い愛しい人を、チェスターは他に知らない。自分にとってかけがえのない人であり、また彼女にとって自分がそうであれたらと思ってしまった。

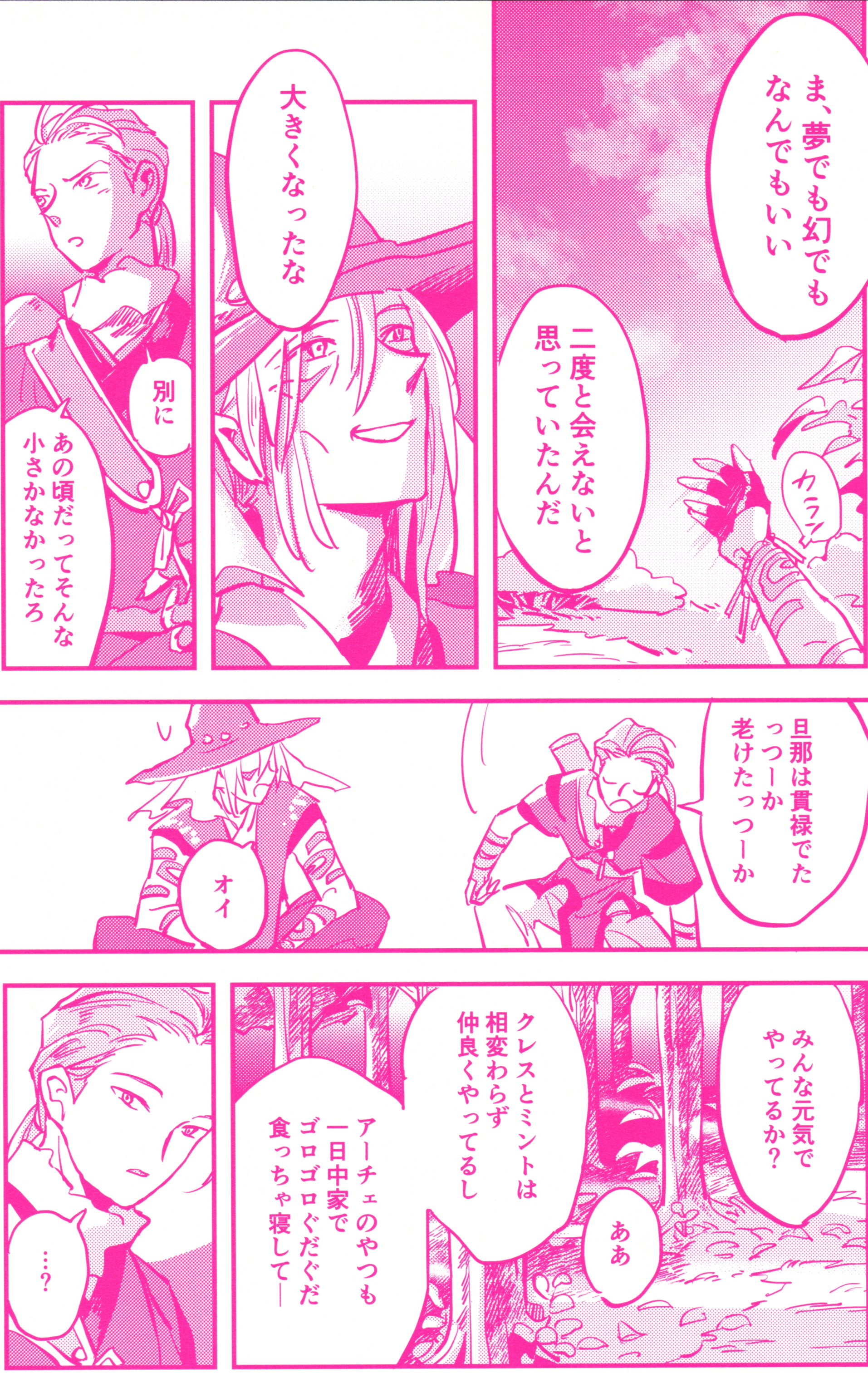
幾度と温もりを失くしたバークライト家に、この日家族が増えた。きっとまた、この暖炉の火は消えるのだろう。けれどだからこそ大切に思えるのだ。なるべく絶やさないように、寒い時にそっと寄り添えるように。

暖炉の中の薪がパチリと爆ぜる。胸を焦がすような温かさがその日の二人を包んでいた。

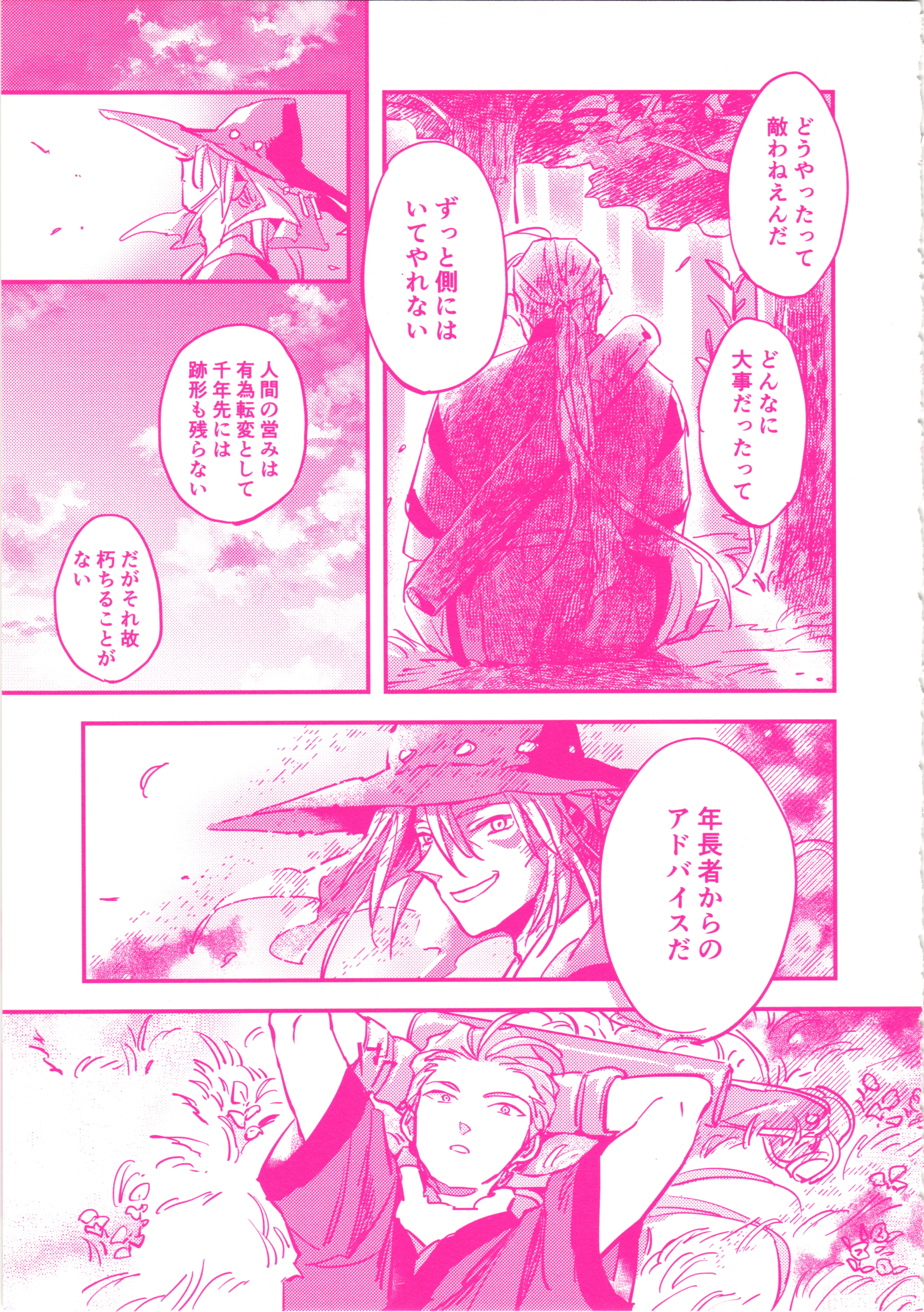
fin.

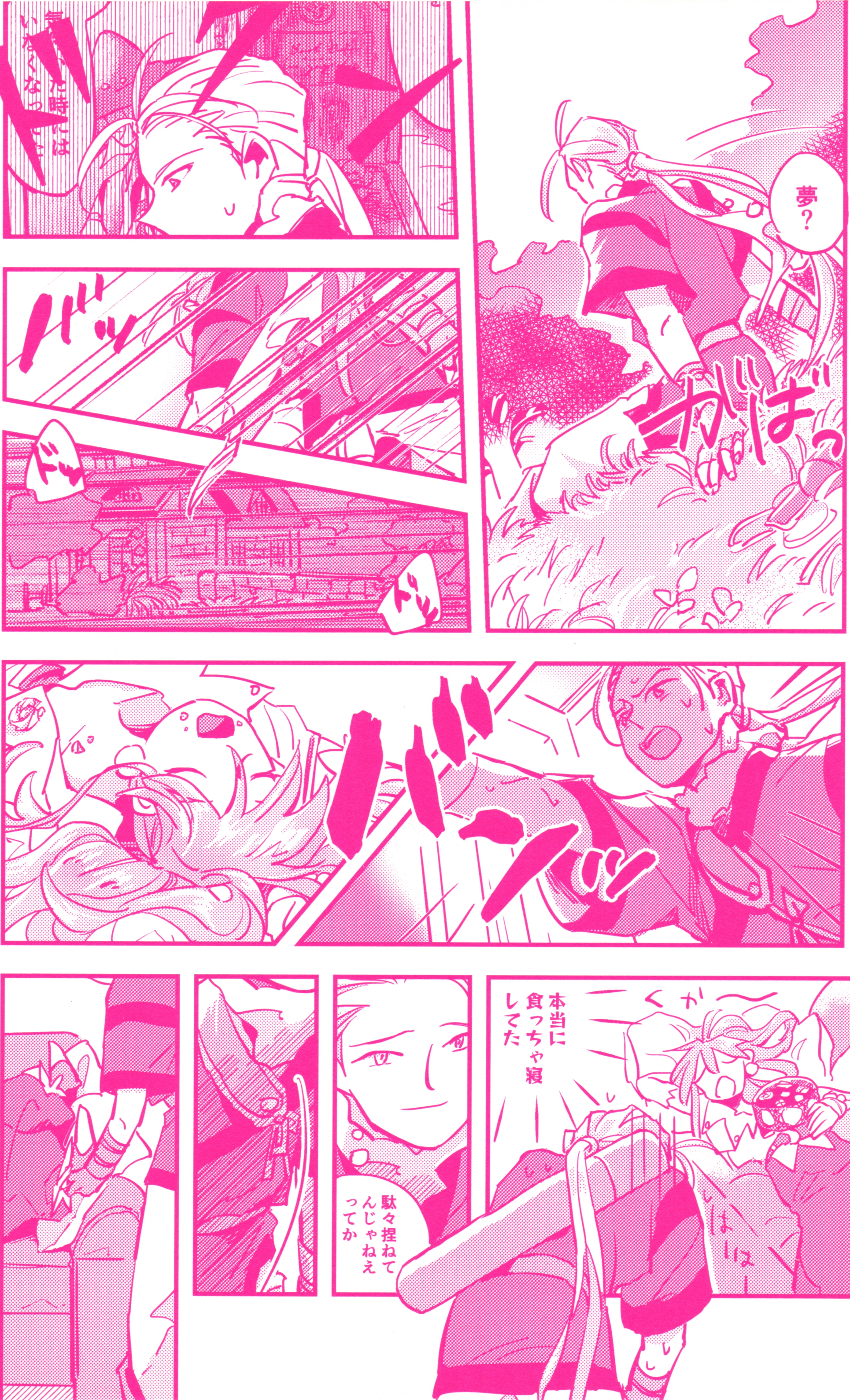

Swear by you
Sawara
ガサッ
レイオット商会から手紙来てっけど
えー？全然覚えてないけど
……
……
オイおまえまた借金…
あー！はいはいあれね！
50年くらい前に頼んだ歯磨き粉のサブスクが切れたって～！
…50年なんてあたしにとっちゃあっという間だけど
フイ
あんたは
50年後に生きてるかもわかんないんだね
思い知るばかりだ
ガサ

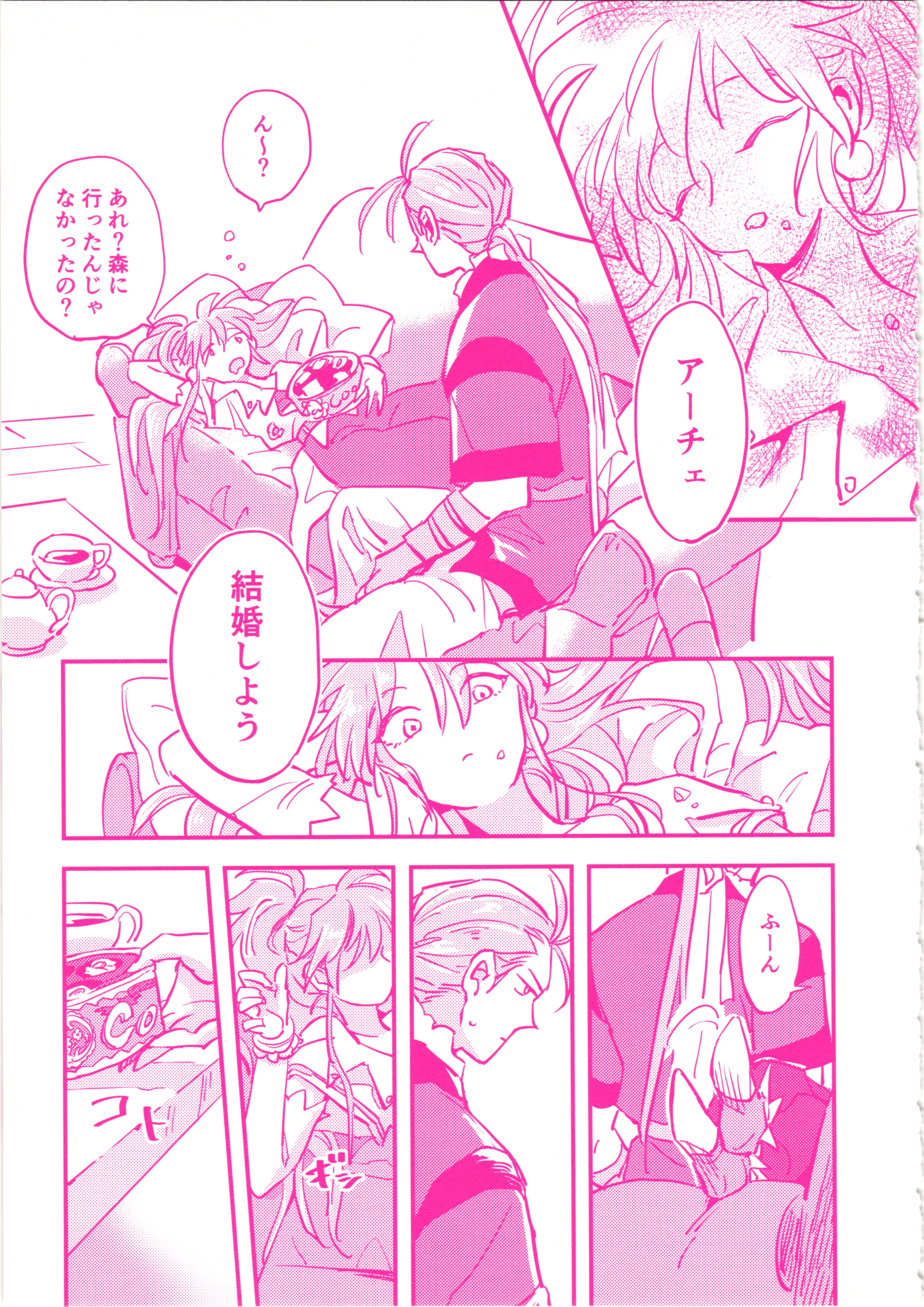
クラースの旦那!?
……驚いた
チェスターじゃないか
どういうことだよ
俺は南の森歩いてただけだぜ!?
まさか魔物の幻影!?
おいおい
南の森…?
もう私に召喚術は使えないんだぞ?
そうなのか?
魔王もいないのに時空の剣も召喚術も不要だろう?
そりゃそーかもしれないが

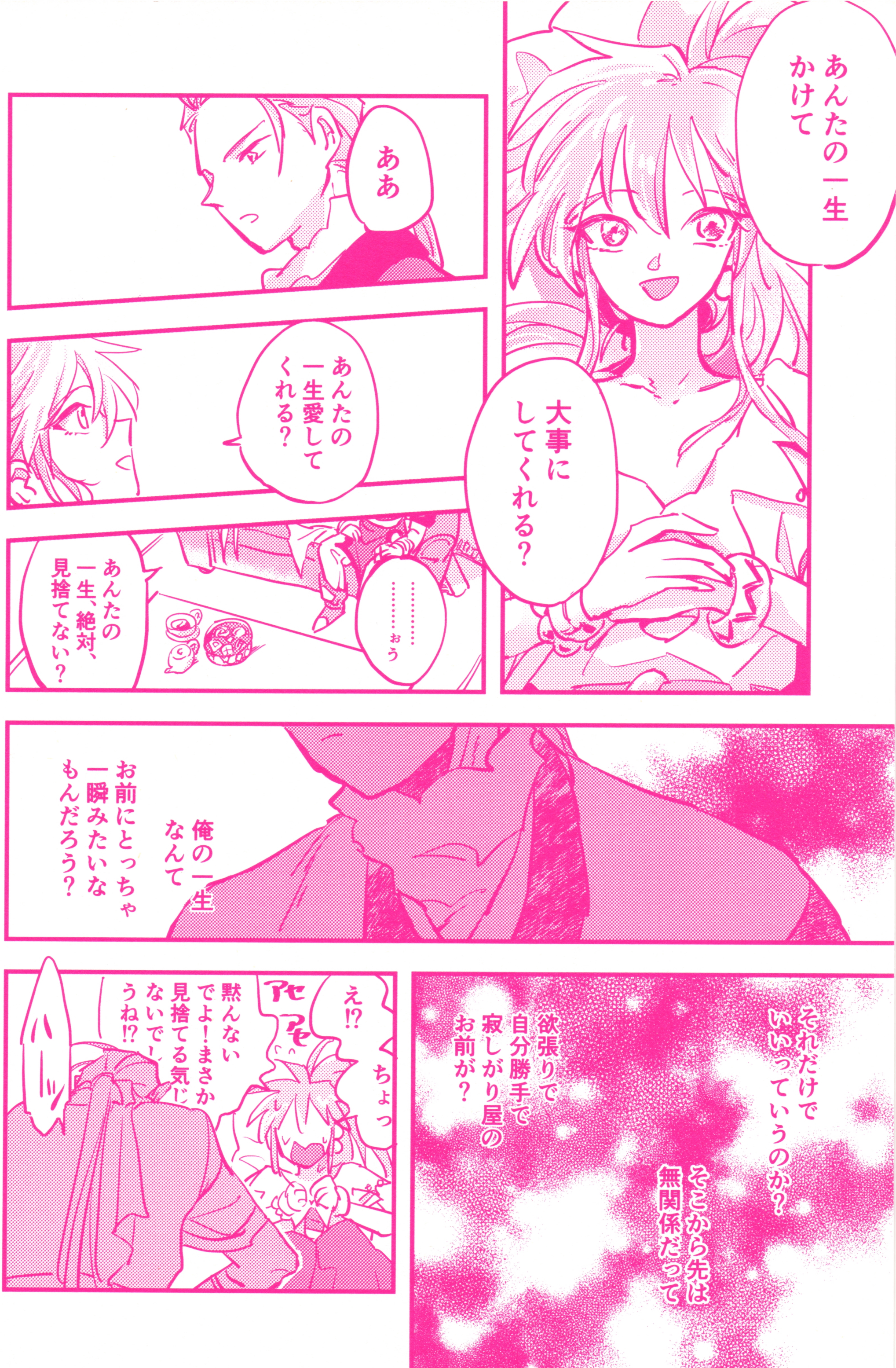

ま、夢でも幻でも
なんでもいい
二度と会えないと
思っていたんだ
カラン
大きくなったたな
別に
あの頃だってそんな
小さかなかったろ
旦那は貫禄でた
っつーか
老けたっつーか
オイ
みんな元気で
やってるか？
クレスとミントは
相変わらず
仲良くやってるし
アーチェのやつも
一日中家で
ゴロゴロぐだぐだ
食っちゃ寝して―
ああ
…？

ニヤ
仲良くやっているようだな
あ!?
ふふふ
あの喧嘩ばかりしていたお前たちがなあ
あ〜〜
あっもしや おまえさん
ハア!?
アーチェのことを考えていたんじゃないか?
なんでだよ!!
私もいま あの子のことを考えていたんだ
?
それでバートさんが私たちを
引き合わせてくれたのかもしれんと思ってな
…あいつは?
さあな 気付いた時にはいなくなってた
ぐしゃ
はぁ

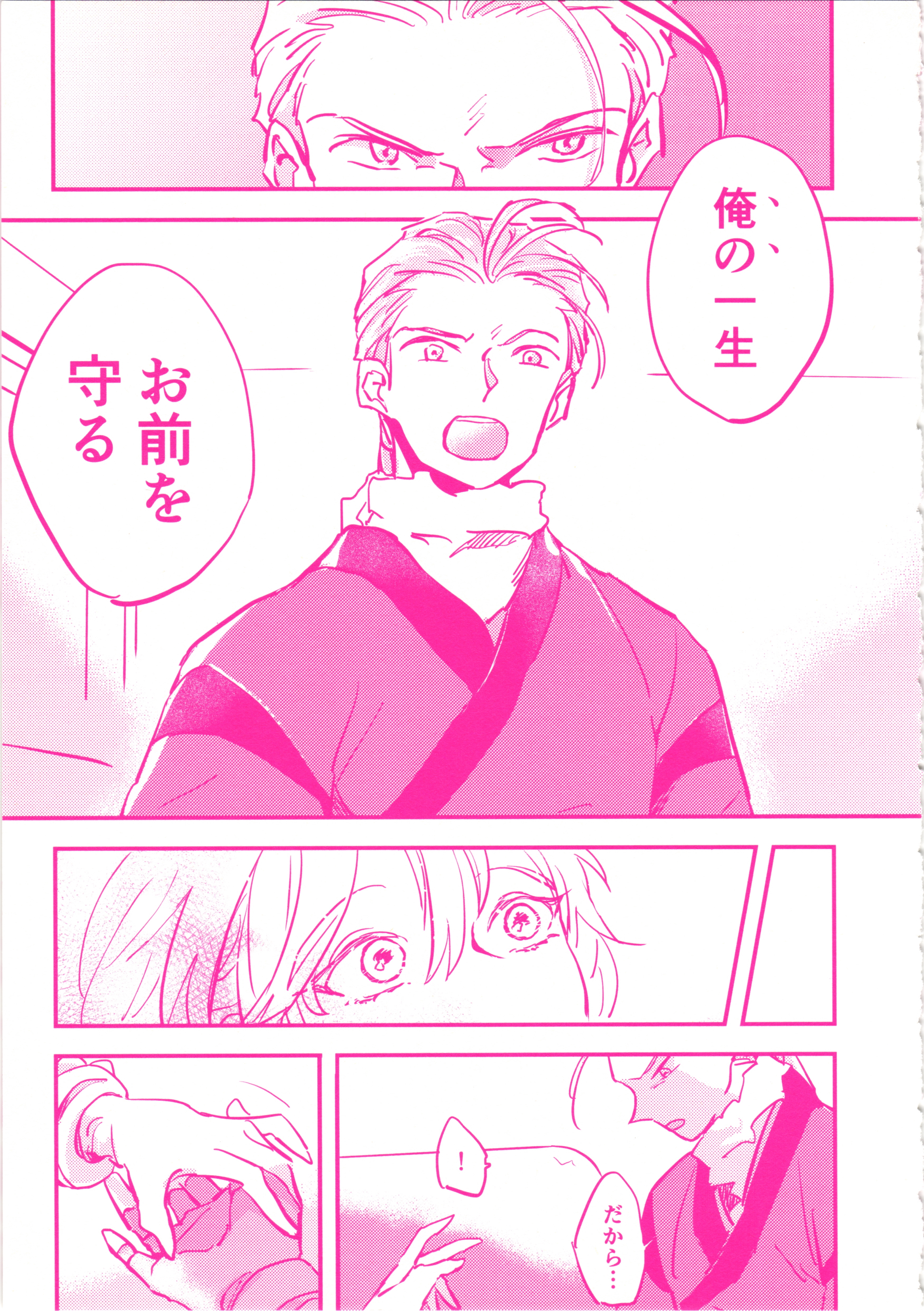

どうやったって敵わねえんだ
どんなに大事だったたって
ずっと側にはいてやれない
人間の営みは有為転変として千年先には跡形も残らない
だがそれ故朽ちることがない
年長者からのアドバイスだ


夢？
がばっ
た時には
いなくなっ
バッ
ドッ
ドッ
バッ
くかー
本当に食っちゃ寝してた
はは
駄々捏ねてんじゃねえってか

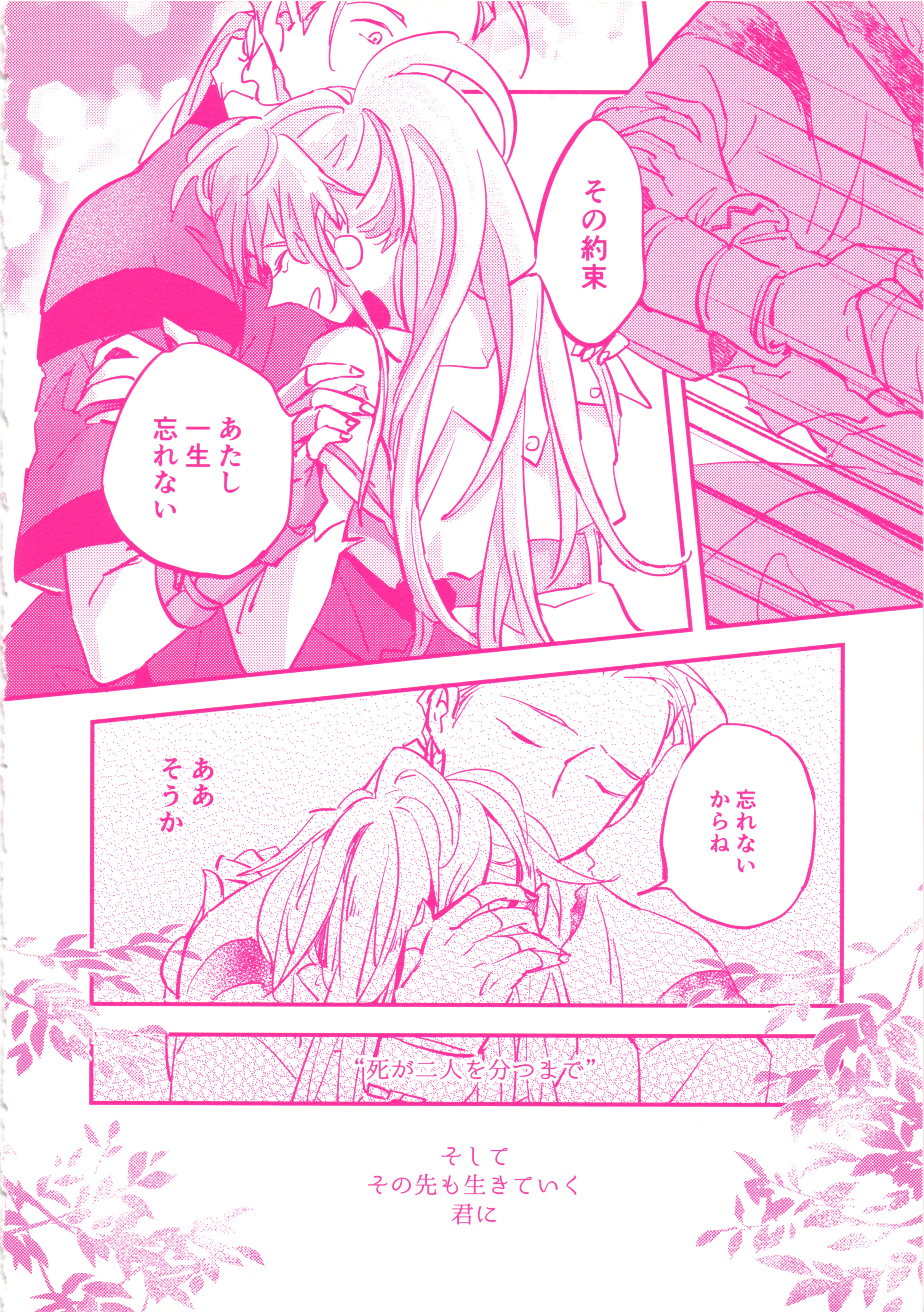

アーチェ
ん〜？
あれ？森に行ったんじゃなかったの？
結婚しよう
ふーん
コト



あんたの一生かけて
大事にしてくれる？
ああ
あんたの一生愛してくれる？
あんたの一生、絶対、見捨てない？
…………おう
俺の一生なんて
お前にとっちゃ一瞬みたいなもんだろう？
それだけでいいっていうのか？
そこから先は無関係だって
欲張りで自分勝手で寂しがり屋のお前が？
ちょっ
え!?
アセアセ
黙んないでよ！まさか見捨てる気じ
ないで
うね!?



俺の一生
お前を守る
!
だから…


その約束
あたし一生忘れない
忘れないからね
ああそうか
“死が二人を分つまで”
そして
その先も生きていく
君に

name　coro

Q チェスアーを好きになったきっかけは？

初プレイ時(SFC)は見た目、再プレイ時(PSP)は弱そうスキット

Qアーチェはチェスターのどこが好きだと思いますか？

言い訳しない真っ直ぐさと、自分のことを好きなところ？

Qチェスターはアーチェのどこが好きだと思いますか？

見た目と底抜けに明るい所

Q チェスターとアーチェの好きな
シーン/スキット/セリフを教えてください！

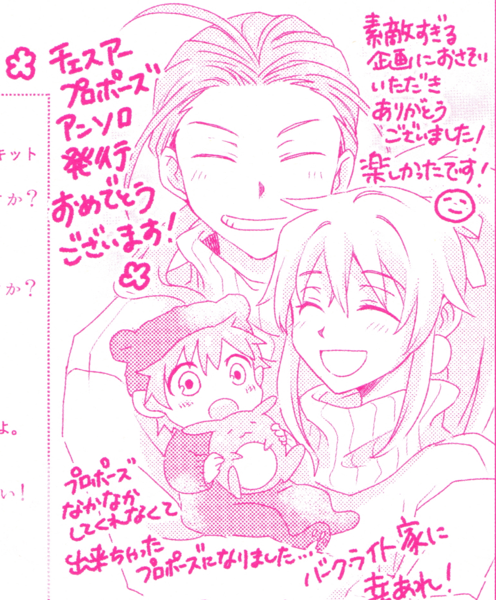
チェスターがすずちゃんに言った「あのお気楽な奴を見ろよ。
馬鹿だけど楽しそうだと思わないか？」って言う台詞。
アーチェの明るさにチェスターも救われてたのかな…

Q 今回の作品のチェスターの年齢を教えてください！

チェスター 27歳　アーチェ 127歳

Qチェスターとアーチェに一言どうぞ！

一生一緒にいてくれや…ファルケンも…



contact　@coro_dq

name　たかはる

Q チェスアーを好きになったきっかけは？

気が付いたら。

Qアーチェはチェスターのどこが好きだと思いますか？

二の腕。

Qチェスターはアーチェのどこが好きだと思いますか？

顔。声。

Q チェスターとアーチェの好きな
シーン/スキット/セリフを教えてください！

チェスター「なぁ、過去に戻ったらどうするんだ？」
アーチェ「せーせーする」
……から続く二人のやり取りが好きです。

Q 今回の作品のチェスターの年齢を教えてください！

22歳。

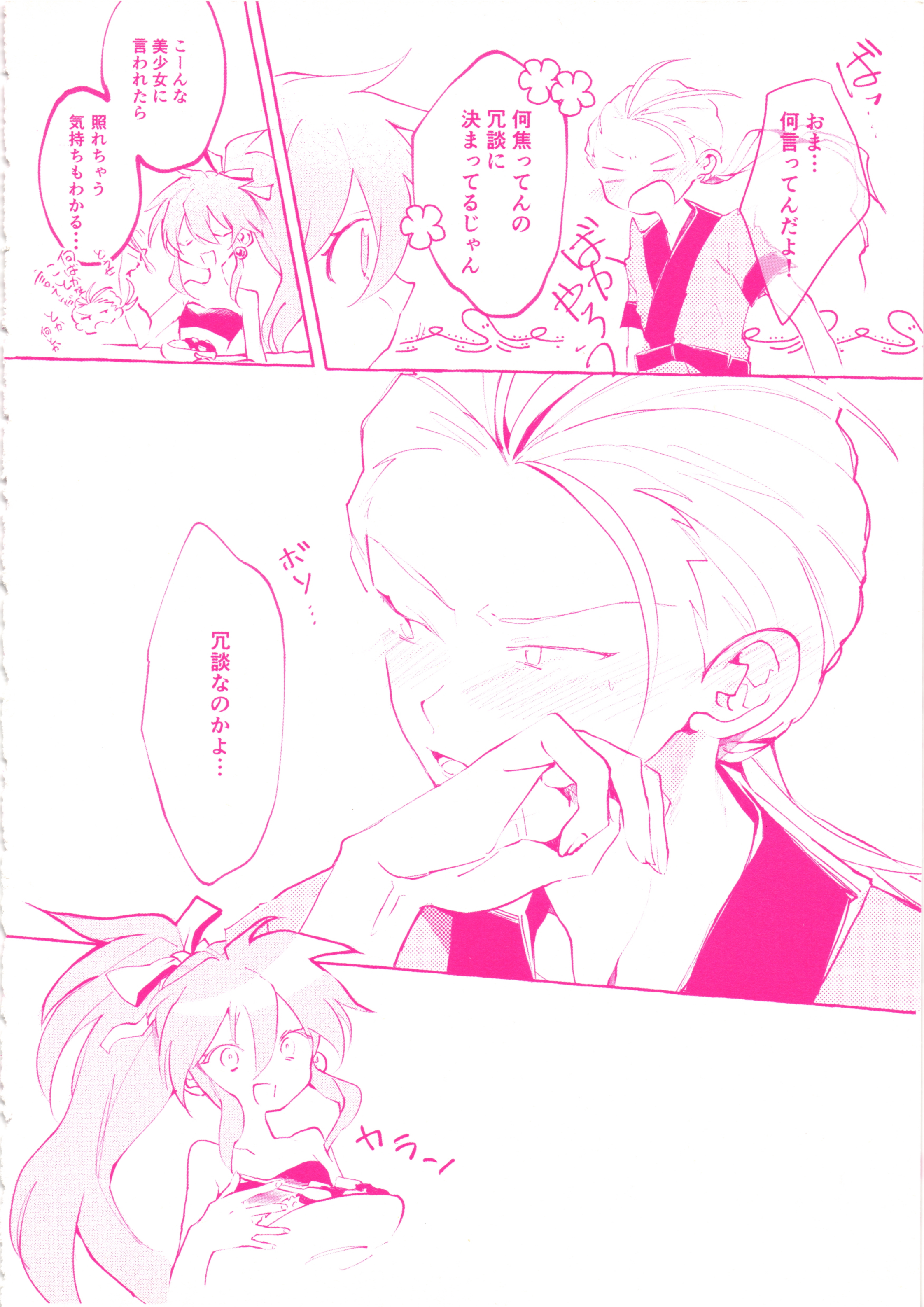
Qチェスターとアーチェに一言どうぞ！

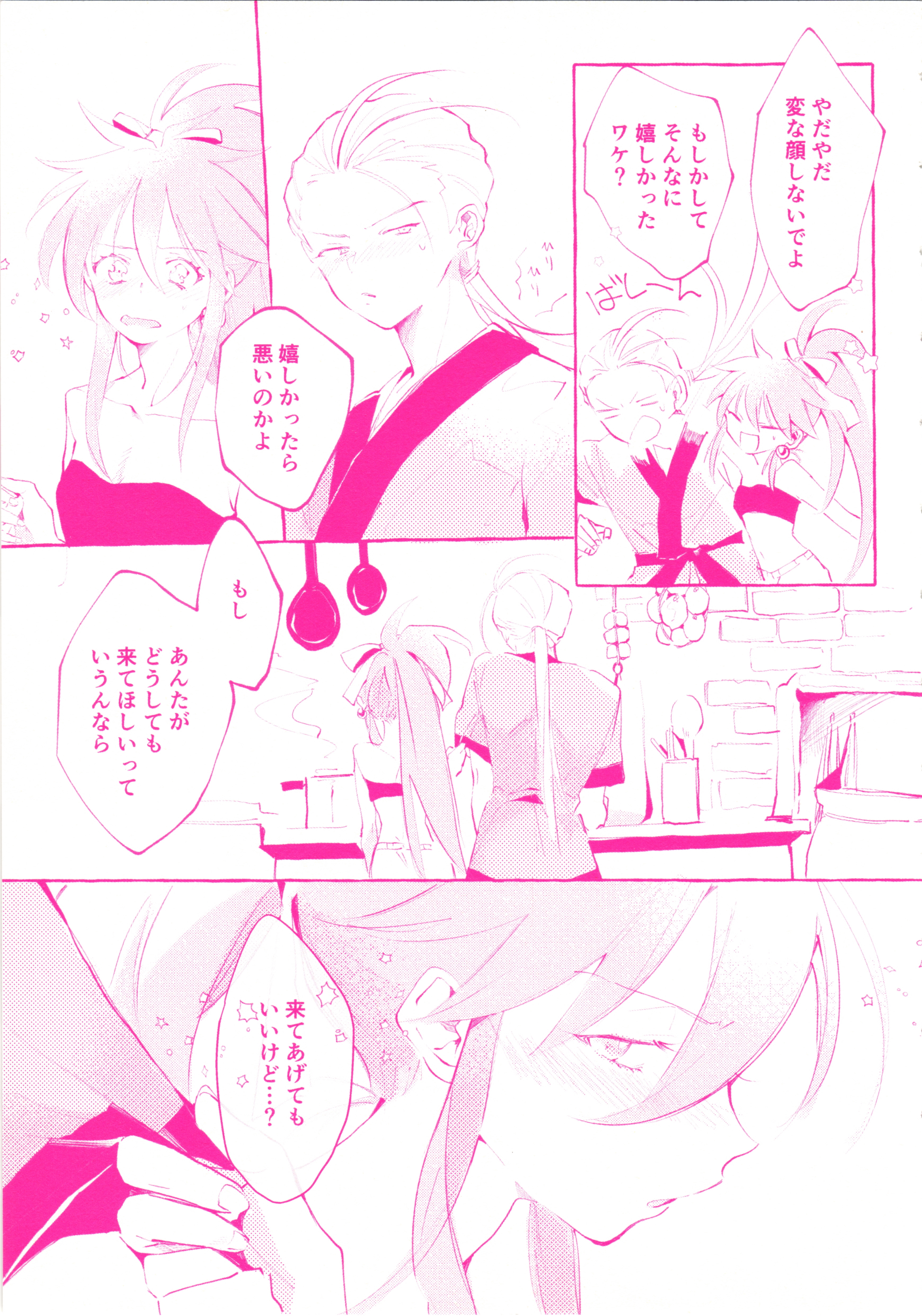
幸せになってくれよな～！

pixiv　15185059
contact twitter　@takaharu_ekaki

ほか ほか
やったーカレーだぁ
はいはい黙って食えよ
……あんたのご飯美味しいし家は綺麗だし
ぐつ ぐつ
ぐつ ぐつ
あたしあんたの家に来ちゃおうかなぁ

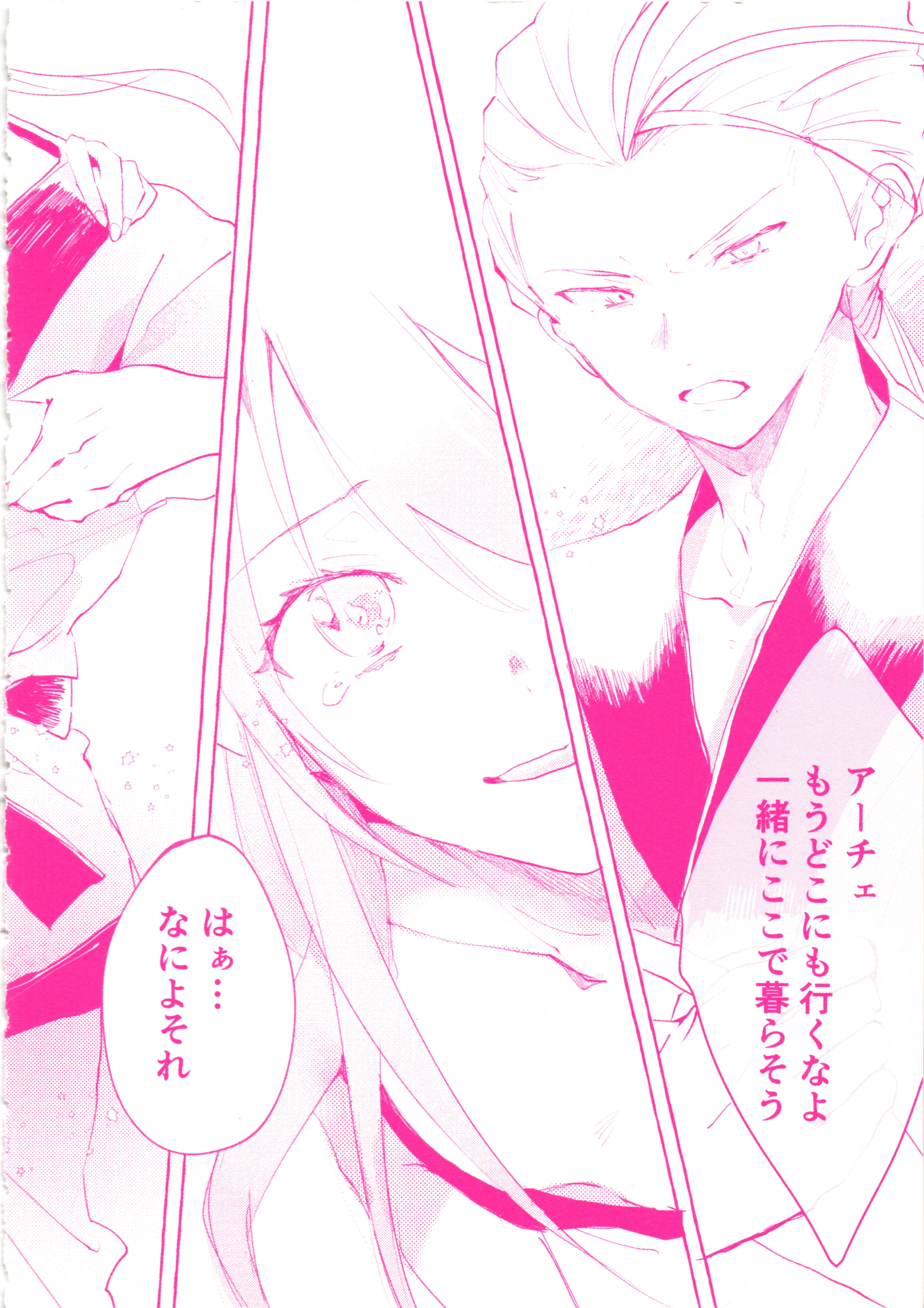
はあああぁ!?
くこみ


おま…何言ってんだよ！
何焦ってんの冗談に決まってるじゃん
こーんな美少女に言われたら照れちゃう気持ちもわかる…
ボソ…
冗談なのかよ…
ヤラ〜ノ


やだやだ変な顔しないでよ
もしかしてそんなに嬉しかったワケ？
ばし〜ん
嬉しかったら悪いのかよ
もし
あんたがどうしても来てほしいっていうんなら
来てあげてもいいけど…？

ぐっ
ばかやろう
俺は
必ずお前を
おいていくのに
そばにいろ
なんて言えねぇだろ

百年
あたしはあんたより時間があったの
なぁんにも考えてないとでも思ってる?
バカはどっちよ
あたしは楽しい思い出が沢山になるってだけだもん
ねえチェスター
これ以上は待ってあげらんないよ


アーチェ
もうどこにも行くなよ
一緒にここで暮らそう
はぁ…
なによそれ

しょうがないなぁ
あんたと
一緒にいたげるわよ!
おわり

name ぴいこ

Qチェスアーを好きになったきっかけは?
中学生という思春期まっ只中にPS版をプレイしてしまった
…からです。月並みですが最終決戦前夜の
アーリィの宿屋で…沼にドボンしました…!!

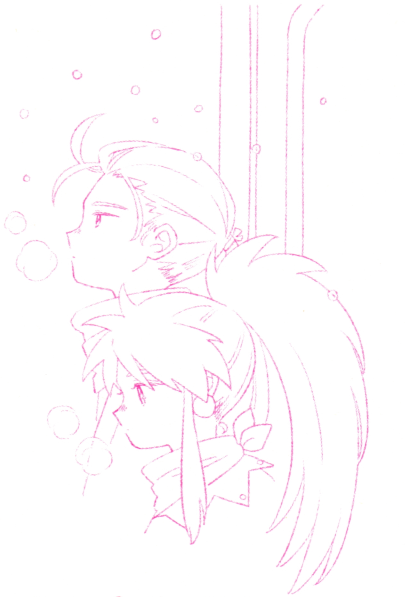
Qアーチェはチェスターのどこが好きだと思いますか?
自分のことを好いてくれてるところかな?
アーチェはいつか自分が独りになってしまうのを知っているので.

Qチェスターはアーチェのどこが好きだと思いますか?
全部!!と言いたい! だって一目惚れなんだもん。
可愛いところ・強いところ・賢いところ・そして孤独を知ってるところ.

Qチェスターとアーチェの好きなシーン/スキット/セリフを教えてください!
一番はやっぱりアーリィでの「だいたい、お前を初めて見た時から…」です♡ あと、過去に帰ったら…のスキットだいすき!!

Q今回の作品のチェスターの年齢を教えてください!
分かりやすいようにいつもの見た目にしましたが
20歳くらいです!!

Qチェスターとアーチェに一言どうぞ!
も――――何やってんの?早く結婚して!!
チェスター早くアーチェつかまえて!も――何やってんの?
幸せになってよ――――!!!!!



contact @pikooo0112

name あきも

チェスアープロポアンソロ発行!!
おめでとうございます!

Qチェスアーを好きになったきっかけは?
ケンカしつつもお互いを気になっている2人を見ているうちにいつの間にか見事にハマってました。

Qアーチェはチェスターのどこが好きだと思いますか?
努力家(修行シーンで一気に気になるアイツになったのかなと)

Qチェスターはアーチェのどこが好きだと思いますか?
まずは顔(一目見た時から…だもんね!)

Qチェスターとアーチェの好きなシーン/スキット/セリフを教えてください!
チェスアーのケンカから始まり、最後にクレスが「全く、チェスターはアーチェの事になるといつもああなんだから…」と言うやつ。あれ体験版のスキットでしたっけ?

Q今回の作品のチェスターの年齢を教えてください!
コアな質問! 20歳くらいですかね。

Qチェスターとアーチェに一言どうぞ!
一生幸せになってください!!

どこを開いてもチェスアーのプロポーズが見られる天才的なアンソロにお招きいただきありがとうございます。
今回喜びとワクワクと同時にどんな構図にしようかとても悩んでしまい、なんと3回程描き直し最終的に今回の王道な構図に落ち着きました。
王道最高!!

今回はアンソロのモチーフになったチューリップが描きたかったので持たせましたが、個人的にはチェスターは指輪もお花も何も準備せず、なんならプロポーズする気がない日常の中でポロッと言うのかなあなんて妄想しています。
アーチェから「あたしがずっと一緒にいてあげる」や「お嫁さんになったげる」と言う系も大いに想像出来、チェスアーの無限の可能性に他の執筆者様の作品が楽しみでなりません。

絵を描く気でいたのに文で埋まりました、流石はチェスアー。プロポーズおめでとう!!

contact Twitter @akimo_21

name フジオミです

Qチェスアーを好きになったきっかけは？

初めて2人が会った時の「な～んか弱え～」から
何かありそうだと引き込まれたのかもしれません

Qアーチェはチェスターのどこが好きだと思いますか？

ひみつ特訓の様子を見て、努力家なところとか、
対等にいてくれるところとか…… 好きなんじゃないかな～～ ……

Qチェスターはアーチェのどこが好きだと思いますか？

顔!!（笑） 一緒にさわげる元気なところとか、
ですかね!?

Qチェスターとアーチェの好きな
シーン/スキット/セリフを教えてください！

「桃色娘」「青色男」など内容がない言い合いを見せられるとたまりません
ドラマCD「パニックワールド（仮）」の夫婦漫才が大好きですね
OVAの樹の下のシーンやほうき2人乗りも好き…

Q今回の作品のチェスターの年齢を教えてください！

17～19とかそのへんだと思います… 補足はコチラ→

Qチェスターとアーチェに一言どうぞ！

家はいつ建てますか？

チェスアープロポーズアンソロジー
1000年先も愛してる
発行おめでとうございます!!

私が今回描いたチェスアーは、
現代に戻ってきて会いに行こうとなった時に
アーチェがなかなか見付からず、探しぬいてやっっっと
捕まえた時にチェスターがなんか言ってくれそうだな～
みたいなシーンです。
このひと言でなんだかんだ一生一緒にいるんじゃないか…な…!! という願望でした。

contact @fujiomi161（Twitterです）

name 八軒屋ねこ

Qチェスアーを好きになったきっかけは？

初対面でケンカをするのを見て、「あ、コレ好きだわ」と思いました。
その後のフェイスチャットや特訓イベントで、より沼にハマッていった感じです…

Qアーチェはチェスターのどこが好きだと思いますか？

コイツ、本当にあたしのこと好きなのか…？
本当に…？全然そんな感じしないんですけど….
あ、本当に好きなのかも。←このギャップ

Qチェスターはアーチェのどこが好きだと思いますか？

全部

Qチェスターとアーチェの好きな
シーン/スキット/セリフを教えてください！

強いて挙げるならば、
「なんか弱そう…」と言われて悔しくて
秘密特訓を始めるチェスターと、謝ろうとするアーチェですかね。上手く言えないところ含めて！

Q今回の作品のチェスターの年齢を教えてください！

EDの2年後くらいのイメージです。20才前後？

Qチェスターとアーチェに一言どうぞ！

仲の良いケンカをこれからも見せてください。
お幸せに～

最初、カラーイラストにするつもりでしたが、プロポーズの
イラストを描くならセリフも入れたいな～。
言われたアーチェのリアクションも入れたいな～。
ってことで、謎の1pまんがになりました。
描きたいシーンのみ描いたので、経緯はスッ飛ばしてます…
一応、捕促すると、お出かけ先で魔力が切れたアーチェが
足をくじいてチェスターにおんぶされている状況でした。

ア「ねえ退屈だから、おもしろい話してよ～」
チ「なんだよおもしろい話って…」
チ「・・・・・・」
チ「部屋は作った」
ア「はあ？」
チ「冬は寒いが着込めばなんとかなる。近くの森で狩れるイノシシは絶品だし、村のヤツらは皆いい奴らだ」
ア「・・・・」
チ「だから…」

みたいな経緯で補完してもらえれば…うれしいです。

チェスアーは公式にもウェディングイラストが公開されていて
はたして、どんなプロポーズだったのか!? 気になっていたので
今回、みなさんの考えるプロポーズを見るのがすごく楽しみです!!
素敵な企画にお誘いいただいた
sawaraさん、くこみさん、ありがとうございました。

contact Twitter：@toranekosan305

name　Sawara

Q チェスアーを好きになったきっかけは？
古き良きチェスアーのノリにニヤニヤしてたら
まさかの一目ボレだったので…かわいすぎ

Q アーチェはチェスターのどこが好きだと思いますか？
自分(アーチェ)のことをかまってくれるところ

Q チェスターはアーチェのどこが好きだと思いますか？
全部

Q チェスターとアーチェの好きな
シーン/スキット/セリフを教えてください！
「そんなんじゃ嫁のもらい手いないんじゃないか」って
チェスターがいうやつ。ねぇどんな気持ち？？？

Q 今回の作品のチェスターの年齢を教えてください！
25歳くらい？同棲して3〜4年のイメージ

Q チェスターとアーチェに一言どうぞ！
二人がどんな時間をすごしていくのか
たのしみです♡

チェスターは絶対ホレた女を守りたいタイプだと思うのですが、だとするとアーチェを選ぶことは自分のポリシーを曲げなければならないということ。その敗北をのみこむタイミングがあったんじゃないかな〜という妄想でした。
タイトルのSwear by〜は、ふつうGodが来るようなのですが、アーチェが1000年生きるとしたら、チェスターにとってアーチェに誓うことは神に誓うのと同じことだよな〜と思ってSwear by youとしました。

執筆者のみなさま
読者のみなさま
くこみさん
100万通りのチェスアー
プロポーズが見たい!!という
欲望にお付き合いいただき
ありがとうございました！

contact　twitter @sawara16012821

name　くこみ

Q チェスアーを好きになったきっかけは？
実はPixivでSawaraさんの作品を拝見して絶対好きなやつと思い原作をプレイして確信を得て大好きになりました
→一目見た時から〜でおちました。まじかぁ…ひぇ…

Q アーチェはチェスターのどこが好きだと思いますか？
努力家なところ、でも1番は自分(アーチェ)の事が好きなとこ
(ってわかってからチェスターの良い所が見えてきてか、よく見えてそう)
100年後は優しいところ、情に厚い所

Q チェスターはアーチェのどこが好きだと思いますか？
すべて
顔(見た目)から入り楽しく生きるアーチェに沼った感じがする

Q チェスターとアーチェの好きな
シーン/スキット/セリフを教えてください！
アーリィとEDの2人の会話を見た後の
・過去に戻ったら〜→せいせいする
・すずちゃんに「バカだけど楽しそう」っていうスキット
・ゆめみるおとめの結婚するなら〜 がめちゃくちゃ好くな…と思いましたが2人並んでるだけで戦闘中も嬉しくなってました

Q 今回の作品のチェスターの年齢を教えてください！
20才

Q チェスターとアーチェに一言どうぞ！
それぞれの一生幸せでいてね

アンソロ主催
させて頂き
ありがとうございます

自分の出しうる一番のhappyな話を選んだのですが
アーチェがタイミングをつくってあげる
話にしようとは決めてました。

大事な人に追いていかれるつらさを知ってる
チェスターがアーチェと一緒になる選択をするって
自分から言っていいものと思うんだろうか？と
とはいえ本心を押し殺す器用さはないチェスターが好き

チェスアーはどんなプロポーズも
「あり…良…」となってしまいます
何度も考えたいし描きたいし読みたい!!

執筆者の皆様 手に取って下さった皆様 Sawaraさん
本当にありがとうございます♡ー
本も経験も宝にします！

contact　@kukomi56 (Twitter)

チェスアープロポーズアンソロジー
アンケート集計結果

チェスアー世論調査

2022年10月6日～12月25日実施

チェスアーのプロポーズに関する10の質問を実施！
あなたの回答は多数派？少数派？
新たな可能性が見つかるかも！？

素直じゃないところ

なんだかんだで
優しいところ

顔www

拗ねたような口

自分を好きで
いてくれるところ

クレスみたいに
キラキラしてないところ

意地っ張りで、努力家で
自分を見る目に
嘘がないところ

愚直で真面目で誠実な人柄

シンプルに話しやすいところ！
100年でも話していたい

"なんだかんだ"がつくの
好きです笑

意外と？見た目のことも多い印象

若干悪口が混ざって
いるような…笑

Q4アーチェはチェスターのどこが好き？

アーチェはいつチェスターを好きに
なったのかも気になる所ですね笑

なんでも言ってくるところ

うるせーけどかわいいし
明るいし本当は
弱いところがあって
ほっとけない

前向きなところ
実は励まされてる

顔

素直じゃないところ

全部

意外に女の子らしい
ところ

太陽よりも眩しい笑顔

初めて会った時に好きになっちゃったから
本人もよく分かってない

一目惚れなのでもうどうしようもない

Q5チェスターはアーチェのどこが好き？

公式一目惚れのその先の
解釈ありがたい！

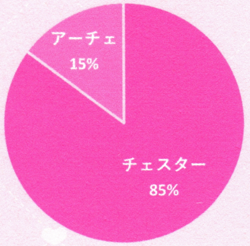
一目惚れは辛いですね…！
「顔」「全部」は複数回答ありました

「素直じゃないところ」は
喧嘩両成敗ですね！

チェスアー世論調査

アンケート結果を大公開！2022年10月6日～12月25日実施

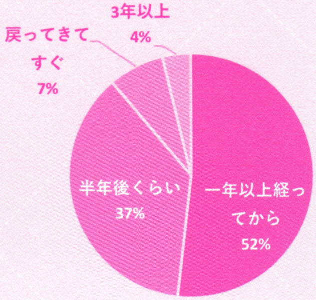
Q1どちらからプロポーズした？



堂々チェスター8割超！

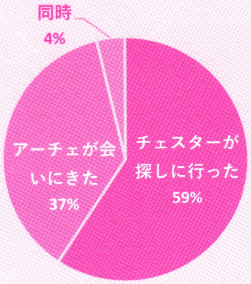
たくさんの回答ありがとうございました！
全て紹介したかったのですが、
紙幅の関係上、抜粋となっています。
100万通りのチェスアープロポーズをお楽しみください♥

Q7再会までどのくらい？



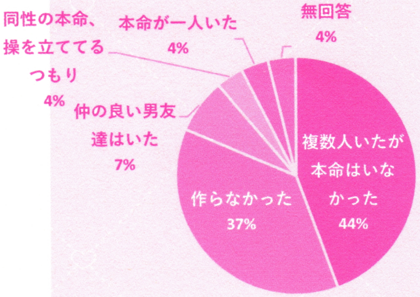
意外に戻ってきてすぐは少ない結果に…

Q8どちらから会いに行った？



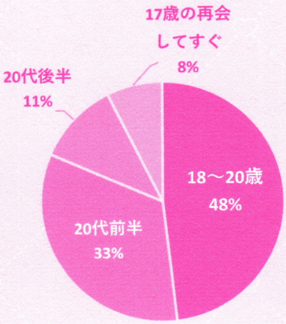
Q1と比べるとアーチェ派も多いです！

Q9再会までの100年の間、アーチェに恋人はいた？



恋人いた/いないでみると、若干いた派が多い！

Q10プロポーズはチェスターが何歳のとき？



寿命を考えるとはよ結婚しろ！と思います

「お前の人生少しだけくれ」

ユグドラシルの樹

「結婚してくれ」（シンプルで素直な言葉であればなんでも）

チェスターの家

「だから俺が一緒に居てやるつってんだよ!!」

トーティス

「もうどこにも行くなよ　俺のそばにいろ」

チェスターの家

「俺たち…その、結婚するか……？」

トーティス

「俺たち…結婚しないか？…今の生活を変えたいって
わけじゃねえんだ…ただ俺はおまえと家族になりたいと思ってる」

バートさんの墓前

「俺と一緒にいてくれよ！こらからもお前の不味い飯食ってやるからさ」

トーティス

「お前が何度出て行ったって、どれだけ高くを飛んでたって、俺が見つけてやるから…一緒に帰ろう。」
※アーチェは木の上にいるので…。結婚しようというストレートな言葉は出てこない気がする
（出てきても良～～～!!）

ユミルの森!!アーチェは何かあった時はユミルの森の上空を飛ぶと思う。一緒に過ごし始めてもしょっちゅうアーチェは出ていってしまうと思うので、探しに行った先でプロポーズしてほしいです!!

「結婚してくれ」

100年の時間を生き、これからチェスターが死んだ後も生き続けることになるアーチェがチェスターとの関係性に悩むフェーズが必ずあると思っていて、チェスターを繋ぎ止めておいて良いのだろうかという罪悪感と、もし一緒になった後また一人残される可能性を考えて身を引こうと考え、トーティスでの明るめ別れ話の流れでチェスターからのプロポーズだと思います！！妄想ですが！

「ここがお前の家だ」

チェスターの家

「結婚しようぜ」

チェスターの家

「結婚しよーぜ、俺たち」

チェスターの家

「今日からここが俺とお前の家だ。
いつでも帰ってこいよ。
だからその…俺の奥さんになってくれ。」

チェスターの家

「麻婆カレーの作り方を教えてやる」

アミィの墓前

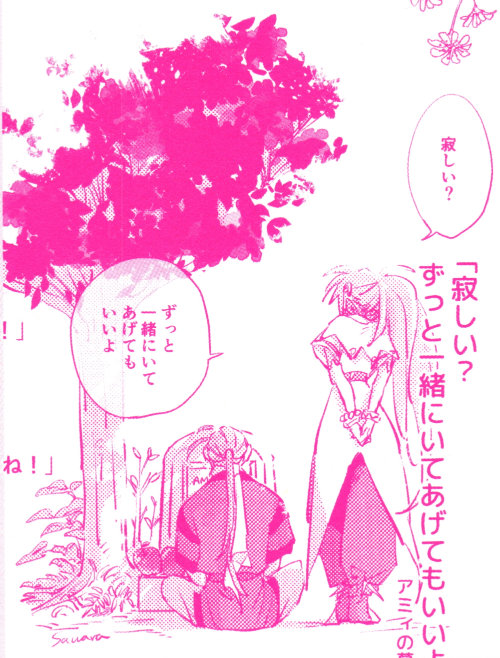
「俺の隣なら空いてるぜ」

トーティス

Q2プロポーズの言葉／Q3時間場所は？

From Arche

「あんたのお嫁さんになったげるって、言ってんの！」
メイプル橋の上！



「寂しい？ずっと一緒にいてあげてもいいよ」
アミィの墓前

「待ったんだからその分だけ幸せにしてよね！」
的なニュアンスの言葉な気がします…！
(これは完全に妄想なんですが)2人で
一緒に旅に出てる最中に乗った船の上

「そんなに文句言うなら、毎日ご飯作ってよね！」
チェスターの家

From Chester

(口喧嘩した勢いのまま)「いいから！大人しく俺の隣にいろ！」
ケンカしてぴゅーっと箒で飛んでいったアーチェを追いかけて、トーティスから遠くない岩場や木々の影に隠れたアーチェを見つけ出してプロポーズ(長くてすみません！)

「ここをお前の居場所にすればいい。毎日ここに帰って来ればいい。 喧嘩する相手のいない時代って、案外つまらねえもんだぜ。」
「〜〜〜〜ッ！素直に一緒にいて欲しいって言いなさいよ！」のアーチェと、
その後一緒にはにかみ合う二人も居ます。
チェスターの家

「…もう離れたくないから、お前を悲しませたくないから結婚してほしいんだ」
ローンヴァレイ

「アーチェ、結婚しよう」（ストレートなプロポーズが願望です！）
同棲して1年後くらい（チェスターが19、20才くらい）に、チェスターの家でプロポーズが希望

「いいから一緒にいろ！」
チェスターの家

「お前のことが好きだからだよ！」と喧嘩中に
トーティス

やはり喧嘩中のプロポーズが
多いですね。「バカ」聞かせてくれ♥

※回答いただいた回答の中からランダムで主催がイラストを描かせていただきました。

自由記入欄に寄せられたコメントが最高なので見て

アーリィでの「初めて見た時から…」というチェスターの台詞に幼い心を撃ち抜かれた者です。学生時代、心理学の授業で「印象がプラスから始まるよりマイナスから始まった恋愛の方が好きの気持ちが大きくなる」という話を聞いて「チェスアー」を理解しました。昔は夢は終わらないの歌詞で「二度と会えないなら、言うよ」がめっちゃチェスアー!!と思っていましたが、大人になってからアーチェの場合は「二度と会えないなら、言わない」かもしれないなと思うように。だからチェスターが頑張って欲しいんです。だって初めて見た時から好きなんだよね!?チェスター!!いつも飛んでいってしまうアーチェを必死に捕まえて!! 時を超え、孤独を経て、また孤独に戻るとしても、アーチェの心が寂しさよりも愛で満たされていますように。結婚おめでとう！！！！！！

アンソロの発行おめでとうございます！まさか今の世にこんな素敵な企画が立ち上がるなんて一体誰が予想したんでしょう！？今って果たしてアセリア歴何年？？何はともあれこうして2人の夢のようなお話が読めるなんて素晴らしすぎます…！きっとチェスアー推しのファルケンが手に取ったら未来永劫語り継がれる事間違いないでしょう…！アンソロの頒布心より楽しみにしています！

チェスアーはクレミンが結婚してから進展すると思ってます。クレミンが落ち着いたから自分たちも落ち着こうぜ的な。頑張ってチェスター！

素敵な企画立ち上げおめでとうございます！とても応援しております！Q9の質問、秀逸過ぎませんか…。あの問いだけで死ぬほど悩みました…このパターンと、このパターンと…って色んな光景が浮かんできてもうそれ考えてるだけでめちゃくちゃ楽しかったです…！こんな楽しいアンケートも設置していただいてありがとうございます！チェスアー結婚してくれ～！！

夢のような企画を本当にありがとうございます！この時代にたくさんの方のチェスアーを浴びられることに感謝し過ぎて情緒がぐちゃぐちゃです。ギャグもラブコメもシリアスも似合っちゃうチェスアー永遠なれ！一生痴話喧嘩してろ！

理由なんて特にいらないからただただ穏やかで幸せな時を過ごしてほしい

チェスターから告白を選択しましたが、やんや言いながら2人で生活をしていて、ある日の昼食中に「なあ、結婚…しようぜ」「へ？」「だから、今こうやって飯食ってる時間を、だな、その…」「なにそれ。昨日から変だと思ったらそんなこと考えてたの？お子ちゃま～！」「お前！」「言葉にしなくったって、あたしはそのつもりだったけど？」「おまえ…」「でも、言ってくれてうれし」何て言いながら木漏れ日のなかで穏やかにエッグヴェネディクトのクレープを食べていて欲しいです。アンソロジー、たのしみです！！！

もはやアンケート結果だけでアンソロになるよ、、エッグヴェネディクト最高！

Q6あなたが思うチェスアーのいいところ/可愛いところ/好きなところ

・王道喧嘩ップルかと思いきや、寿命差で同じ終着点はなく、本編後の想像を掻き立てられるところ。

お互いがお互いに振り回されているところ

お互い他の人には見せない表情を見せていることに気付いていないところ

ケンカップルだけに、喧嘩しているときがやはり1番可愛いです。

ケンカップル可愛い♡100年後に再会して子供がいることがなんともいえず好きです！！

喧嘩してもくっついて寝るところ（幻覚を見ました）

チェスターにとっては一瞬の再会が、アーチェにとっては100年の時間が経っているというシチュエーションやばいたまらないです。チェスターの少し衝動的な気持ちと、100年しっかり熟したアーチェからの気持ちの違いの擦り合わせ！最高すぎる。どうでもいいことはストレートに言い合えるのに、肝心なところは口にしないところ

なかなか本音を言えないところ

何だかんだ喧嘩しつつも精神的な繋がりが強いんだなって思わせてくれる所と種族の差を感じさせない関係な所と100年先でも愛し合ってる所互いを大事に重いながらやんや言い合って賑やかなところ。自分達が大切だと思った人を大事に思えるところ。

何十年経っても、2人の関係性とその魅力を(回答者が)変わらずに褪せずに思い出せるところ。素直になれないところと、たまに素直になりすぎて照れあってるところ。チェスターだけはアーチェの料理を罰ゲームだと思ってないところ。ピンクと水色なところ。明るいだけでなく儚さもあるところ。アーチェが実際に150年待っていたところ。アーチェ単体もチェスター単体も大好きで、チェスアーはもっと大好き。

喜怒哀楽がはっきりしていて、今を生きてる感じがいいですね

種族の差があるのにそれを感じさせないただの可愛いカップルなのに、そこを飲み込んでも一緒にいると決めた絆があるところ。運命感がすごくあってチェスアーはすごい…。一緒にいるだけで可愛い。

色合いがキキララでかわいい♡あとやっぱり「最初に会った時から…」が良すぎて震える

水色とピンクは最強

全部

並んだ時のカラーが可愛すぎて天才。一歩歩けば喧嘩する、みたいなテンポの良さが好き。暖かい目で見守ってくれる仲間がいるところも、別れる悲しさから逃れられない運命なところも、それでもお互い好きな気持ちが上回るところが好き!!

冒険中の口を開けばケンカばかり（なのにチェスターはアーチェのことよく見てる）なところ

口喧嘩が耐えないのかわいい。

わかりみ深く、全てを掲載できなかったのが誠に遺憾です…幻覚もっと詳しく教えて…

CHESTER ✕ ARCHE PROPOSAL ANTHOLOGY

A Thousand Years

-AC.4304-

Chester Barklight
&
Arche Klaine

proposal anthology
colophon

SUN

23 | 02 | 12

TALES LINK 23

発行責任者　くこみ（KLMR）
sawara（鯖とトルコ）
印刷所　大阪印刷株式会社
連絡先　negaile02@yahoo.co.jp(くこみ)

この本は個人による非公式二次創作作品であり、原作者・出版社とは一切関係ありません。無断転写・転載・複写・転用・web上へのアップロード、ネットオークションなどの転売行為は一切禁止いたします。
処分の際には一般の方の目に触れないようにお願いします。

あきも
フジオミ
八軒屋ねこ
ぴいこ
森野きこ
とおい
山田　ちう
栗缶
みずか
ゆうみ
coro
ホタルユキ
mimo
貴陽
こもも
たかはる
まぎ子
ゆ
生春巻き
sawara
くこみ

A Thousand Years

TALES OF PHANTASIA
Unofficial fanbook
2023.02.12